ナヴァーイー（ミール・アリーシール）の社会観

——*Maḥbūb al-qulūb* 第1章日本語訳（付.ローマ字転写校訂テキスト）——

久保一之

はじめに

史上最も名高いトルコ詩人ナヴァーイー（筆名Navāyī：1441-1501）は，チャガタイ・トルコ文学[1]，すなわち中央アジアのトルコ古典文学を確立したばかりでなく，ティムール朝スルターン・フサイン・ミールザー（Sulṭān Ḥusayn Mīrzā：在位1469, 1470-1506）のヘラート宮廷における有力者，ミール・アリーシール（正式名Amīr Niẓām al-dīn ʻAlī-šīrに基づく通り名）としても，史上に大きな足跡を残した。建設活動，学芸保護，慈善活動，弱者保護を目的とする社会政策実現の努力，王族間の紛争の調停など，その活動は多岐にわたる[2]。

果たしてナヴァーイーは，いかなる社会を理想として，このような活動を展開したのであろうか。また，当時の社会は，彼の目にどう映っていたのであろうか。この問題に関しては，当時広まっていたイスラーム神秘主義の一派，ナクシュバンディーヤの影響を考慮しなければならないが[3]，まずはナヴァーイー自身の言葉に耳を傾けてみる必要があろう。

ナヴァーイーは死（1501年1月3日）の直前の1500年7月末以降に，いわば遺言とも言える教訓書*Maḥbūb al-qulūb*（[人々の] 心に愛されるもの）を書き上げた。この散

---

[1] チャガタイ・トルコ語（あるいはチャガタイ語）文献については，我が国でも間野英二・濱田正美・菅原睦の諸氏によって，一連の優れた研究成果が発表されている。

[2] ナヴァーイーの学芸保護活動については 久保 1990，ヘラート宮廷における位置付けや役割については 久保 1997を参照されたい。

[3] ナクシュバンディーヤの著名なシャイフたちとナヴァーイーとの関係については，ウルンバーエフ（久保訳）1997およびGross & Urunbaev 2002を参照されたい。なお，ティムール朝期のナクシュバンディーヤについては，我が国でも川本正知氏による一連の研究成果を参照できる。

文作品の第1章において，ナヴァーイーは，当時の様々な地位・官職・職業・社会集団について，短いながらも鋭い分析と率直な批判を記している。その内容は上述の問題に関して，きわめて重要な資料を提供している[4]。

本稿は，このナヴァーイー最後の著作*Maḥbūb al-qulūb*第1章の日本語訳発表を第1の目的とするものである。翻訳に際して，既刊のアラビア文字テキスト（MQ/K）と現代ウズベク語式キリル文字テキスト（MQ/U^2）が，ともに十分なものではないことが判明したので[5]，写本3点のマイクロフィルムを取り寄せ，うち1つの写本（MQ/M）を底本として新たに校訂テキストを作成した。本稿の日本語訳はこの校訂テキストに基づいているので，日本語訳だけでなく校訂テキストも「付.ローマ字転写校訂テキスト」と題して本稿に収載した。これによって，語彙・文体等，晩年のナヴァーイーの言語，ひいてはティムール朝ルネサンス期のチャガタイ・トルコ語の特徴を知るための，貴重な資料を提供できるであろう。これが本稿第2の目的である。

翻訳の前に，以下，まずナヴァーイーの作品に対する評価の問題に触れ，これをふまえて*Maḥbūb al-qulūb*の内容と特徴を概観し，この書の解題としたい。

1 ナヴァーイーの作品に対する評価

現在，ナヴァーイーの作品に対する国際学界の評価は，次のサブテルニー（M.E. Subtelny）による文章［*EI*^{2}：VII, 91］に代表されると言ってよいであろう。

ナヴァーイーの作品の，全てのトルコ系民族とトルコ系言語に対する影響力には，

---

[4] 特に*Maḥbūb al-qulūb*を取り上げた研究はほとんど見当たらないが，後述MQ/KとMQ/Rに基づいて第1章の内容を概観したMukminova 1995がある。また，ナヴァーイーの理想をその著作から広く紹介したものに，ザヒードフの研究（*Захидов, В. Ю.* Мир идей и образов Алишера Навои. Ташкент, 1961）があり（筆者未見），Muminov & Hairullaev (eds.) 1977の第3章第4節［211-238］がこれに基づいている。

[5] 後掲「付.ローマ字転写校訂テキスト」の「凡例」中の解説を参照されたい。ほかにブハラとイスタンブルで石版本が刊行されている（筆者未見）。現在唯一の全訳であるロシア語訳（MQ/R）は，MQ/Kとその底本となった写本，および同系統の写本（おそらく「付.ローマ字転写校訂テキスト」でMS/cと略記したもの）に基づいているようである［MQ/R：послесловие,150］。また，MQ/U^{2}に先行する，主要部のキリル文字テキスト（MQ/U^1）（およびこれに付された現代ウズベク語抄訳［MQ/U^1：181-240］）も主にMQ/Kに拠っていると思われる。なお，1990年代にトルコ言語協会（Türk Dil Kurumu）より，ナヴァーイーの著作（ローマ字転写テキスト）が断続的に刊行されたが，*Maḥbūb al-qulūb*の既刊・未刊については寡聞にして知らない。

［どんなに高く評価しても］過大評価［ということ］はあり得ない。20世紀初頭までチャガタイ語で作品を著した，後の中央アジアの文人たちだけでなく，アゼリー文学・トゥルクメン文学・タタール文学・ウイグル文学そしてオスマン・トルコ文学の発展にも，大きな影響を及ぼしたのである。

また，ウズベキスタンを代表するナヴァーイー研究者イッザト・スルターン（Izzat Sultan）は，ウズベク文学史の立場から，特にナヴァーイーの代表的韻文作品群を取り上げ，「トルコ語 —— チャガタイ・トルコ語［原文は「古ウズベク語」］—— での，このような作品の完成は，ウズベク芸術文学とウズベク文章語の礎が築かれたことの証である」とし，また，これらの作品の完成が「ウズベク文学の芸術上の資力を際限なく豊かにした」と述べ，その後のマスナヴィー（叙事詩・物語詩）の流行や韻律学（'arūż）の確立に言及している［Sultan：274］。

しかし，その一方で，かつてはナヴァーイーの作品を，ペルシア文学の完全な模倣とする見方が国際学界に広まっていた。この見方はブラン（M. Belin）に始まり，バルトリドにさえ影響を及ぼしたが，中でもブロッシェ（E. Blochet）は，ナヴァーイーの詩の芸術性を評価せず，ペルシア文学史上の大詩人たちの「受動的模倣」に終始していると述べた［Bertel's：67；Bregel'：9］。バルトリドも，「空想的なミール・アリーシールの姿を，より現実的な描写に換える」ことに成功しながらも，「おそらくミール・アリーシールは，トルコ族の文学および文化全般における，ある潮流の最も輝かしい代表者であろうが，その潮流は，ペルシア・ムスリム文化の影響への完全な服従と結びついている」と述べた［Bartol'd：200, 203］。

このような見方は，ナヴァーイーの作品のみならずチャガタイ・トルコ文学全体の位置付けに関わっており，先に紹介したトルコ文学史の立場からの評価とは，そもそも枠組みが異なっていて，すり合わせようがない。問題は，このような見方をした研究者たちが，本格的にナヴァーイーの作品の研究に取り組んだ経験がなかったらしい，ということであろう。

ナヴァーイーの作品と相対したペルシア古典文学研究の大家ベルテリスからは，「ナヴァーイーは疑いなく天才詩人」であり「比類の無い言葉の名人」という評価が生まれた［Bertel's：88, 203］。彼はナヴァーイーの著作活動[6]とその成果を以下のように

総括する［do.：203］。

［ナヴァーイーは］きわめて重要な2つの事実を証明した。1つは，チャガタイ・トルコ語［原文は「古ウズベク語」］が，それまで支配的であったペルシア語と何ら変わることなく，人間の思惟を表現する完璧な手段である，ということである。もう1つは，文学は死んでいなかったということ，つまり文学を大衆［≒より多くの者たち］に仕えさせて，15世紀に失われ始めつつあった生命を，文学に吹き込むことができる，ということである。

上に示された2つの事実のうち，後者はベルテリスのティムール朝期の文学に対する理解と深く関わっている。彼は当時のペルシア韻文学の隆盛について以下のように述べる［Bertel's：45］。

我々はティムール朝期のペルシア詩の繁栄に言及するが，この繁栄はきわめて独特のもの，というよりむしろ独自の衰退であった。技巧が盛んになり，文学は瀕死の状態で，遊具や気晴らしの道具に過ぎなかった。このことは，文学が社会上層部だけのものであったことを示している，と言うべきではないであろうか。過度の複雑化により，文学はきわめて狭い読者層だけに馴染まれていた。

ティムール朝期の文学において技巧が発達するのは確かであるが，当時の文学，特にペルシア詩が，ごく一部の人々にしか馴染まれていなかったとするのは誤解と言ってよい。遅くとも15世紀末には，きわめて幅広い層にペルシア詩が愛好されていたことは，筆者自身が同時代の詩人伝等を用いて既に明らかにした［久保 2001：第Ⅲ章[7]］。

---

[6] ナヴァーイーの著作活動については，ベルテリスとイッザト・スルターンの研究に詳しい。いずれも文学研究者による充実した内容のナヴァーイー研究である。なお，両氏の研究成果およびナヴァーイーの著作活動については，別稿を用意する予定である。

[7] 久保 2001の第Ⅲ章「ペルシア韻文学の隆盛と都市社会の成熟」は「16世紀の詩人伝に登場する職人・商人」と題する節を含むことからもわかるように，シャフル・アーシューブ（都市住民を題材とした韻文作品）ではなく詩人伝やインシャー作品集を用いた考察である。しかし，『史学雑誌』（111/5）において，この論考を，大石真一郎氏は「シャフル・アーシューブと呼ばれる作品群を分析し」たものと紹介し，佐藤健太郎なる人物に至っては「職人や商人を題材とした韻文学の隆盛を扱うが，そこに都市の一般住民の社会的・知的水準の向上を見るにはいま少し論拠を要するか」と述べる（下線筆者）。筆者が主な考察対象にしたシャフル・アーシューブは1作品であり，また「一般住民の社会的(?)・知的水準の向上」については，もちろん表現は異なるが，主に上述第Ⅲ章で検討している。通読しないばかりか，章・節の題名さえ見ていない人物が，批判めいた寸評を書くことに，大変な驚きと当惑を覚えた次第である。

もっとも，15世紀末にこのような現象が見られることと，ナヴァーイーの様々な活動に，深い関わりを見出すことも不可能ではない。

ベルテリスはナヴァーイーの様々な作品に言及しているが，特に抒情詩（ガザル）について，以下のような評価を下していることが注目される［Bertel's：104］。

> ナヴァーイーの抒情詩は豊かな宝物庫である。そこにはペルシア詩とチャガタイ詩［原文では「古ウズベク詩」］のすべての優れた成果が利用されている。ナヴァーイーのガザルは最も完璧な古典ガザルの手本である。

ナヴァーイーの作品をペルシア文学の模倣，あるいは当時のチャガタイ語をペルシア語からトルコ語への置き換えとする見方を，完全に排除することは不可能である。しかし，ほかならぬペルシア古典文学の大家ベルテリスが，ナヴァーイーの作品を，ペルシア文学の「優れた成果」を取り込んだ，見事な文学作品と見なしているのである。

2 *Maḥbūb al-qulūb* の文体の特徴

上述ベルテリスは*Maḥbūb al-qulūb*を「おそらくナヴァーイーの著書のうち最も難しいものの1つ」と見なし，「各フレーズは選び抜かれ考え抜かれたもので，読者にも真剣さと思慮深さを要請している」と述べている［Bertel's：196］。この指摘は，内容と文体の両方にあてはまる。そこで，まず文体の特徴を概観し，ナヴァーイーの言語と当時のペルシア文学との関わりについて，筆者なりの見通しを示しておきたい。

この書は全編押韻散文（サジュウ体）で著されており，そもそもこの点が「各フレーズは選び抜かれ考え抜かれたもの」という印象を与える。頭韻も見られるが，脚韻が主である。韻を踏むため，以下のように，しばしば韻文的に語順を入れ替えている（以下，厳密なqāfīyaとは異なるが，各句末の響きを同じくする音節および音節の連なりを，脚韻部として太字で示す）［MQ/M：7(a)；MQ/U^2：15］[8]。

> <u>Agar fāsiq bolsa va bad-af'**āl**</u>, el 'urż-u-'iyālıġa andın bīm-i nak**āl**.

（もし［王が］放蕩者で行いが悪ければ，人々とその妻子は彼の懲戒を恐れる）

通常の散文であれば，下線を施した従属節はAgar fāsiq va bad-af'āl bolsaという語順に

---

[8] 本稿における原文のローマ字転写方式については，後掲「付.ローマ字転写校訂テキスト」の「凡例」を参照されたい。

なるはずである。また，後続の主節では動詞が省略されている。いずれも韻を踏むための工夫である。類似例をもう1つ挙げておこう［MQ/M：8(a)；MQ/U^2：16］。

Bu ikki ḫayldın har biri bir **af'ī**, šāhġa vājib dur bularnıng **daf'ı**.

（この2つの集団に属する各々が1匹の毒蛇であり，王は彼らを取り除かねばならない）

この場合も通常なら，下線部はbularnıng daf'ı šāhġa vālib durという語順になる。また，コンマの前で動詞が省略されている。人間を毒蛇に喩える隠喩表現も見られる。

隠喩が多いことも，この書の特徴となっているが，加えて，しばしば対句が見られる。次の例は，脚韻部が長く，全体が隠喩であり，双方の句の長さ・意味・対応する語の品詞の一致，という観点から見て，ほぼ完全な対句と言える［MQ/M：1(b)-2(a)；MQ/U^2：7］。

Qahhārlıġı ṣarṣarı učururġa ṣābit-u-sayyār nastarannıng **sačılġan yafraġları**,

（その制圧力の強風に煽られると，恒星や惑星が野バラの落葉であり）

jabbārlıġı qoyunı savururġa dahr-i ġaddār baytu-l-ḥuznnıng **tökülġän tofraġları**.

（その強制力の旋風に晒されると，狡猾なる時が悲しみの家に積った土ぼこりである）

下線をほどこしたのは，脚韻部以外で韻を踏んでいる（あるいは響きを同じくする）箇所である。頭韻が見られ，句の途中でも韻を踏んでいる。短い対句の場合は，次のように，ほぼ句全体が韻を踏んでいることもある［MQ/M：13(a)；MQ/U^2：24］。

Ḫiżr-i najāt anıng tal'atı va **āb-i ḥayāt anıng šarbatı**.

（彼の容貌は救済のヒドルであり，彼の［薬用］シロップは生命の水である）

このような押韻・対句・隠喩の要素を持つ散文は，実は，同時代のペルシア語文献によく見られる。ほかならぬナヴァーイーの保護を受けたペルシア文人ホーンダミール（Ḫ^{v}ādamīr：ca.1475-ca.1535）の代表的散文作品から1例紹介しよう［ḤS：265］。

Az īšān čašm-i iḫlāṣ dāštan ḫilāf-i šīva-yi ulu-l-**albāb** ast va

（彼らに対して忠誠を期待することは賢明な者たちのやり方に反しており）

dar zamīn-i dil-i īšān tuḫm-i iḫtiṣāṣ kāštan munāfī-yi šīma-yi aṣḥāb-i **ādāb**.

（彼らの心の土地に寵愛の種を播くことは流儀を心得た者たちの性質に逆らっている）

太字の脚韻部だけでなく下線部も押韻しており，文型や意味は対句的で，隠喩も用いられている。*Maḥbūb al-qulūb*の文体が同時代のペルシア語散文の強い影響を受けてい

ることは明らかであろう。ほかにも，複合動詞の転用（動詞のみの置き替え），エザーフェや不定のyā' (ī) の多用など，この書の文体にはペルシア語の影響が顕著である。

しかし，上述ホーンダミールの作品において，対句的な押韻文体は，ほぼ韻文引用の直前に限られる。おそらく，長編作品の*Maḥbūb al-qulūb*が全編押韻散文で著されたこと自体，特筆に値するであろう[9]。その仕上がりは見事なもので，次のように，対句的に韻を踏みながら（下線部が脚韻部以外で押韻している箇所），長い文が構成される場合もある［MQ/M：3(a)；MQ/U^2：9］。

İflās-u-nā-tavānlıġ hin**gāmıda**, ya'nī（貧困や無力の時，すなわち）

falākat-u-nā-murādlıġ ay**yāmıda**（災難や失敗の日々に）

gāh 'ilm madārisıda ṣaff-i ni'ālda yer **tuttum** va

（時には学問のマドラサで靴脱ぎ場に席を得て）

'ulamā' majālisıda 'ilm nūrıdın kön͡gülni ya**ruttum**.

（ウラマーの会合において知識の光で心を照らした）

このような対句・押韻へのこだわりには，15世紀前半にルトフィー（Luṭfī）が発展させたトルコ詩型tuyuġ（同音異義語で脚韻を踏む4行詩）［Bertel's：57］との関連が推測され，ナヴァーイー自身，トルコ語語彙における同音異義語の多さを，トルコ語の優れた点と見なしている［Bertel's：190］。また，ティムール朝君主にしてナヴァーイーの友人スルターン・フサイン（筆名Ḥusaynī）は，ナヴァーイーに先んじて，短編ながら押韻散文のチャガタイ語作品を著した［Sultan：288-290；Gandjeï］。

かつて近世ペルシア語は，膨大な量のアラビア語語彙とアラビア語の要素を取り込むことによって，表現力を高め，リズムや響きの良さを増し，古典文学を成熟させた。チャガタイ・トルコ文学の確立にも類似の現象を想定することは不可能ではない。しかし，*Maḥbūb al-qulūb*の文体は，トルコ語にペルシア語語彙やペルシア語の要素を取り込んだというより，成熟したペルシア文章語・古典語にトルコ語語彙やトルコ語の

---

[9] マカーマートが流行したアラブ文学に比べ，近世ペルシア文学では全編押韻散文の著名な作品は少なく，アンサーリー著『祈祷の書』（11世紀後半），『ハミードのマカーマート』（12世紀半ば），サアディー著『ゴレスターン』（13世紀半ば）などに限られる［黒柳：113, 143, 187-188］。なお，これらの作品の文体はティムール朝末期の諸作品とはかなり異なる。

要素を取り入れることによって，きわめて表現力豊かで独特の魅力を持つ，新たな文章語・古典語が成立した，という見方を支持しているように思われてならない。

3 *Maḥbūb al-qulūb* の構成と内容

Maḥbūb al-qulūb は書物としての性格でもペルシア文学の土壌に根付いており，既に日本語訳もある『カーブースの書』(11世紀後半)，『4つの講話』(12世紀半ば)，サアディー著『ゴレスターン』(13世紀半ば) などに代表される，ペルシア教訓文学の流れを汲んでいる。しかし，構成やスタイルにおいては，意外にも上述のような教訓書との類似性が弱い[10]。おそらくこれは，ナヴァーイーの知性や個性と，彼自身の幅広く豊かな経験によるものであろう。例えば，彼は，慈善や学芸保護ために，常にヘラート住民の状況に通じているよう努めていた［久保 1990：47, 51］。君主から乞食に至るまで，あるいはシャイフルイスラームからダルヴィーシュに至るまで，社会を構成するあらゆる人々についての，豊富な実体験に基づいた言及は，本書独自の魅力となっている。

以下，本書の構成と内容について，手短かに概観しておく。

まず最初に神と預言者への賛辞［MQ/M：1(b)-2(b)；MQ/U^2：7-8］を述べた後，自らの豊富な人生経験を語り，執筆の目的については，人生経験の浅い者たちを「あらゆる集団の性質」と「あらゆる階層の状況」に通じさせるため，と説明する［MQ/M：2(b)-4(b)；MQ/U^2：8-11］。続く本文は3つの章（qism）から成る。各章の題名と内容は以下の通りである。

第1章「人々の状況と言動の特質について」［MQ/M：4(b)-30(b)；MQ/U^2：12-47］は当時の様々な地位・官職・職業・社会集団について述べる。各々に1つの節（faṣl）が設けられ，全40節で構成されている。多くの場合，各節の末尾に短い韻文が付され

---

[10] 上記3作品以外に，'Ubayd Zākānī, *Aḫlāq al-ašrāf*（14世紀半ば）や，特に為政者に向けた教訓文学（鑑文学）のNiẓām al-mulk, *Siyar al-mulūk (Siyāsat-nāma)*，Ġazālī, *Naṣīḥat al-mulūk*（ともに11世紀末～12世紀初）も有名であり，'Abd al-raḥmān Jāmī, *Bahāristān*，Ḥusayn Vā'iẓ Kāšifī, *Aḫlāq-i Muḥsinī* といった，同時代の著名文人による教訓書も既に存在したが，いずれも部分的な類似点しか見出せない。なお，教訓書ではないが，批判精神旺盛な作品として有名な，'Ubayd Zākānī, *Risāla-yi Ta'rīfāt (Dah Faṣl)* の影響も考慮に値するであろう。

ている。軽快な叙述の中に盛り込まれた，気の利いた皮肉や歯に衣を着せぬ非難に，読む者は痛快さを覚える。詳細は後掲日本語訳を参照されたい。

第2章「賞賛される行動と非難される性質の特徴について」[MQ/M：30(b)-49(b)；MQ/U^2：47-71] は10の節（bāb）より成る。各節の題名は以下の通りである。

第1節「改悛（tawba）について」；第2節「禁欲（zuhd）について」

第3節「信頼（tavakkul）について」；第4節「満足（qanā'at）について」

第5節「忍耐（ṣabr）について」；第6節「謙虚さと礼儀（tavāżu' va adab）について」

第7節「唱名（ḏikr）について」；第8節「思念の集中（tavaḫḫuh）について」

第9節「[神の] 満足（riżā'）について」；第10節「愛情（'išq）について」

各節は一様に，「解説→韻文→逸話（ḥikāyat）→韻文」という構成になっている。第10節の「愛情」は，特に重視したためか，最終的に3つ（'avāmm 'išqı；ḫavāṣṣ 'išqı；ṣiddīqlar 'išqı）に大別し，それぞれに項（qism）をたてている。

上記の節題を見てわかるように，その多くが古典的スーフィズムにおける「階梯（maqāmāt）」の名称と重なっている［ニコルソン（中村訳）：45］。内容的にもスーフィズムの影響は明らかで，例えば第1節の「改悛」については，「この段階（martaba）は修行者たち（ṭarīqat ahlı）の最初の1歩であり，目的地とする荒野の最初の宿駅への歩みである」と述べ［MQ/M：31(a)；MQ/U^2：48］，第9節の「[神の] 満足」についても「この階梯は修行者（sālik）の最も偉大な階梯であり，最も高い段階である」と説明する［MQ/M：43(a)；MQ/U^2：64］。逸話にもしばしばスーフィーやシャイフが登場する。しかし，ナヴァーイーにとって正統派信仰とスーフィズムは両立し得るものであり，例えば第2節の「禁欲」については，「シャリーアの公道に雄々しく立つことであり，タリーカ（修行の道）の荒野へと貴重な1歩を踏み出すことである」と述べている［MQ/M：32(b)；MQ/U^2：50］[11]。このような「シャリーア」と「タリーカ」の並記は，第1章にも見られる[12]。

---

[11] MQ/U^{2}のこの箇所は，「タリーカ」以下が欠落している。

[12] 例えば第1章第11節において，ナヴァーイーは，シャイフルイスラームに「シャリーアを信条とする賢者であり，タリーカに印付けられ清貧を喜ぶ者」であることを求めている（後掲「*Maḥbūb al-qulūb* 第1章日本語訳」の当該箇所を参照のこと）。

第3章「様々な教訓の例とその様態[13]」[MQ/M：49(b)-88(b)；MQ/U^2：72-130]は127の「訓戒（tanbīh）」から成っている。ほとんどの訓戒が短いもので，多くの場合，末尾に韻文が付されている。逸話は最後の訓戒にのみ見られる。特に長い訓戒については独自の題名が付されている。以下に列挙すると，「鷹揚さ（saḫāvat）と志（himmat）について」，「寛大さ（karam）と雄々しさ（futūvat）の道について」，「男気（murūvat）について」，「忠実さ（vafā'）について」，「忠実さの補遺として，恥じらい（ḥayā'）について」，「温和さ（ḥilm）について」，「帝王（pādšāh）たちについて」，「若き日々（šabāb ayyāmı）について」，「老齢（šayḫūḫat）について」，「旅の利益（safar manāfi'ı）について」である。このほか題名はないが，「自己崇拝（ḫ^{v}udparastlıq）」や「旅（safar）」についての訓戒も長く，特に「自己崇拝」は3つの項（qism）に分けて解説し，第3の項においては，さらに3つの種類（naw'）について解説している。

いま，これらの訓戒のうち，ごく一部のみを紹介するなら，最初の訓戒の内容は奥が深く，著者の豊富な人生経験や進んだ知性を感じさせる。

> 自己の欲があり，［己の］情欲（nafsānīyat）の階梯にあるので，誰も自分の心に悲しみを求めず，自分自身に痛みを望まない。しかし，他者の高貴な本質に際限のない屈辱［が与えられているの］を見ても，自身のささやかな困難ほど大ごと［と感じるわけ］ではなく，また，その［他者の］気高い魂に無数の苦難［が降りかかっているの］がわかっても，自身のわずかな苦労ほどにも動揺しない。みな他人より自分の方が大切であり，他者の言葉より自身の言葉の方が大切である。［MQ/M：50(a)；MQ/U^2：72］

また，為政者・君主との関わり方については，次のように語りかける。

> 王たちの宮廷から離れ，ハカンたちの宴席から遠ざかる，というより，そもそも彼らの周辺に近付かない方が良い。これらの者たちから逃げ出せ，＜耐えられな

---

[13] これは序文中に掲げられた題名であり，MQ/KとMQ/Mの本文中の当該箇所には第2章をもじったような「賞賛される行動の結果と非難される性質の特徴について」という題名が掲げられている。筆耕の誤りであろう。なお，MQ/Kの脚注に示されたヴァリアントとMQ/Kの底本と同系統の写本（後掲「付.ローマ字転写校訂テキスト」におけるMS/c）では，本文中でも，序文中と同じ題名が付されており，MQ/U^{1}とMQ/U^{2}はこれに従っている。

[14] アラビア語の諺の引用（＜＞内はアラビア語，［ ］内は訳者による補足）。先述ḤSにも同じ諺が，上記補足部分を含む，より完全な形で引用されている［ḤS：289］。

いものからの逃亡［は使徒たちのならい］[14]＞と言うではないか。［MQ/M：66(a)；MQ/U^2：96］

この言葉を裏付けるように，ナヴァーイー自身，宮廷における公的職務を何度も辞している。この章も，著者自身の体験を反映した発言に満ち溢れているようである。

以上，*Maḥbūb al-qulūb*の構成と内容を概観した。最後に，本稿で翻訳した第1章の内容から窺える，ナヴァーイーにとっての理想の社会と，当時の社会の現実について，ごく簡単にまとめておきたい。

ナヴァーイーはまず何よりも，人が人であり，正しい信仰を持つこと，すなわち健全なムスリムたることを求めている。それゆえ，ムスリムを指導しシャリーアを守る立場にある者たち（ウラマー）の役割を重視し，多くの紙幅を割いている（第6節，第11-14節，第19節，第24節）。また様々な職業に従事する者たちに，正しい信仰とともに「誠実さ」を要求する。注意すべき点は，彼の言う正しい信仰にはスーフィズムの影響が顕著なことである。「清貧」を重んじ，正しいスーフィーを敬い，シャイフルイスラームにも，法学者であると同時に「霊知者」であることを求めている（第11節）。

君主には「正義」を求め，「公正で聡明な」君主は「神の影」であるとする（第1節）。国家の上層部に属する者たちにも「正義」や「公正さ」を求め，「放蕩」や贈収賄等の不正を強く戒めている。ナヴァーイー自身がトルコ人であるにも関わらず，軍事力を支えるトルコ系軍人たちには，ほとんど何の希望も見出していない（第7節，第9節）。彼が文民統治を目指していたことは，有能な財務官僚の登用に積極的に関与した事実［久保 1997：162, 164, 166］からも窺えるが，現実には，財務のみならず宗教に関わる高官にまで，期待を裏切られていたようである（第3節，第5-6節ほか）。

もっともナヴァーイーを失望させたという点では，商人や職人も同様であり（第26-29節），さらにはウラマーをはじめ，彼が積極的に保護した詩人・書家・楽士・歌い手など，当時の学芸の担い手たちの中にも，彼を失望させる者が少なくなかったようである（第16-17節，第22節ほか）。未曾有の発展を遂げた，いわゆる“ティムール朝ルネサンス期”のヘラートは，人心の腐敗した暗い側面をあわせ持っていたのである。

対照的と思われるのは，農民についての叙述である（第31節）。社会の存続基盤と

して農業を重視するがゆえに，農民の勤労に期待し，かつ感謝していたことがわかる。また，君主や傲慢な指導者層との対比により，「酒場の俗人」や「流浪者たち」に幾ばくかの救いを見出している（第33節，第39節）ことは，意外性があって印象に残る。このほか主従関係等における「雄々しさ」や「男気」の重視なども注目に値するが，とりわけ，これまで等閑に付されていたナヴァーイーの結婚観・女性観（第37節）は，読者を驚嘆させるに十分な内容である。

ともあれ，自らの理想にほど遠く，意のままにならぬ社会状況に，スルターン・フサインが「真実を語る勇者（ḥaqq söz adāsıda dalīr）」[Sultan：175；Gandjeï：172]と賞賛したナヴァーイーの筆は，批判に皮肉にと冴えわたっている。

Maḥbūb al-qulūb 第1章日本語訳

凡　例

1．これは，ナヴァーイー（Navāyī/ Amīr Niẓām al-dīn ‘Alī-šīr）著 *Maḥbūb al-qulūb* の序文と第1章の，訳者自身が校訂したテキストに基づく日本語訳である。校訂テキストは，本稿末尾に「付.ローマ字転写校訂テキスト」として収載している。

2．原文の対応箇所は，校訂テキストの底本とした写本（MQ/M）と最新のタシケント刊現代ウズベク語式キリル文字版（MQ/U^2）について，前者は [f.1(a)]，後者は [1-бет] という形式で，各頁の始まりを訳文中に示した。ただし，f. はfolio，数字はMQ/Mのfolio番号もしくはMQ/U^{2}の頁番号，(a) は写本folioの表，(b) は裏，бетは現代ウズベク語で「頁」の意である。

3．題材・語彙の多様性および紙幅の関係上，語釈を含めた万全な注記をほどこすことは非常に困難である。したがって，節全体に関わる問題や，特に必要と見なした箇所にのみ注を付した。

4．（ ）内には原語や語義を示した。［ ］内は訳者による補足である。

5．＜＞内は，『コーラン（al-Qur’ān）』の章句を含め，アラビア語の文章・語句の引用である。『コーラン』の章・節はカイロ版に従い，日本語訳は主に藤本勝次（編）『コーラン』（中公バックス「世界の名著」17）に拠っている。

6．本文中に見られる韻文作品の韻律は，ルバーイーの場合を除いて，後掲「付.ローマ字転写校訂テキスト」の当該箇所で［ ］内に示した。なお，チャガタイ・トルコ詩の韻律は，おおむねペルシア詩に準拠しているので，次の文献を参照した。

Thiesen, F., *A Manual of Classical Persian Prosody*. Wiesbaden, 1982.

7．脚注に略号形式で言及した参考文献の正確な書誌情報は，後掲「参考文献」に示した。なお，これは本稿「はじめに」の文献表を兼ねている。

8．逐一言及することは避けたが，訳文と脚注を作成するにあたっては，ロシア語訳（MQ/R），現代ウズベク語抄訳［MQ/U^1：181-203］，最新キリル文字版の注［MQ/U^2：274-284］，および以下の文法書・辞書・事典を参照した。

(1) 文法書

Eckmann, J., *Chagatay Manual.* Uralic and Altaic Series, vol.60. Bloomington, 1966.

(2) 辞　書

Clauson, G. (ed.), *An Etymological Dictionary of Pre-Thirteenth-Century Turkish.* Oxford, 1972.

De Courteille, A. P. (ed.), *Dictionnaire Turk-oriental.* Paris, 1870. Reprint. Amsterdam, 1972.

Dihḫudā, A. A. (ed. M. Muʻīn), *Luġat-nāma*, I-L. Tehran.

Muʻīn, M. (ed.), *Farhang-i Fārsī*, I-VI. Tehran, 1342-1347 (1963/64-1968/69). Reprint. Tehran, 1364 (1985).

Steingass, F. (ed.), *A Comprehensive Persian-English Dictionary.* 3rd ed. London, 1947.

Wehr, H. (ed. J.M. Cowan), *A Dictionary of Modern Written Arabic.* 4th ed. New York, 1994.

Zenker, J. T. (ed.), *Türkisch-Arabisch-Persisches Handwörterbuch*, I-II. Leipzig, 1866. Reprint. New York, 1979.

Алишер Навоий асарлари тилининг изоҳли луғати (4 томлик). Тошкент, 1983-1985.

Узбекско-руский словарь. Главый редактор:*А.К.Боровков*. Москва, 1959.

Навоий асарлар учун қисқача луғат. Тузувчи: *Ботирбек Ҳасанов*. Тошкент, 1993.

池田修・竹田新（編）『現代アラビア語小辞典』第三書館，1981.

黒柳恒男（編）『ペルシア語辞典』大学書林，1988.

黒柳恒男（編）『新ペルシア語大辞典』大学書林，2002.

田村秀治（主編）『詳解アラビア語 - 日本語辞典』財団法人中東調査会，1980.［原著：Hava, J.G., *Al-Faraid Arabic-English Dictionary.* Beirut.］

(3) 事　典

The Encyclopaedia of Islam, 2nd edition [*EI*^{2}]. 12 vols. Brill. Leiden, 1979-2004.

大塚和夫・小杉泰・小松久男・東長靖・羽田正・山内昌之（編）『岩波 イスラーム辞典』岩波書店，2002.

日本イスラム協会・嶋田襄平・板垣雄三・佐藤次高（監修）『新イスラム事典』平凡社，2002.

日本オリエント学会（編）『古代オリエント事典』岩波書店，2004.

[f.1 (b); 7-6eт]　　慈悲深く慈愛遍き神の御名において

［神と預言者への賛辞］

その本質（ḏāt）への賛美を，相応に述べることなどできないもの［＝神］に賛美あれ！その恩恵（iḥsān）への賞賛を，適切に記すことなどできないもの［＝神］に賞賛あれ！その本質は，すべての完全な性質（ṣifāt）［＝神の属性］で描かれ，その性質に属するすべての完全さは，開示の徒（kašf ahlı）に開示される。［神は］非人格化説（tanzīhī til）の説明を免れ[1]，神聖化論者たち（taqdīsī el）の描写を帯びていない。

その偉大さ（‘aẓamat）の果樹園では，廻る天空が1輪の睡蓮よりも小さく，その権能（qudrat）の前では，恒星や惑星が，かの睡蓮についた数滴の露である。睡蓮の表面に露を撒くのも神[2]なら，露の水で，睡蓮の園どころかイラムの花園[3]を花盛りにするのも神である。その豊かさ（bī-niyāzlıq）のそばでは，ひるがえる天輪が1人の窮乏した乞食であり，その救済力（čāra-sāzlıq）の前では，うつろいゆく時が1人のか弱き困窮者である。その存在（vujūd）を注視すると，創造は存在せず，その本質を探究すると，最初にして最後の存在は，存在しない[4]。その恩恵（iḥsān）の食卓の周りでは，地位高き王たちが糧食を乞い，その際限のない知識（‘ilm）の理解においては，高位の知者（āgāh）たちが無知を告白する。その制圧力（qahhārlıq）の強風に煽られると，恒星や惑星が野バラの落ち葉であり，[f.2 (a)]その強制力（jabbārlıq）の旋風にさらされると，狡猾なる時が「悲しみの家[5]」に積った土ぼこりである。

---

[1]「神の擬人化・擬人神観（tašbīḥ）」の対義語が「神の非人格化（tanzīh）」である。大多数の神学者の立場は両者の中間に位置しており，ここでも，擬人化のみならず，非人格化や神聖化によっても，神を描けるものではないという理解が示されている。

[2] 原文では三人称単数の代名詞olであるが，神を指すことは明らかである。本稿では，このような場合のolやḥaqqを含め，Allāh, teng͡ri, ḫudā, rabbを一律に「神」と訳している（後掲「付.ローマ字転写校訂テキスト」ではAllāh以外も最初の文字を大文字にしている）。

[3]「イラム」とは，『コーラン』においてアード族が首都としたとされる伝説上の町であり［*Qur'ān*：89/6-7］，「イラムの花園」や「イラムの庭園」は地上の楽園を指す。

[4] 全てを超越した根本原理を存在と呼び，現象界の被造物は，それ自身としては非存在であるが，絶対無限定存在から存在を付与されることで存在し得る，というイブン・アラビーの存在論の流れを汲む叙述と考えられる。

[5]「悲しみの家」（bayt al-ḥuzn）」とは，『コーラン』（および『旧約聖書』）に語られているエジプトのヨセフの物語［*Qur'ān*：12］において，ヨセフを失った父ヤコブの家を指す。

無を有とし有を無とすることは，神の権能にかかれば容易であり，有と無も無と有も神の恩恵に期待し，神の制圧を恐れている。一握の土を，天の王国（malakūt）の民の中で代理者の座に就けることは，神にふさわしく，長年［神の］側近の天使たちを指導した者の首に，呪いの軛をつけることができるのは，神である[6]。

キトア（断片詩）：[7]

全能の主［＝神］の権能により100もの不思議なことが

ひと時に出現するとしても，驚くことではない

1万8千の世界と人間を創造し

1人の人物を「創造の台帳」から選ぶことは [8-бет]

神が為し得るのであり，その［選ばれた］人物にはこれらの事柄が確かとなった

彼自身が［事態を］引き起こしたとしても，こういうわけであったのである

＜［地上の］王国と天の王国の所有者に讃えあれ！［完全な］権能と無限の力の持ち主に讃えあれ！神の祝福は偉大であり，神の恩寵は遍きものである！この神以外に神はいない！＞

素晴らしい結果をもたらし愛される者［＝預言者ムハンマド］に，数え切れぬ賞賛と賛美あれ！世界と人間が存在する目的が，彼の存在であったというほどに，至高なる神が，彼を［神に］接近させ高い地位を与えたのである。幸運なる彼の天成が，清らかな魂によって清浄であり，幸いなる彼の天性が，諸要素の構成によって清らかであることは，明らかである。その諸要素のうち，風はイエス（Maṣīḥ）の [f.2 (b)] 息であり，土はヤコブの眼の洗眼剤であり，水はヒドル[8]の泉の清水であり，火はモーセ

---

[6] 神が「天の王国の民」すなわち天使たちの反対を押し切って，地上における自らの代理者として最初の人間アダムを土から造ったこと，および神が天使たちにアダムに跪拝するよう命じたとき「長年［神の］側近の天使たちを指導した者」すなわちイブリースが従わなかったので，呪いをかけて追放したことを指している［*Qur'ān*：2/30-34, 7/11-13, 15/28-35, etc.］。なお，イブリースを天使たちの長とする伝承については，Yāḥaqqī：62；TB：16 参照のこと。

[7] 「凡例」でも述べたように，本書に収められている韻文作品（固有の韻律があるルバーイーを除く）の韻律については，後掲「付.ローマ字転写校訂テキスト」の当該箇所を参照されたい。

[8] 「ヒドル（Ḫiżr）」はハディルとも呼ばれ，民間説話における有名な登場人物で，生命の泉の水を飲んで最後の審判の日まで生き長らえるとされている。『コーラン』においてモーセの前に現れる人物に同定されており，神の「しもべの1人」であり，神が「慈悲を授け，また直々に知識を授けておいた」とされる［*Qur'ān*：18/65］。

(Kalīm) の木の［杖の］炎を燃え上がらせる。この諸要素を清らかな魂と呼ぶことは適確であり，その魂に＜我が魂を汝に捧げる＞と言うことは適切である。［彼の出現に］空を飛びスィドラに座すブラーク[9] は雷光のごとく駆け，巡る「誠実なる聖霊」［＝大天使ガブリエル］は気高く歩む。天の夜間礼拝所は，彼の顔ばせがもたらす春で花園となり，天使たちの瞳は，彼の駿馬[10] がたてる土ぼこりによって輝く[11]。彼の言葉に関しては＜彼［自身］の欲情によって語っているのではない＞[12]，彼の言説については＜それはまぎれもなく彼に黙示される啓示である＞[13]［と神が言っている］。神の秘密に対して彼の本性は誠実であり，［神の］無限の恩寵により＜諸世界への慈悲として＞もたらされたのである。

マスナヴィー（叙事詩）：

その二つの巻き髪は二つのカドルの夜[14] である

この種の二晩において，その顔が満月である

この夜この満月が夜間礼拝所の蠟燭となり

その頬から流れ出る汗が星団である

この星々から神が生み出したのは

預言者たちにとっての目標の真珠である

彼が預言者性の天における太陽であることは明らかであり，その［太陽に］付き従う者たちは，星々のような教友たちである。＜彼とその一族と教友たちに，審判の日まで神の祝福あれ！＞

---

9) 「スィドラ［の木］」とは，ミイラージュ（昇天）の際に預言者ムハンマドが見たとされる，神の玉座の側に生えている聖木であり，「ブラーク」は，同じくミイラージュの際に預言者ムハンマドが乗ったとされる，想像上の動物・天馬である。

10) 「駿馬」の原語は rahš である。これは古代イランの伝説・神話上の英雄，スィースターン王ロスタムの愛馬の名であるが，ここでは一般名詞として用いられている。

11) 「瞳（目，眼）が輝く」とは喜びを表現するペルシア語の言い回しで，本書中によく見られる。

12) 『コーラン』からの引用である［*Qur'ān*：53/3］。

13) 『コーラン』からの引用である［*Qur'ān*：53/4］。

14) 「カドルの夜（Laylat al-qadr）」とは，預言者ムハンマドにはじめて啓示の下された夜のことで，ラマダーン月（すなわち断食月）の月末にあたるとされている。ムスリムにとって神聖な夜であり，この時期は礼拝所での夜の勤行が奨励される。『コーラン』では「全ての神の命令」をもって「様々な天使たちと聖霊」が降臨する夜とされている［*Qur'ān*：97/4］。

[序文]

さて，貧者たちの中の物乞い，ベールで覆われた様々な不可思議の顔ばせを見せる者，貧しく卑しい者，ナヴァーイーの異名をもつアリーシール＜彼の罪を許し，彼の欠点を隠し給え！＞は以下のように述べ，そうすることが自らの義務と心得ている。

この困窮する卑しき者［＝筆者］は，青春期の [f.3 (a)] 初めから壮年期の終わりまで，時代の [9-бет] 出来事や廻る天空に生じたこと，騒動を起こす時のうつろいや様々な色合いの時代の転変に沿って，長い期間と遥かな時間，あらゆる類いの方法と姿で歩み，あらゆる様子の振る舞いと服装で駆け，善悪様々な奉仕や付合いを自ら経験した。時には下賤と破滅の荒野で悲嘆に暮れ，時には栄誉と富の果樹園で宴を催した。

韻文（Naẓm）：

時には天から無力さを与えられ

時には時代から成功を与えられた

時代においては様々な暑さ寒さを経験し

世間においては様々な甘さ辛さを味わった

貧困や無力の時，すなわち災難や失敗の日々に，時には学問のマドラサで靴脱ぎ場に席を得，ウラマーの会合において知識の光で心を照らし，時には敬虔な者たちの礼拝所（masjid）で彼らの足跡に額突き，跪拝の多さゆえに額の皮膚が剥げた。時には清浄なる修道場（ḫānaqāh）の人々の水差しに水を入れる栄誉に浴し，時には破滅の修道院（dayr）［＝酒場］にいる人々に酒壺を運ぶ栄誉を得た。また時には賤しい者たちの前で下劣さ，時には下賤の者たちの前でいい加減さを示し[15]，時には情愛の街路において不浄さ，時には男殺しの [f.3 (b)] 妖精の顔ばせを持つ者たちによって破滅の業が生じた。また時には狂気の街区で下賤の者たちが私の首すじに平手打ちをし，子供たちが私の頭上に石を降らせた。また時には我が町の人々に虐げられて異郷に赴き，見知らぬ人々と交わり行動を共にした。また時には山の頂が私の休息所となり，時には荒野の片隅が私の避難所となり，時にはこれらの困難ゆえに帰郷を決意しながらも，無気力の寓居（zāviya）に住んでいた。また時には異郷で患って，見知らぬ人々に卑

[15] 写本によっては「私は示した（körgüzdüm）」ではなく「私は見た（kördüm）」となっている（後掲「付.ローマ字転写校訂テキスト」当該箇所の脚注参照）。

しまれ，時には気高き方々への奉仕を自らに享受させ，自身の言葉を楽しませた[16]。

ルバーイー（4行詩）：

時に天は私を虐げ賤しめた／私の運勢のようにあらゆる事柄で賤しめた [10-бет]

時には願いの方へと導いた／要するに，大いなる転変を繰り広げた

一方，職務を持つ幸運な時は，人々の襲来が心の王国に混乱を招いたが，時にはアミールの座に座り，統治者の法廷（ḥukūmat maḥkaması）において訴えを聞き，時には帝王（pādšāh）の副官として寵愛され，見物人たちに対して見得を切った。また時には寛大さの大広間（ayvān）を建てて大物や貴人たちを恭しく客人に迎え，時には歓楽の庭園で宴を催し，酌人と楽士による宴と音楽を楽しんだ。[f.4 (a)] 時には反目する王たちの間に割って入って争いごとを調停し，時には自ら戦場に身を置いて無知愚鈍のそしりを受けた。時には自ら慈善家たち（ḫayrāt ahlı）に加わり，あらゆる慈善施設（ḫayr buq'aları）を整えたので，私の努力によって幾つもの隊商宿（ribāṭ）ができ，旅人たちを喜ばせた[17]。

韻文：

私の脳裏に多くの思いや考えが生じ／高い地位や大物たることに名乗りを上げた

この序文の目的は以下の通りである。私はあらゆる街路を駆け抜け，世の人々のあらゆる類いの者たちと自ら出会っている。私は善人たち悪人たちの行いを知っており，善人たち悪人たちの性質を体験している。善と悪による苦楽が私の胸に達しており，下賤と高貴による傷と薬を私の心は理解している。[だが，] 時代の人々の内の若干の輩（ともがら）や，時の人々の内の若干の友人たちは，これらの状況に通じておらず，彼らの心は

---

16) ナヴァーイーの苦難の時期としては，シャールフ死後の混乱を避けてシーラーズに避難していた少年期，主君アブルカースィム・バーブル死後のマシュハドでの就学，新たな君主アブーサイード治下のヘラートにおける不遇の時期，故郷ヘラートを追われてのサマルカンド滞在などが挙げられる［久保 1990：24-25］。その生涯において，ナヴァーイーが珍しく酒と恋に溺れたのは，アブーサイードの治世であったという［Sultan：62-63］。

17) ナヴァーイーがその生涯において栄華を極めたのは，1469年のスルターン・フサイン即位後であり，官職としては玉璽官，財務庁のアミール，ヘラートのハーキム，アスタラーバードのハーキムなどに任じられている［久保 1990：25］。加えて，官職を保持していない時期でも，君主スルターン・フサインとの関係に基づいて十分な政治的影響力を持ち［久保 1997：163-164, 166］，また，豊かな経済力により慈善や学芸保護に従事した［久保 1990］。

これらの善悪の覚えがない。

キトア：

蜂蜜や酒を味わったことのない者が，どうして知っているだろう

逢瀬と別れのように，前者は甘く後者は苦いということを

賤しい旅人なら知っている，歩みを進めるとき

砂や泥地は柔らかく山や岩は固いということを [11-бет]

この類いの輩や友人たちに注意を促し，彼らを，[f.4 (b)] これらの状況に気付かせることが必要と思われた。彼らがあらゆる集団（ṭā'ifa）の性質に通じ，あらゆる階層（ṭabaqa）の状況を知るためであり，それは彼らが，適切な人々への奉仕には急ぎ，適切ではない人々との付合いは避けるべきだと知るためである。また彼らが，隠されている［自分の］秘密を誰にでも口外しないためであり，悪魔や人間の欺瞞や詐欺に騙されないためである。また彼らが，あらゆる類いの者たちとの交際や親交を望んでいても，この貧しき者［＝筆者］の経験が，彼らにとって十分となるようにするためである。

これらの講話が［人々の］心に愛されることが明らかとなったので，これを『［人々の］心に愛されるもの（Maḥbūb al-qulūb）』と名付けた。また，本書の効用の特質が判ったので，これを3章だてとした。第1章は「人間全般の状況と行動の特質」，第2章は「賞賛される行動と非難される性質の特徴」，第3章は「様々な教訓の例とその様態」である。願わくは，読者諸氏が精緻さと考察の目で見つめ，各自が自らの理解と認識に従って利益を得，著者にも1つの祝福の祈り（du'ā'）によって利益を与え，彼の霊をその祈りの霊で喜ばせてもらいたいものである。[12-бет]

第1章「人々の状況と言動の特質について」

これは40節ある。

第1節「公正なる王たち（'ādil salāṭīn）について」

公正で聡明な [f.5 (a)] 帝王は，神の下僕たちにとって神の影である。代理権による王権（ḫilāfat mulki）は，神の命令に従っており，＜余［＝神］は地上に代理者（ḫalīfa）を置こうと思う＞[18]［という一節］がこれについてである。公正なる帝王の高貴さが，

[18]『コーラン』からの引用である［*Qur'ān*：2/30］。

描写できぬほど素晴らしいことについては，＜私は公正なる王の御代に生まれた＞[19]［という文言］がそれを教える。その［＝公正なる帝王の］本性を［可視と不可視の］両世界が誇っていることについては，＜正義（‘adl）は時として人間と妖精の信仰よりも良い＞と言われている。

公正なる帝王は，神から被造物に下された慈悲であり，諸国（mamālik）にとって平安と安寧の源である。太陽と春の雲のように，黒い土から花を咲かせ，王国の民の頭上に黄金や真珠を降り注ぐ。貧者たちや困窮者たちは彼の親切や温情に安らぎ，圧制者たちや中間搾取者（‘avān）たちは彼の懲罰の剣ですり減らされる。彼の監視によって小羊たちは狼の恐怖から守られ，彼の懲罰によって，旅人たちは山賊を恐れて心乱すことがない。彼の慈愛によって，あらゆるコーラン学校（maktab）が子供たちでにぎわい，彼の保護によって女性用の公衆浴場（żu‘afā’ ḥammāmı）に女たちの声が響く。彼の威信によって街道には追剥ぎが現れず，方々で民[20]の財産が満ちている。彼の管理によって徴税人（‘amal-dār）たちの筆は壊され，圧制者の旗は破棄される。彼の精励によって，礼拝所は集まった人々で一杯であり，マドラサは議論や論争をする人々でにぎわう。彼の報復の剣によって盗人は人々の財産に手を伸ばさず，彼の復讐の恐怖によって追い剥ぎは [f.5 (b)] 無の荒野で破滅する。

夜はたいてい，店舗に商いのための蠟燭が灯り，ならず者たちの徘徊におびえることはない。夕方から夜明けまで修道場の門は開いており，隠棲の場（ḫalvatlar）は信仰の光で照らされている。町の街路の監視人が彼なら，草原の羊の牧夫も彼である。臣民の邸宅や果樹園が彼のおかげで繁栄し，軍人［たち］の願いや安息が彼によって充たされている。彼のおかげで，晩，トルコ人の女たちは踊りに従事し，子供たちは白い骨（aq sü͡ngäk）［＝羊の踝（くるぶし）の骨（遊牧民の子供の遊び道具）］で遊ぶ。老婆たちは紡車の音の響きに合わせて彼への祝福の祈りを歌い，下女（kanīz）たちは綿を梳く [13-бет] 鼓の音に合わせて彼への祝福を歌う。貧者たちは，彼への祝福を祈り彼のこと

---

[19] 預言者ムハンマドの言葉とされる［TB：978］。ここで言う「公正なる王」とは，ササン朝中興の祖，「不滅の魂を持つ者（Anūširvān）」と呼ばれたホスロウ1世のことである。

[20]「民」の原語はトルコ語のulusである。本来ulusは遊牧国家にとっての国・服属民を指す語であるが，本書では，一般的に「民」を意味するḫalqと同義で用いられている場合が多い。ほかにもトルコ語のel（部民）が，本書中しばしばahl（人々）と同義で用いられている。

を誇るのが仕事であり，彼の方は，貧者たちに寛大さを示し彼らを慰撫することが習慣である。飢えた者たちは，彼の供与と贈与の食卓から食べ物を得，着るものがない者たちは，彼の恩寵と善行の財庫から衣服を得ている。

［公正なる帝王は］王国の果樹園を繁栄させることでは，湿気に満ちた雲であり，王国の民の目を輝かせることでは，世界を照らす太陽である。別の王国の臣民や民が彼を夢み，別の国で虐げられている人々が，彼の正義や彼への祝福の祈りを口にする。彼の良き名にあてて学者たちはリサーラ（論文）を著し，彼の良き性質について詩人たちがカスィーダ（頌詩）を詠む。歌い手たちは彼を賞賛するために歌い，著述家たちの語りは，彼への祝福の祈りを意図した曲を奏でる。[f.6 (a)]

［公正なる帝王は］民の満足によって神の満足を求め，［民からの］訴えに耳を傾けるときは，審判の日への思いが，その心を支配している。

マスナヴィー：

彼は国の帝王であるが，ダルヴィーシュ（修行者）のようで

彼には王権（šāhlıġ）より清貧が似合う

世俗の王たちにとっては天にも見紛うお方である

が，清貧の徒（ahl-i faqr）の前では道の土ぼこりである

彼の前では，世界の王国が木っ端の如くである

が，［清貧の徒の］1つの心の王国が，諸天の如くである

すべての困窮者を支援するのが彼である

彼はまさにアブルガーズィー王[21] その人である

まさしく人となり根源の人間（insān-i ʻayn）[22] となったのは

世界を相続する者，スルターン・フサイン王である

天空が廻り続ける限り

彼のもとに世界の所有権がとどまるように！

---

[21]「アブルガーズィー（Abū al-ġāzī）」は，ティムール朝スルターン・フサイン・ミールザーの即位後のラカブ（異名）である。後続の句にも「スルターン・フサイン王」とあるから，この君主を指すことは明らかであり，この韻文作品全体が，時の君主への賛辞となっている。

[22] insān-i ʻaynは本来「瞳・瞳孔」を指すが，ここでは先に見られる「まさしく人（ʻayn-i insān）」にからめた言葉遊びと解される。

民にこの王から喜びが与えられるように！

片時も彼が［王の］座を離れないように！[14-6ет]

第2節「イスラームを護るベグについて[23]」

このような王にとってムスリムのベグは，預言者に仕えた4人［の教友，すなわち正統カリフ］の1人のようである。不幸な者たちの保護者であり，帝王の支持者である。現世において王に真実の言葉を言い，来世についての王の悲しみを理解する。悪人たちは彼を恐れ，善人たちは彼を通じて困難を解決する。人々の財産に対する貪欲さは，彼の心には生じず，［人々の］妻子（'iyāl）に対する思惑は，彼の精神に存在しない。彼の望みは臣民の安寧であり，彼の目的は［神の］被造物の平静である。彼はムスリムたちの満足を求め，ムスリムたちは彼への祝福を祈る。彼自身の本性は健全であり，王の宮廷（ešik）における彼の努力は誠実である。[f.6 (b)]

王が宮廷にこのようなベグを欠くことのないように！［王権を担う］幸運が他の者に移ることのないように[24]！

第3節「適材と言えない副官（nā'ib）について[25]」

嘘つきで見栄張りの副官が関連付けられるのは，大嘘つきの［偽預言者］ムサイリマの宗教である。［ムサイリマは］自らを預言者ではないかと思わせたが，［大天使］ガブリエルと啓示について彼が語ったことは，すべて嘘である。この者［＝嘘つきで

---

[23]「ベグ（トルコ語）」は「アミール（アラビア語）」とも呼ばれ，一般的にはトルコ・モンゴル系の人々にとっての貴族的身分を表す称号であり，この称号を有する者は，部族的・氏族的紐帯によって組織された軍の指揮官でもあった。しかし，本文の内容から判断する限り，ここでは軍務庁や財務庁の長官で御前会議のメンバー，すなわち政府・宮廷の高官としてのベグ（アミール）を指しており，著者ナヴァーイー自身もこの地位を経験している［久保 1997：151-154］。なお，ティムール朝期のベグ（アミール）層については，間野英二・加藤和秀・安藤志朗・川口琢司諸氏による充実した研究成果を参照することができる。

[24] 最後の1文を「［王権を担う］幸運の天における彼の生命の太陽が沈むことのないように！」とする写本もある（後掲「付.ローマ字転写校訂テキスト」当該箇所の脚注参照）。

[25]「副官」自体は官職名ではなく，「副官」と見なされる具体的な官職には，君主の側近集団に属する，玉璽官（muhr-dār），文書起草官（munšī），パルヴァーナチ（文書官）などがある［久保 1997：157-159, 162］。

見栄張りの副官］が，王の寵愛を得ていると言うのも，事実無根の嘘である。

［嘘つきで見栄張りの副官が］嘘の命令（ḥukm）を伝えるのは，忌まわしい貪欲さが要因であり，偽りの文書（parvāna）をもたらすのは，非難すべき強欲さが原因である。何かを得るとき，彼は真実の代わりに嘘［を言い］，ムスリムたちに対して宗教の代わりに欠乏をもたらす。全てにおいて嘘［を言い］，彼が真実を語ることは有り得ない。賄賂を受け取るときは，口にする言葉と心の中の思いが違っている。

言動が一致しない，このような副官は，王の宮廷からいなくなる方が良い。

第4節「圧制者であり蒙昧で放蕩者の（ẓālim va jāhil va fāsiq）帝王について」

公正なる帝王は鏡であり，これはその裏面である。前者はまばゆい朝であり，後者はその［朝になる前の］暗い夜である。圧制が彼の心に望まれており，放蕩が彼の精神に愛されている。王国の荒廃によって彼の心は [15-6ет] 落ち着き，民の混乱によって彼の精神は安らぎを得る。町や村は彼の圧制によって廃墟となり，鳩の壁龕（tāqča）は梟の巣となる。酒の洪水が彼の宴で荒れ狂うと，この洪水が，王国の繁栄している地域を荒廃させる。[f.7 (a)] その酒宴場（sučı-ḫāna）には，礼拝所の崩れた回廊から［奪った］絨毯を敷き，酒壷の口には，ミフラーブ（メッカの方角を示す壁龕）の壊れたアーチから［奪った］レンガを置いている。もし血を降らせるのが彼の仕事なら，命あるものは彼のせいで不安になる。もし彼が喜んで酒を飲むなら，ムスリムたちには街路や路地が脅威となる。もし放蕩者で行いが悪ければ，人々とその妻子は彼の懲戒を恐れる。もし強情で我が侭であれば，心優しい副官たちの命を惜しむことになる。

自らの下劣が［彼］自身のもとでは立派なもの［とされ］，人々の分別が彼によって拒絶され非難される。彼のもとでは多くの［過去の］奉仕が少しの怠慢のせいで無に帰し，彼の前では多くの［奉仕の］真実が少しの誤りのせいで存在しなくなる。彼の誤った見解に不都合が生じれば，関与していない者たちが巻き込まれるどころか，［彼の見解に］反対していた者たちまで中傷される。彼の間違った考えが不首尾に終われば，関わっていない者たちが叱責されるどころか，事情を知らない者たちまで懲罰を受ける。彼が「生命の水[26]」を毒と言っても，［それを］当然としなければ罪人であり，

[26]「生命の水（ḥayāt suyı）とは，飲んだ者に永遠の命を与える水のことで，神の愛を指す場合もある。この水を飲んだとされるのが前出のヒドルである（注8参照）。

彼が太陽の光を闇と言っても，［それを］賛美しなければ不幸に見舞われる。自分のことでは，1滴が湖ほど大切で，1粒に太陽ほどの価値があるが，人々に関しては，世界中の財貨が1枚の銅貨ほどの値打ちもなく，身を捧げている尊い魂が一銭（pāšīz）にも値しない。彼が黒い渡り烏を白い鷹と言っても，「それは雁を上手に仕留めます」と言わないと手を抜いたことになり，彼が白日を暗い夜と言っても，「スハー（小熊座の見え辛い星）が見えます」と言わないと背いたことになる[27]。真実を語る人々は生命を危険にさらし，[f.7 (b)] 善へと導く者には死に至る被害が生じる。

真実は，彼のもとでは空虚であり，賢者は，彼の信念によれば，蒙昧である。彼の心には人々に対する憎しみがあり，彼の隠された財宝庫には秘宝がある。殺戮に情熱を燃やすのが彼の信条であり，人々の生命と財産を狙うのが彼の大仕事である。

ファラオの副官にハーマーン[28]がいたように，この悪辣な帝王のワズィール（宰相）も悪辣な者であろう。

韻文：

毒蛇（ja'farī）も大蛇（šah-mār）には助けとなるように

あるいは，ペストもコレラ患者たちには長となるように [16-беr]

神よ，このような災厄を，無の井戸から存在の宮殿にもたらし給うな！無の牢獄から存在の街に出て来させ給うな！

第5節「ワズィールたち（vuzarā'）について[29]」

ワズィール［という語］は<罪を犯す（wazara）[30]>［という単語］の派生語で，こ

---

[27] サアディー著『ゴレスターン』にもよく似た内容の警告（韻文）が見られる［Bertel's：96］：「王者の意に逆らって意見を求めようとすれば／徒に生命を諦めるばかり／王者がもし昼を夜と述べたなら／言わずばなるまい，見よ，月と昴をと」［サアディー（蒲生訳）：96］。

[28] 「ハーマーン（Hāmān）」は，『コーラン』中のモーセの物語に登場する，エジプト王パロの重臣で，パロとともにモーセを苦しめたとされる［*Qur'ān*：28/3-8, 38, 40/23-24, 36-37］。

[29] 「ワズィール」は本来イスラーム国家における宰相を指すが，ティムール朝期には，数人いる高位の財務官僚の1人に過ぎなかった［久保 1997：154-155］。しかし，本節に記されている内容から，宰相としての位置付けが失われたわけではないことが判る。著者ナヴァーイーは順調な国家運営のために有能な財務官僚の登用が不可欠と考え，彼らに期待し支援するが，何度も裏切られている［同：162-164, 166］。

[30] wazara（動詞第1形）には，ほかにも「［荷を］運ぶ」という意味がある。ワズィール本来の意味は「援助者」である。なお，最新のタシケント刊キリル文字版の当該箇所ではwazaraで

の動詞（fi'l）はその本質に最もふさわしく最も適切である。

この仕事を見事に行ったのは［ソロモンの重臣］アーサーフ（Āṣaf < Āsāf）［Ibn Baraḫyā］で，その指輪には<神は最も公正な者に慈悲を垂れ給う！>と刻まれていたという。正にアーサーフが［この世を］去るときに，公正を持ち去り，公正の宝石をこの邪な者たちの間から持ち出してしまったのである。たとえ誰かが風のようにあらゆる方角に赴いたとしても，この世のどこでアーサーフを見つけることができるであろう。時代の人々の中にアーサーフのような者がいたとしても，［その人物は］ソロモンの玉座が失われたことを知るであろう。

この圧制者たちは王国を荒廃させ，王国の民が蓄えたものをむしり取る。[f.8 (a)] 彼らについては誰も筆を走らせず，この筆のように黒い顔を持つ［＝恥をかいた］者たちの名は，筆に語らせない方が良い。毒を与えて患者を死なせる医師たることが彼らの役目であり，彼らに照らして，暴力で良き者たちを殺すのがトルコ人医師である[31]。これら2つの集団に属する1人1人が1匹の毒蛇（af'ī）であり，王は彼らを取り除かねばならない。

彼らの［配下の］役人たち（'amala）は，蠍であり，民のもとに到達したら害がある。彼らの筆先は蠍の毒針であり，臣民の命はその毒針の脅威にさらされている。［一体］どれほどこの毒針が虐げられた者たちに刺さるのであろうか。願わくは，彼らの頭を死の石で打ちのめしてもらいたいものである。

マスナヴィー：

彼らは，高位の者であれ下級の者であれ

民（ḫalā'iq）に害を及ぼしている

王は迅速に彼らを殺した方が良い

預言者は言っている<その［類いの］有害な生き物を殺せ>と

はなく，その動名詞形wizrを示している［MQ/U^2：16］。この場合，後出のfi'lは「動詞」ではなく「行為」と訳す必要がある。

[31] ここで言う「トルコ人医師」とは，文脈からわかるように，現実の医師を指すのではなく，トルコ系軍人の喩えである。つまりタジク系財務官僚とトルコ系軍人のことを，すぐ後の文で「これら2つの集団」と呼んでいるのである。なお，この1文の代わりに「毒を与えて患者を死なせる医師が，彼らの状況に似ていて近い」という1文が配されている写本もある（後掲「付. ローマ字転写校訂テキスト」当該箇所の脚注参照）。

第6節「無能なサドル（ṣadr）たちについて[32]」

信仰のないサドルたちは，必要のない悪しき異端である。この人でなし［のサドル］が凡俗で（ʻāmmī），その望みが放蕩や道楽であるなら，彼の宴席において [17-6ет] 曲が奏でられ，学問と真摯な信仰を悼む哀歌が披露される。ウラマーが持って来たバラ水の瓶を空にして，酒を満たすのに十分な従者たちを雇う。彼ら［＝ウラマー］が持って来た氷砂糖は，酒の肴（gazak）にするために砕かれ，［ウラマーの］俸給のための費用は他のものに [f.8 (b)] 使われる。彼のもとでは悪行がはびこり，彼の手下は学究の徒である。従者たちを修道場の収益で食べさせ，小姓（čuhra）たちをシャイフ（修道場の長）やムダッリス（マドラサ教授）の俸給［のための費用］で養っている。彼の宴席で酒が出されることにムフタスィブ（違法行為取締官）が満足し，カーディー（法官）はその髭で酒を濾す。このように違法行為が数え切れない［ほど多い］国では，イスラームやシャリーアに，威光も価値もないであろう。

サドルは，ウラマーにとっての援助者，シャイフたちにとっての執事や奉仕者，サイイド（預言者ムハンマドの末裔）たちにとっての支援者でなければならない。貧者たちへの奉仕に励み[33]，荒廃したワクフ（慈善施設への寄進財産およびその運用）を修復し，［寄進財産の耕地における］農業の活発化に努めなければならない。

マスナヴィー：

放蕩者の酒屋は，怒りや悲しみではなく／店を潰す，たとえ大尽であっても

鐙全体に金の絵模様が描かれ／外衣が本人より立派に飾られていても

キトア：

頭に組紐付きのターバンを巻かねばならず

外衣もムッラーのように肩に羽織らねばならない

---

[32]「サドル」とは，サイイドやウラマーを保護・統轄し，ワクフによる宗教・慈善施設運営を監督する政府・宮廷の高官で，サイイドやウラマーが任じられ，スルターン・フサインのもとには常時2～3名いた［久保 1997：155-157］。サドルとその配下の者たちはワクフ財産の収益から収入を得ていたが，本節の内容から判断する限り，同じくワクフ財産の収益に依存していた宗教・慈善施設の職員（シャイフ，ムダッリスほか）を，経済的に圧迫することもあったようである。

[33] この箇所に「圧制の糸を断ち」というフレーズが追加されている写本もある（後掲「付.ローマ字転写校訂テキスト」当該箇所の脚注参照）。

馬の首に魔除け（quṭāṣ）を吊るすのではなく

自身の髭のように自分が首から吊るされる

第7節「放蕩者で生活ぶりが悪く勇士を気取る者（bahādurluq lāfın urġan）たちについて[34]」

王の宮廷には財貨を浪費する者たちがいて，彼らは神に服従せず，王にも従わない。彼らの［従う］道は虚勢であり，彼らのならいは虚飾である。彼らの仕事は酩酊であり，彼らの修練は [f.9 (a)] 自己崇拝である。彼らが真実を言うときは自慢であり，彼らが言う意味のある言葉は戯言である。［酒を］ひと飲みすることが [18-бет] 彼らの信仰であり，異教徒じみたことが彼らのしきたりである。彼らの心は駿馬を跳ねさせて落ち着き，彼らの言葉は無防備な者を散々に痛めつける。彼らの主張によれば，宴席においてはハーティム[35]のようであり，戦においては［古代イランの伝説・神話上の英雄］ロスタムのように奮闘する。彼らの頭上の羽根飾り（otaġa）に鷲座が慌てふためき，彼らの槍に槍兵の角星（Simāk-i rāmiḥ）［＝大角星］が顔をしかめる。その振る舞い以上に彼らのターバンは乱れ，ターバンの組紐で彼らの背に傷ができている。

彼らは王国の敵を撃退することで名声を得ており，王に王国守護の恩を売っている。彼らはこの主張を台無しにするまで［放蕩に耽り］，酒で死ぬ者たちもいれば，他の放蕩で地獄送りとなる者たちもいる。100人に1人が戦場に赴き，下手に駆けて自らを役立たずにする。敵兵を倒さずに自らが倒れ，敵軍ではなく自軍の戦列を打ち破る。このような勇士がいかなる戦場にも存在しないように！いかなる戦列を打ち破る時も，その血にまみれることのないように！

王にとって軍とは，ダルヴィーシュたちによる祝福の祈りや貧者たちの志であり，神の満足である。神の恩恵を軍とする王［の場合］は，その旗印が＜勝利は神がもたらす！＞となるであろう。王に［王権を担う］幸運がある限り，敵は無力でふるわない。[f.9 (b)]［この］幸運をもたらすのは神である。神は奪う者であり，かつ与える者

[34] bahādurはモンゴル語のba'aturのペルシア語転訛形で「勇士」を意味する。第9節に見られる「ヤサの民」とは対照的に，身分の高い軍人を指すと考えられる。

[35] アラブ民族にとって「寛大さ（karam）」の権化とされる，前イスラーム時代のアラブ人Ḥātim Ṭā'īを指す。彼とその一族の寛大さは伝説化している［堀内：114-123］。

でもある。神が与えれば人が奪うことはできず，神がもたらせば人が遠くへ投げ出すことはできない。王が神の命令を適切に実行すれば，この幸運が，多くの恐怖に希望を与えるであろう。

キトア：

王の真実が神と［の関係で］正しければ

敵が1人でも100人でも何の不安があろうか

人間に勝利を与えるのは神であり，軍や兵ではない

神を信頼するのみであり，ほかに言うことがあろうか

バイト（句）：

［自］軍に運があろうがあるまいが／敵軍への［神の］命令によって決まるのである

第8節「ヤサウルの集団（yasawl gurūhı）について[36]」

ヤサウルは，誰か［諸軍の中で］抑圧されている者の事情を究明し，この抑圧されている者を圧制者から救う。もし有り得ないほど [19-6ет] 多くの報酬を要求するなら，その圧制者の上を行く同類である。もしその努力に見合うことを考えるなら，父からの遺産や母からの母乳のように合法的であろう。もし彼の要求がその努力による権利より少ないなら，彼の男らしさと男気は確かなものである。もし尽力しながら［当然の］権利である報酬を受け取らないなら，彼を無条件に聖なる者（valī）と言うことができるであろう。多くの男たちがこの業を信条としており，この振る舞いによっておおむね目標に到達している。

マスナヴィー：

神に近き者たちはあらゆる姿で存在する

その一部の者たちはこの振る舞いを選んだ [f.10 (a)]

彼らは様々な聖堂（qubba）の中に隠れているので

神以外の誰の目にも見えない

---

[36]「ヤサウル」は，モンゴルによって持ち込まれた官職であり，諸軍の事情に通じ，軍が招集された際に，宿営の配置や隊列等の規律を守らせることが，その職務であった。また君主直属の場合には，君主の傍で護衛兵や式典官の役割も担ったと考えられている［間野：375, 378］。

第9節「ヤサの民（yasaġlıq）と雑兵軍（qara čerik）について[37]」

ヤサの民と呼ばれる雑兵軍は，ゴグとマゴグの民[38]に匹敵する。彼らには苦労ばかりで安息はなく，ヤサに従う［＝従軍する］ばかりで片時も欲をかかない。彼らの仕事は略奪できるものを略奪し，異国でイナゴのように青草や葉をなめ回すことである。

人間たることと彼らの間には差異があり，ムスリムたることと彼らの間には矛盾がある。彼らの本性には理解力や認識力が欠けており，そもそも理性や公正さを，みなが持ち合わせていない。どこへ向かって出発しても，彼らが床につくことはなく，昼夜，不注意の眠りから目覚めることもない。暑くても寒くても彼らの身体には関係なく，空腹でも裸でも彼らの肉体は弱らない。非人間性では［神の］被造物の中でも抜きん出ており，動物のようなところが多く，人間らしいところは少ない。

ルバーイー：

かの民（qawm）以上に驚嘆すべき人々はいない

その胃袋は禁忌のものまで食べても満たされない

彼らは死ぬまで災厄を生じさせ続けるが

ヤサの民は死なない，という主張は真実である [20-бет]

驚くべきことであるが，あらゆる類いの集団に隠された神の恩寵があるので，彼らの [f.10 (b)] 中にも［ひとかどの］男たちが隠されている可能性がある。軍営商人［たち］（ordu-bāzārī）[39]が自らヤサの民と行動を共にし，［買うのは］安くても買わずに

[37] yasaġlıġはペルシア語のyāsāqīおよびその複数形yāsāqiyānやahl-i yāsā（ヤサの民）と同義と考えられる。当時の二元的統治体制において，シャリーアに従う「イスラームの民」すなわちムスリム定住民に対し，ヤサに従う遊牧トルコ系軍人全般を指す表現が「ヤサの民」である［久保 1997：152-153, 159］。ここでは，第7節に見られる有力軍人とは対照的な，下級兵士を指すと考えられる。『バーブル・ナーマ』のタシケント刊キリル文字版の一節では，スルターン・フサインに1万4千の「無比の若党」と4万の「ヤサの民の若党」が仕えたとし，「ヤサの民に任される仕事は，塹壕を埋めること，井戸を掘ること，道を整えること，そして貴人に薪や物資を届けることである」と述べ，さらに，「ヤサの民」の各々に80ジャリーブの土地が与えられていたとする［BN/U：223-224；Sultan：160］。しかし，この一節は1写本（Институт востоковедения СССР, №Ф-685）にのみ見られるもので，後代の追記ではないかと考えられる。

[38]「ゴグとマゴク（Ya'jūj va Ma'jūj）」は『コーラン』（および『旧約聖書』）に言及される，伝説上の，はるか東方の野蛮人を指す［*Qur'ān*：18/94, 21/96］。

[39] ordu-bāzārī/ ūrdū-bāzārīとは，軍営地において開かれる市（ordu-bāzār）で取引をする商人を指す（「凡例」に前掲のMu'īn, *Farhang-i Fārsī*）。ここでは，語形は単数であるが意味的には複数と考えられ，同様の例が『バーブル・ナーマ』にも見られる［バーブル（間野訳）：353；BN/J：351］。

［売るのは］高く売りつけている。王国の民から徴税するように，軍人たち（čerik ulusı）からご祝儀を得ているのである。

バイト：

その堕落した者たちが軍の財貨を／昼も夜も否応なく，ただで手に入れる

人間が彼らに報いを与えることは有り得ず，神が災厄で彼らに報いるであろう。

第10節「王の配下の者たち（šāh ulusı）が王自身に似ることについて」

王に付き従い臣従する者はみな，やる事とやり方が王に似てくるであろう。もし王が正義を信条とするなら，その配下の者たちの信条にも正義が印付けられ，もし王が圧制を為す者であるなら，その部下たち（el）にも圧制のたくらみがある。もし王がイスラームのしきたりに従うなら，民（ḫalq）の信条もイスラームに沿った信仰であり，もし王が異教徒の性質を持つなら，部下たちも異教徒の振る舞いをする。

［このような状況をふまえて］賢者たちは，王のことを［喩えて］，満々と水をたたえた湖（daryā），その配下の者たち（qawm va ḫayl）のことを［喩えて］，湖の周囲にある河川であると言っている。湖の水に何らかの特質や特徴があれば，河川も同じ特質や特徴を持つ。前者が辛ければ後者も辛く，前者が甘ければ後者も甘い。前者が濁っていれば後者も濁っており，前者が澄んでいれば後者も澄んでいる。

マスナヴィー：

それらの水路はこの湖から分かれている／賢者はそれらの水が同じと知っている

湖と水路の水は同じであるから[f.11 (a)]／その味をあえて試す必要はない [21-бет]

第11節「シャイフルイスラームについて[40]」

シャイフルイスラームとは，ムスリムたちの指導者であり，イスラームの導師を指

[40]「シャイフルイスラーム」は，シャリーアの秩序維持とムスリムたちの教導を職務とし，君主により，主要都市に1名のみ任じられた。しかし，実際は名門ウラマー家がこの地位を世襲しており，君主ですら侵し難い権威を持つ，ムスリム社会の代表者であった［久保 1988：149-151；1997：157］。その一方で，スーフィズムにおける偉大なシャイフの尊称としても「シャイフルイスラーム」が用いられ，時に，尊称にとどまらず，聖者廟等の運営に関わる職権を伴った［安藤 1994：7-11］。本節の内容から判る通り，ナヴァーイーはこの両者の統合を理想とし，「シャリーア」と「タリーカ」双方のあかしを求めている。

す。このような人物はイスラームを護る学者（'ālim）でなければならず，［神の］宮廷の側近[41]である霊知者（'ārif）でなければならない。シャリーアを信条とする賢者であり，タリーカに印付けられ清貧を喜ぶ者［でなければならない］。善人悪人様々な者に対する慈愛があまねく満ち溢れ，大小様々な者に対する教導が，言葉が［要ら］ないほど有益［でなければならない］。シャリーアの規則に厳格で，すべての異端者たちの逸脱を廃する，完璧な者［でなければならない］。このようなイスラーム信仰の様態が見られる者を，シャイフルイスラームと呼ぶことができる。以上。

バイト：

この中に属するのが，神の側近にして

シャイフルイスラームの老師アンサーリー[42]である

第12節「カーディーたち（qużāt）について[43]」

カーディーはイスラームの造りの支柱であり，ムスリムたちの善悪について命令を下す。宗教の諸学によって，その心の王国が繁栄し，確かな洞察力によって，その思惟の社会に憂いがないようでなければならない。その精神の国から個人的な偏向が逃亡し，その誠実な心が，へつらいの欺瞞による優柔さを帯びていない［ようでなければならない］。その法廷はシャリーア諸学の宝庫であり，判決を下す際には，馴染みの者も見知らぬ者も彼［＝カーディー］にとって対等［でなければならない］。その知識と敬虔さによって，人々の心が華やぎ，その注意深さと洞察力によって，信仰のない者たちに悲哀が生じ［ていなければならない］。その心は「神の言葉」による命令によ

---

41 法学者が任じられるシャイフルイスラームのみを指す場合は，君主の「宮廷の側近」を意味する可能性が大きい。しかし，ここでは「霊知者」に関する表現であり，末尾の韻文の内容からも，「神の宮廷の側近（muqarrab-i dargāh-i bārī）」を指すと考えるべきである。

42 'Abdullāh Anṣārī（d.1089）は「ヘラートの老師（pīr-i Hirāt）」の異名で知られ，厳格なハンバル派の学者であり，高名なスーフィー・シャイフでもあった。ヘラート近郊のガーゾルガーにあるアンサーリー廟は，ティムール朝期の最も重要な聖者廟の1つであり［Subtelny 1994］，ナヴァーイーも，この聖者廟にある修道場の修復・運営に尽力している［久保 1990：33, 35］。

43 「カーディー（法官）」の主な職務は，イスラーム法廷を主催し，裁判官として訴訟に判決を下すことと，文書作成によって私人間の契約を保証することである［久保 1996］。当時のヘラートには名門カーディー家の存在も確認され，有力カーディーはシャイフルイスラームに次ぐムスリム社会の代表者に位置付けられていた［久保 1988：150, 152-153, 156-157, 159］。

って強化され，その判決は選ばれし者［＝預言者ムハンマド］の（muṣṭafavī）ハディースによって導かれ［ていなければならない］。シャリーアの様々な作為の難問 [f.11 (b)] についてその心が啓かれ，法学者たちの様々なごまかしによる不明瞭さに関して，その精神が明敏で［なければならない］。賄賂を受け取るムフティー（法の解釈・適用に関する意見を求められる法学者）たちは彼［＝カーディー］のもとで悩まされ，策を弄するワキール（法的代理人）たちは彼の前で非難され［なければならない］。

酒を飲む凡俗な（'āmmī）カーディーは，殺すべきであり，地獄の炎に到達する前に燃やすべきである。[22-бет] 賄賂を受け取るカーディーは，イスラームの砦に亀裂を生じさせる。賄賂を贈ってカーディー職を得ることができた者は，賄賂を受け取ってシャリーアを破壊することもできるであろう。

シャリーアの公道から足を踏み外さず，真直ぐな道から外れないカーディーが必要である。直線は歪むとその方向に曲がってしまい，きちんと張られていない楽器の弦のように，正常さが失われる。人々の財産や生命に関わる判決を下す者は，預言者の信条をならいとせねばならない。真直ぐな道から足を滑らせ災厄の井戸の底に落ちていながら，この仕事を「私がやる」と自分で言う者は，恐れを知らぬ嘘つきである。嘘つきで恐れを知らぬ者に，どうして，預言者の聖法に基づいて判決を下す仕事がふさわしいであろうか。

キトア：

誠実なる伝達者［＝預言者ムハンマド］は，信仰と聖法を
可能な限り整え，［他の］全ての宗教を廃した王である
その道を嘘つきがどのように整えるのだろう，ある大嘘つき［＝ムサイリマ］も
多くことの主張をしたが，地獄へと向かったではないか

第13節 [f.12 (a)]「ムフティーの資格を持つ法学者（muftī faqīh）たちについて」

ムフティー（法の解釈・適用に関する意見を求められる法学者）は信仰篤い法学者でなければならず，信心深い学者でなければならない。イスラームの知識に習熟し，信仰の光がその額に明らかであり，偏向による欠点がその心に無く，計略による倦惰がその精神に無い［ようでなければならない］。その筆は語ることにおいて誠実で，そ

の文字がムジュタヒド（教義決定・立法を行う法学者）の言葉と一致し［ていなければならない］。

さもなくば，酒飲みの放蕩者であり，行いが悪く狡猾な愚か者であろう。1ディルハムのために100もの真実を虚偽とし，わずかな心付けのために多くの「否」を「正」と記す人物［であろう］。ひと籠のブドウのために1つの果樹園を燃やしても悲しまず，1バートマーンの小麦のために，ひと山の収穫をばらまいて［無くして］も苦しまない［であろう］。策を弄してファトワー（法の解釈・適用に関する意見書）を作成するムフティーは，筆先によってシャリーアの面子を潰し，報酬として銀貨を受け取って自身の財貨に加え，自らの信仰を俗世間に売っているのである。

このようなムフティーは，人を死なせる医師［と同じ］である。一方はイスラームを殺すこと，もう一方はムスリムたちを殺すことが役目である。[23-бет]

ルバーイー：

仕事に報酬を受け取って文字を書くムフティーは
報酬が多ければ，偏向を少なくせねばならない
ファトワーにおいて報酬のために「正」や「否」が記されたときは
それを書いた者の手を切断せねばならない

第14節「ムダッリス（mudarris）たちについて[44]」

ムダッリスは以下のようでなければならない。職位を目的とせず，通じていない学問を語る罪を犯さない。見栄で講義を開いたり，[f.12 (b)] 自慢するためにやかましく言ったりしない。蒙昧さゆえにターバンを大きく，組紐を長くしたりせず，傲慢さゆえにマドラサの入口の大広間（ayvān）に陣取ったりしない。宗教の諸学に通じ，確かな問題を人々に教授し，恐れの無い事柄を恐れ，不浄な事柄から逃れる。

さもなくば，自身に学識があると思い，幾つかの未知の事柄（majhūl）について，

---

[44]「ムダッリス」はイスラムの高等教育機関，マドラサの教授である。ナヴァーイーはマドラサやハーナカーの建設・修復を活発に行い，ムダッリス職の確保・増加に貢献した（当時のヘラートでは，本来修道場であるはずのハーナカーにもムダッリスが任じられ，高等教育が行われた）［久保 1990：31-33, 36-37］。これらのマドラサやハーナカーにムダッリスとして在職した者の多くが，ナヴァーイーへの献呈作品を著している［同：34-35］。

種々の罪悪（fisq）を「許容される（mubāḥ）[45]」とするどころか「合法（ḥalāl）」とするであろう。為さない［はずの］仕事を為すようになり，為す［べき］仕事の放棄が，規則やきまりごとのようになるであろう。これではムダッリスではなく異端者であり，このような人物との対話はイスラーム教徒には禁じられている。

［ムダッリスは］敬虔で覚っていて，＜神が言った＞［こと］や＜神の使徒が言った＞［こと］を語る学者でなければならない。

キトア：

神や使徒についてどんなに語ったとしても

さらにはムジュタヒドや聖者の言葉を［語ったとしても］

その者から，人は，いつ聞き，［いつ］学ぶのだろうか

［肝心の］神の言葉や選ばれし者（muṣṭafā）［＝ムハンマド］の言葉を

第15節「医師たち（aṭṭibā'）について[46]」

医師は自らの技能において熟練し，患者たちの病状を心配しなければならない。また，医術自体が性に［24-бет］合っていて，名医たち（ḥukamā'）の教えに倣い従わ［なければならない］。愛想良く親切に話し，自身に恥じらいがあって気立てが良く［なければならない］。

心配りのできる熟練した医師は，「神の精霊」イエスに比されるであろう。イエスの業は，［肉体の外に］出た魂を祝福の祈りによって肉体に戻すことであり，この［医師の］仕事は，魂が肉体から出て行こうとするのを [f.13 (a)] 治療によって抑えることである。このような医師の顔は患者の心に愛されており，その言葉は患者の魂に望まれている。その息は病人たちへの薬であり，その歩みは病む者たちへの癒しである。その姿は救済のヒドル［注8参照］であり，その［薬用］シロップは「生命の水」［注26参照］である。

技術に熟練していても，性根が悪く恐れを知らず言葉遣いが荒ければ，ある面で患

[45]「許容される（mubāḥ）」はイスラーム法学における行為の5範疇の1つであり，してもしなくても賞罰に関係のない行為を指す［遠峰：13］。

[46] ナヴァーイーはヘラートにおいて病院・医学校（dār al-šifā'）を建設・修復し，医療と医学の発展に寄与している［久保 1990：32-33, 35］。

者に治療を施しても，［別の］いくつかの面で具合を悪化させてしまう。

しかし，無教養な（'āmmī）[47] 医師は，死刑執行人（jallād）の弟子であり，後者［＝死刑執行人］は剣で，前者［＝無教養な医師］は毒で圧制を為すが，間違いなく後者の方が前者よりましである。なぜなら，後者は罪人を殺すが，前者は罪のない者を殺すからである。いかなる罪人も後者に卑しまれる者とならぬように！いかなる無実の者も前者にかかる病人とならぬように！

バイト：

言葉遣いの良い熟練した医師は，身体の苦痛への癒しである

［医師が］無教養で荒々しく性根が悪ければ，人々の生命にふりかかる災厄である

第16節「韻文の花園で美しく歌う鳥たち［＝詩人たち］について[48]」

これにはいくつかの階層がある。

第1の集団は，神の［神秘的な］知識（ma'rifat）の蓄えから得た現金で裕福となり，人間たちによる賞賛を必要としていない。彼らの仕事は，意味［≒言葉］の宝庫にある宝石を集め，人々への恩寵のために韻律の糸で編むことである。韻文を詠むことは，きわめて気高くこの上なく高貴なことであり，心地良さのために［神の］徴（āyāt）は言葉の形で下されており，［神の］奇蹟の語り（ḥadīṯ-i mu'jiz）は規律ある［押韻散文の］形で求められたのである[49]。特に意図があるわけではないので，[f.13 (b)] 神聖

---

[47] 'āmmī は「庶民（'āmm）」の形容詞形であり，他の箇所では，おおむね「凡俗な」と訳したが，ここでは「無教養な」の方が適切と考えた。「庶民」は「イスラーム知識人」の対義語でもあり，「イスラームの十分な知識を持たない者」という語義がある［久保 2001：77（注31）］。

[48] ナヴァーイーがチャガタイ・トルコ語で著した詩人伝*Majālis al-Nafā'is*では，トルコ詩人への言及も少なくないが，本節ではもっぱらペルシア詩人が取り上げられている。また同時代の詩人への言及が少ないことや，神秘主義詩を重視していることも注目される。ナヴァーイーの代表的著作に『ハムサ（物語詩5部作）』と『鳥の言葉（Lisān al-ṭayr）』があることから，彼が，ニザーミーとアッタールの影響を受けたことは明らかであるが，抒情詩については，彼自身が，特にアミール・ホスロウ，ハーフェズ，ジャーミーの影響を受けたことを自著の中で述べている［Sultan：68］。

[49] ここに言う「奇蹟の語り（ḥadīṯ-i mu'jiz）」とは，いわゆる「ハディース（ḥadīṯ nabīy：預言者ムハンマドに関する伝承）」でも，「ハディース」の中に含まれる「神の言葉（ḥadīṯ qudsī）」でもなく，ほかならぬ聖典『コーラン』を指すと考えられる。『コーラン』には「神は最善の語り（aḥsan al-ḥadīṯ）を互いによく似た［語句をもって］繰り返し［この］啓典で啓示された」という一節がある［*Qur'ān*：39/23］。

さゆえ，人々はそれを詩とは呼ばない。

しかし，この気高き人々（qawm）の長にして指導者，この高貴なる人々（ḫayl）の官房長（sar-daftar）にして軍団長（sar-ḫayl），聖者性の海の [25-бет] 真珠，高貴さの頂にある星，信者たちの長，アリー＜神よ，彼に満足し給え！神よ，彼に栄誉を与え給え！＞には幾つかの詩集が残っており[50]，そこには様々な秘密や微細な問題が数限りなく含まれている。

この驚異の顕現に続いた人々がいる。どのような人々であるか，一部を挙げよう。彼らの中でペルシア語で表現したのは，秘密の宝石を編む者，シャイフ・ファリードゥッディーン・アッタール[51]，さらに『精神的マスナヴィー（Maṯnavī-yi ma'navī）』を語る者，確信の海の潜水夫，マウラーナー・ジャラールッディーン，すなわちメウレヴィー・ルーミー[52]である。彼らの目的は，韻文で神の秘密を語り，際限のない［神秘的な］知識を口授すること以外にはなかった。さらに，覚った聖者たちやシャイフたちや神の徒（ahl Allāh）が彼らに倣い，彼らの言説や真実の言葉を賞賛すべきものと理解している。この集団は真理の道の能弁家であるどころか，錬金術師であり賢者の石（kibrīt-i aḥmar）である。

もう1つの集団は，真理の秘密に隠喩（majāz）の方法を交え，言葉をこの方式で結びつけている。その例が，意味の徒（ma'ānī ahlı）の警句家，シャイフ・ムスリフッディーン・サアディー・シーラーズィー[53]，愛の徒（'ishq gurūhı）の誠実にして [f.14 (a)] 実直なる者，アミール・ホスロウ・デフラヴィー[54]，スーフィズム（taṣavvuf）の

---

[50] 周知の通り12イマーム派は，初代イマーム，アリーの文章や発言を集めたとされる*Nahj al-balāġa*をきわめて重要視し，アリーを名文家と見なしている。アリー作とされる詩集は，これとは別に現存するが，贋作と考えられている。

[51] Šayḫ Frīd al-dīn 'Aṭṭār (d.1221) は『鳥の言葉（Manṭiq al-ṭayr）』や『聖者列伝（Taḏkirat al-awliyā'）』で名高い神秘主義詩人である［黒柳：91-96］。

[52] Mawlānā Jalāl al-dīn Rūmī (1207-1273) は『精神的マスナヴィー』や『シャムセ・タブリーズ詩集』で知られる神秘主義詩人であり，コンヤに拠点を置くメウレヴィー教団の開祖でもある［黒柳：164-177］。

[53] Šayḫ Muṣliḥ al-dīn Sa'dī Šīrāzī (d.1292) は，本稿の「はじめに」でも言及した有名な教訓書『ゴレスターン』（散文）と『ブースターン』（韻文）を著した実践道徳の詩人で，抒情詩でも名高い［黒柳：177-193］。

[54] Amīr Ḫusraw Dihlavī (1253-1325) はニザーミーに倣った物語詩の『ハムサ（5部作）』で有名なインドの神秘主義詩人である［黒柳：264-266］。その作品はティムール朝期に愛好され，高く評価されていた［Bertel's：30-31］。

微細な難問を解く者，シャイフ・ザヒールッディーン・サナーイー[55]，確信の徒（ahl-i yaqīn）の唯一の者，シャイフ・アウハドゥッディーン[56]，意味を語る発話者，ホージャ・シャムスッディーン・ムハンマド・ハーフィズ[57]である。

さらにもう1つの集団は，その詩において隠喩の方法で語ることが支配的で，この様式をより好む者たちである。その例が，カマール・イスファハーニー，ハーカーニー・シールヴァーニー，ハージュー（イ）・キルマーニー，マウラーナー・ジャラールッディーン，ホージャ・カマール・フジャンディー，アンヴァリー，ザヒール・ファールヤービー，アブドゥルワースィ，アスィール，サルマーン・サーヴェジー，ナースィル・ブハーリー，カーティビー・ネシャープーリー，シャーヒー・サブザヴァーリーである[58]。

そしてさらには，真理と隠喩の方法において完璧で，［正統派イスラームとスーフィズム］両方の学問の道において十全，詩人たちの指導者にして導師，シャイフルイスラームのマウラーナー・ヌールルミッラト・ワッディーン・アブドゥッラフマーン・ジャーミー猊下＜神よ，彼の墓を輝かせ給え！彼の秘密を神聖ならしめ給え！＞がいらっしゃる[59]。［ジャーミー猊下は］第1の［26-бет］階層の方法と言辞においても高貴

---

[55] Šayḫ Ẓahīr al-dīn Ṣanā'ī (ママ) は，『真理の園（Ḥadīqat al-ḥaqīqa）』で知られ，抒情詩・叙事詩における先駆的神秘主義詩人Ḥakīm Sanā'ī/ Abū al-Majd Majdūd Ġaznavī (d.1131)［黒柳：87-91］を指すと考えられるが，確証はない。

[56] Šayḫ Awḥad al-dīn (d. ca.1190) はアンヴァリー（Anvarī）の筆名で知られ，ペルシア文学史における代表的頌詩詩人である［黒柳：66-70］。

[57] Ḫ^{v}āja Šams al-dīn Muḥammad Ḥāfiẓ (d. ca.1390) はペルシア抒情詩における最高の詩人とされる。それまでの恋愛抒情詩と神秘主義抒情詩を融合・集大成したばかりでなく，独自の技巧によって新境地を開拓した［黒柳：217-230］。

[58] Kamāl Iṣfahānī (d.1237/38)：頌詩詩人として名高い［黒柳：80-81］；Ḫāqānī Šīrvānī (d.1199)：アンヴァリーと並び称される頌詩詩人［黒柳：76-79］；Ḫ^{v}ājū(y) Kirmānī (1281-1352)：神秘主義詩人［黒柳：209-211］；Mawlānā Jalāl al-dīn b. Ja'far Farāhānī (d.1336)；Ḫ^{v}āja Kamāl Ḫujandī (d.1400/01)：タブリーズに居住した神秘主義詩人［黒柳：216］；Anvarī（上述注56）；Ẓahīr Fāryābī (d.1201)：頌詩詩人［黒柳：79-80］；'Abd al-vāsi' (d.1160)；Aṣīr (d.1236)；Salmān Sāvajī (d.1376)：頌詩と抒情詩で名高い［黒柳：214-216］；Nāṣir Buḫārī (d.1371/72)；Kātibī Nayšābūrī (d.1435/36) とŠāhī Sabzavārī (1385-1453)はティムール朝期の高名な詩人である。なお，本注の作成には最新のキリル文字版に付されたC.Ганиева氏による注も参照した［MQ/U^{2}：278-281 (notes 26-38)］。

[59] Mawlānā Nūr al-dīn 'Abd al-raḥmān Jāmī (1414-1492) は*Haft Awrang*（物語詩7部作）や*Nafaḥāt al-uns*（神秘主義者列伝）で知られ，ペルシア古典文学において「最後の詩人（ḫātam al-šu'arā'）」と呼ばれる高名な神秘主義詩人である［黒柳：231-243］。ナクシュバンディーヤ

に語り，次の階層に通じる言説の優美さにおいても完璧であるので，世界で［広く］熱情と陶酔の徒（ḏawq-u-ḥāl ahlı）が猊下の優美さを楽しみ，猊下と［神秘的な］知識を共有している。

また最も低い階層の人々がいる。彼らは韻文のみを楽しんで喜び，満足し，利を得ている。100もの困難を伴って7バイト（句）詠み，[f.14 (b)]［自己］主張の声を7天の向こうまでとどかせる。彼らの言葉に真理や［神秘的な］知識の蜜の甘さもなければ，彼らの詩に熱情や愛情の炎の熱さもない。詩の構成にも優れていなければ，愛の言葉や苦悩の炎も燃え上がらない。もし一部の者が，時折1つずつ良いバイトを詠んだとしても，非常に良くない［自己］主張をして，それさえ台無しにする。もし［彼らの内の］誰かが1つの繊細な意味において賞賛すべき技を見せたとしても，10もの感心しない［自己］主張をして，それを無駄にする。まるで確信して自分自身と協調し，信頼して自身の言葉に同意するかのようである。さらに奇妙なのは，各々の言葉には意味が少ない［にも関わらず］，自身には［自己］主張が多いことである。＜神よ，我らを魂の悪と所業の罪から救い給え！＞

ルバーイー：

汝が最も優れていると言うものが最も優れている

最も劣っているものも，全ての劣ったものより劣っている

最も平均的なものは何の役にも立たない

それらについては口を開かない方が良いと知れ

第17節「書家（kātib）たちについて[60]」

書家とは詩人たちの言葉を紙葉に描く者であり，言葉の宝庫の出納係（ḫizāna-dār）である。出納係（ḫāzin）の技能は受託（amānat）であり，占有（taṣarruf）は背信行

に属し，学識豊かなシャイフとして有名で，散文のスーフィズム関連著作も重要である。ナヴァーイーはジャーミーと深い親交を結び，彼のもとでスーフィズムや韻律学を学び，著作活動においてもしばしば意見を求めている［Bertel's：117-125；Sultan：77-81］。

[60] kātibは，本来，行政官を含む書記全般を指す語であるが，ここでは書家（ḫaṭṭāṭ）・能書家（ḫᵛuš-nivīs）のみを指している。ナヴァーイーは書家たちを保護・育成しており［久保1990：41］，自らの所有する図書館（kitāb-ḫāna）では，彼らに写本を作成させていた［同：43-44］。

為である。背信行為に携わる受託者は自らの技能に関して非難され，そのような者の手は切り取られるのが [f.15 (a)] 良いであろう。

上手な文字と点によって紙面に美がもたらされる様は，麗しい顔ばせに産毛と黒子を付けたかのようである。達筆の書家は言葉を飾り，[27-бет] 作者を安心させる。正しく文字を書く書き手は，正しい者たちの心に，否応なく受け入れられる。その書が整っている書き手は，1バイト書こうが100バイト書こうが，賞賛される。

もし書の見た目が良くなければ，そのせいで読者は，意味の群がりの中で混乱する。達筆であっても，誤りが多ければ，その手が痺れる病で役立たずとなるであろう。不適切に点を打って「恋人（ḥabīb）」を「邪悪な（ḫabīs̱）」，「愛情（muḥabbat）」を「苦労（miḥnat）」とする者［がいるなら］，そのような邪悪な苦労をした者には100もの呪いがある。悪筆である上に数え切れぬほどの誤りがあるのは，老道化師の髭をヘンナ染めしている［のと同じである］。その髭は便所に投げ捨てるのが良く，その［髭の］主は地獄の［番をする天使］マーリクが業火に投げ入れるのが良い。

愛する者からの手紙が，字が上手で内容も良ければ，魂に望まれ心に求められる。悪筆であっても悪くはない。自分が愛する者からの手紙の字を，下手とは言わないものである。

悪しき書家の住処は，その筆入れのような井戸の中にあれ！その筆のように，頭は裂け，顔は黒くあれ［＝恥をかけ］！

バイト：

どの書家がその言葉に逆らって筆を走らせるというのか

その黒い顔を持つ［＝恥をかいた］頭は，筆の如く裂かれよ！[f.15 (b)]

第18節「読み書き学校の教師たち（dabīristān ahlı）について[61]」

マクタブの教師（maktab-dār）は罪のない無邪気な者たちにとって抑圧者である。子供たちの苦痛を望み，彼らへの懲罰という罪を犯す。その本性には温厚さが欠けて

[61] 前近代イスラーム世界の初等教育は，『コーラン』の暗誦を主とし，マクタブもしくはクッターブ（kuttāb）と呼ばれるコーラン学校で行われていた。ナヴァーイーは少年時代，後の君主スルターン・フサインと同じマクタブで学び，『コーラン』以外にペルシア古典文学にも馴染んだという［Bertel's：73；Sultan：40-41］。

おり，その脳みそは鋼で，その心は岩である。彼［ら］のもとでは怒りの中に真実があり，罪のない者たちに対する憎しみをならいとする。たいていの者に性質の粗野さが明らかで，理性の不足に囚われている。しかし，御し難い子供たちの性質を，乱暴さによって従順なものとし，懲罰によって，気まぐれな幼子たちの振る舞いに格好をつける。たとえ彼ら［教師］の気質が明らかに荒々しくても，それは，子供たちの気まぐれを矯正する，粗いやすりである。

この仕事は人間にはできず，どんな人にも，魔物にさえできない。1人のしっかりした人物にとって，1人の子供の面倒を見ることさえ [28-бет] 厄介窮まりないので，もちろんできるはずもないことであるが，彼［＝教師］は一群［の子供たち］に知識と礼儀を教えるのである。理解力と認識力が足りない者たち［＝子供たち］が大勢いるのだから，そのような人［＝教師］の100もの多大な労苦が，どうして無くなるであろうか。

いずれにせよ子供たちには［教師から受けた］恩義が多いが，帝王位に達しても彼［＝教師］に下僕として接するのは，馬鹿げている。教え子［の今の地位］がシャイフルイスラームであれ，カーディーであれ，師がその人物［の態度］に満足しているなら，神も満足している。

バイト：

神の道において誰が苦労して汝に1つの文字を学ばせただろうか

その恩義には100の財宝をもってしても報いることはできない

第19節「イマーム（imām）たちについて[62]」[f.16 (a)]

イマームをつとめる者は，自身のコーラン読誦に魅了され，自身の礼拝にうっとりしている。人間たることについて，その考えには思い込みがあり，善良たることについて，その心に高慢さがある。自身の礼拝を好ましいものと考え，集団礼拝が容認されることも保証する。大声でのコーラン読誦は，単なる気取りや自己満足（anānīyat）

[62]「イマーム」は，広義にはカリフをも含み，指導者全般を指すが，ここでは狭義のイマーム，すなわち礼拝所（モスク）の責任者・導師を指す。ナヴァーイーは多くの礼拝所を建設・修復している［久保 1990：32-33］。なお，彼の建設した金曜モスクでは，イマームがハティーブ（ḫaṭīb：集団礼拝における説教師）を兼任している［久保 1990：36］。

に過ぎず，集団の前にしゃしゃり出るのは，まさに破廉恥さや自己顕示欲（nafsānīyat）そのものである。［自身を］民の指導者であると思い込み，人々の導師であると思い上がっている。

礼拝を指導するのは完璧なイマームの仕事であるが，自分のことをこのように思い込んでいる者は，蒙昧で不完全な人物である。イマームたることがふさわしいのは，一団のムリード（スーフィズムにおける弟子）たちに対するピール（スーフィズムにおける師），あるいは一群の幼子たちに対する教師，あるいは慈愛ゆえ無知な者たちに応じる学者，あるいは養育のため下僕や家族を導く熟達者である。

信仰の流儀の指導も同様であるが，シャリーア教育の手続きは不測の事態にふさわしく，必要に応じて許容される。

しかし，俸給や手当で食べ，自分［のこと］を導師だのイマームだのと言うのは，人間のすることではない。人間たちは，そのような人［のこと］を人とは呼ばない。

キトア：

聖者たち（valāyat ahlı）には集結を，マラーマティーヤ[63]には枷を

なぜなら，彼らは人々の目を逃れて礼拝を行うから [29-6ет]

さらに奇妙なのは，礼拝において，無知で傲慢な者が

イマームの仕事ために，集団のキブラ（メッカの方角）に座を占めることである

第20節「コーラン朗唱者（muqrī）たちについて」[f.16 (b)]

神の崇拝へと［人々に］呼びかける礼拝召喚人（mu'aḏḏin）[64]は，もし良い声で［呼びかけを］行うなら，神に命を捧げているのである。この仕事に清らかさとひたむ

---

[63]「マラーマティーヤ（非難の徒）」は，9世紀ニシャープールに起こったスーフィズムの一派である。外面的な敬虔さや善行は虚飾であり，神からの報賞や人からの是認を求める心と戦わねばならないとし，人々からの「非難」をも厭わなかったという（アッタール（藤井訳）：269-270（訳注2）にも簡略な教義の解説が見られる）。この詩の内容からすると，人前での礼拝を避けていたと考えられる。なお，「マラーマティーヤ」の幾つかの要素は，ナヴァーイーの属したナクシュバンディーヤに吸収されたとする見解がある。

[64] 題名では「コーラン朗唱者」となっているが，本文中では，「コーラン朗唱者」と「礼拝召喚人」を区別なく用いている。「礼拝召喚人たちについて」という題名が掲げられ，本文中でも「礼拝召喚人」で統一されている写本もある（後掲「付.ローマ字転写校訂テキスト」当該箇所の脚注参照）。

きさ（niyāz）が備わっていれば，貴賤様々な者の心に，無条件に受け入れられる。この呼びかけが，悪人たちを放蕩の隅から礼拝所の方へと導く。それは奇術師が曲に合わせて蛇を穴から出て来させるかのようである。

もしコーラン朗唱者が悪声の放蕩者で，旋律が調子はずれの無粋者（kul'und）であるなら，また，その身体が沐浴の制約［を守らず］不潔で，その知性が時間遵守［の不履行］を恐れないのなら，また，その魂が忍耐への情熱を知らず，その声がロバの鳴き声より忌まわしいのなら，除去と禁止の土を彼の口に投げ込んで［黙らせる］方が良い。あるいは，いっそのことアーチやミナレットの上から投げ落とす方が良い。

ルバーイー：

誠実で禁欲者のようなコーラン朗唱者は

良い美しい旋律で心惹き付ける仕事ぶり

［彼は］魂を熱狂させるもの［＝神］に命を捧げる

もしこの逆であるなら，口を開かない方が良い

第21節「コーラン暗誦者たち（ḥuffāẓ）について[65]」

コーラン暗誦者（ḥāfiẓ）が良い喉と技でコーランを朗唱すれば，聞く者たちの精神が安らぎ，魂が魅了される。もしこれら［のコーラン暗誦者たち］に声の美しさが備わっていれば，聞き手がハール（スーフィズムの修行における陶酔）を体験した者（ṣāḥib-ḥāl）であっても，［その聞き手は］何かをするのが困難になる。

もし発声や [f.17 (a)] 技量が悪ければ，神よ，その［コーラン暗誦者］に眉墨（surma）を食べさせ給え！もし放蕩者で行いが悪ければ，眉墨さえ惜しいので，その喉には石［を詰めるの］がふさわしい。もしこのような状況にも関わらず散々に朗唱するなら，願わくは，その口を貝の口のように，その舌を百合の舌のように，覆ってもらいたいものである。[30-бет]

バイト：

おお神よ，いかなる宴においても彼に歌わせ給うな！

---

[65] ナヴァーイーはヘラートに「コーラン暗誦者たちの館（dār al-ḥuffāẓ）」なる施設を建設している［久保 1990：32-33］。

食べ物以外のいかなるものにも彼の口を開かせ給うな！

第22節「楽士（muṭrib）と歌い手（muġannī）について[66]」

喜びを増す楽士と悲しみを拭い去る歌手の双方に，陶酔と苦悩の徒（ḥāl-u-dard ahlı）は命を捧げる。感じの良い歌や旋律を披露する者に，たとえ聞き手の命が現金で捧げられたとしても，悲しみは無い。心の力は良い演奏から，魂の幸福は良い歌声から［生まれる］。上手に歌う歌い手によって，苦悩の徒（dard ahlı）の炎が激しくなり，もし優雅さがあれば，陶酔の徒（ḥāl ahlı）に終末がおとずれる。より悲痛に［弾き語りで］曲を奏でる歌い手各々の撥（zaḫma）は，傷ついた心に，より効果的に触れる。熱烈な様子の歌い手がその喉から感じの良い歌を絞り出せば，陶酔の徒が燃やした肝から煙が出るであろう。感じの良い楽士に才能と理性が備わっていれば，[f.17 (b)] 人間の心が石で出来ているとしても，［その演奏を聞いて］涙を流すであろう。特に弾き語りをすれば，心の王国にどれほどの騒動を生じさせるであろうか。

修行者たち（sulūk ahlı）にとって恐ろしい場所の１つがこの地点であり，そこでは欠陥も完全さも生じる。修行者（sālik）は，ここにおいて，決定的な嘆息１つで目標に到達することもあれば，魂を弱める酒杯１つで，何年もかかって手に入れたものを失ってしまうこともある。シブリーとヌーリー[67]＜彼ら２人の秘密を神聖ならしめ給え！＞は聴聞（samāʿ）［の実践］において忘我［を体験］し，［修行の］道を歩んで目標の地点に到達した。

多くの神の徒（ahl Allāh）がオルガンの音に惹かれて修道院［＝酒場］の中に入り，信仰とイスラームの現金をマギの子供［＝酒場の給仕］たちにふんだんに与えた。酒場（may-ḫāna）において酒を拒む者がいる［としても］，あし笛の音色が，心

---

66) ナヴァーイーは積極的に楽士を保護・育成しており，また当時のヘラートでは，ナヴァーイーら有力者が主催する交歓会に，しばしば楽士や歌い手たちが招かれた［久保 1990：42, 46, 49］。本節では音楽とスーフィズム（および飲酒）の関係が述べられており，スーフィズムへの傾斜と音楽愛好が関連付けられるが，これはスーフィズムにおける「聴聞（samāʿ）」の実践によって説明できる［ニコルソン（中村訳）：79, 82-87］。

67) Abū Bakr Dulaf Šiblī (861/62-946) と Abū al-Ḥusayn Nūrī (ca.840-907) はバグダードで発展した古典期スーフィズムを代表するスーフィーたちであり，ヌーリーは音楽を容認していたことで知られる［アッタール（藤井訳）：308（訳者による解説）］。

惹かれる旋律ひとつで恥をかかせる［＝酒を飲ませてしまう］であろう。もし誰かが酒を飲みたいと思わないようにしていても，ギージャク（またはガジャク：弦楽器の1種）が伸びやかな呻きで［飲酒を］懇願し，タンブール（ギターの1種）が音階（parda）に潜む騒動によって破滅させ，健やかさの帳（parda）を引き裂き，チャング（ハープ）が泣いて喉を詰まらせ，ウード（リュート）の舌の調べが，チャングにも増して［飲酒を］奨励する。そこへラバーブ（胡弓に似た弦楽器）が額突いて［飲酒を］嘆願し，コポズ（弦楽器の1種）が耳を掴んで歓楽へと誘う [31-6ет] 曲を奏でるであろう。［さらに］カーヌーン（竪琴の1種）とチャガーナ（鈴の付いた打楽器）の呻きが耳に [f.18 (a)] 入り，月の如き酌人が跪き，酒が高杯に注がれるとき，［禁酒を心がけている人物に］禁欲や敬虔の効力もなければ，知性や理性の判断力もないであろう。

恋情（'išq）によって清貧の徒（faqr ahlı）に恥をかかせるとき，たとえこれら［上述］のものが欠けているとしても，その［恋情の］炎を輝かせるには，あし笛を吹く息の風と酒の油である。アラブの駱駝は駱駝追い歌（ḥudī＜ḥudā'）の旋律で砂漠を歩むのが速くなり，雷雲の駱駝は雷鳴の音によって稲妻を走らせる。

人間の真の友は誤った考えであり，人がこの災厄を免れることは不可能である。

さて，この集団の残りの［凡庸な］者たちも愉快で労苦を拭い去るが，真に賤しい行いをする物乞いである。歌い手と楽士は懇願と嘆願によって奪う者である。依頼主のもとに褒賞や恩賞がある限りは，彼らは従者であり奉仕者である。付き合いにおいて恩寵が多い間は，彼らにとって，汝のすべての命令が取るに足りないもの［＝お安い御用］である。宴において贅沢が影を潜めると，彼らの仕事ぶりは勝手気侭となる。恩恵と言えるものが完全に無くなったとき，彼らの心は完全に汝に満腹する。たとえ何年も利益を得ていても，汝からの恩恵がよく分らないふりをして，汝の脇を通り過ぎる。あまりもらえなければ感謝せず，たくさん [f.18 (b)] もらっても恩に着ない。

大部分は放蕩者で性根が悪く，残りの者は性根が曲がっていて言葉遣いが荒い。その行動は異国の調律されていない楽器のようであり，その言葉は余分で不適切な媚のようである。彼らの性質からは忠実さが失われており，忠実な人々（vafā' ahlı）は彼らのもとで拒絶され苦しめられる。歌い手は不実であり，［楽士は］騒々しく質（たち）の悪い

物乞い[68]［のよう］で恥知らずである。何年も汝が保護して同じ家にいても，1度何かを与えなかったら赤の他人である。男の姿をした艶かしい美女（šāhid）であり，感じの良い衣服をまとった，家を滅ぼす厄介者である。貴人たちにとっては声と曲とで心を奪う者であり，庶民にとっては太鼓と旗を持った追い剥ぎである。

韻文：

誰もこの騒擾に出くわさないように！

その音に救済の鳥[69]が飛び立ってしまうから

［鳥が］戻って来ようとすると，いつも太鼓を打ち鳴らす

まさにその鳥が必ず逃げ出すようにと [32-бет]

第23節「物語師（qiṣṣa-sāz）と講談師（qiṣṣa-ḫ^{v}ān）について」

物語師は役立たずであり，講談師は馬鹿げた話をするが，マアジューン[70]漬けの者（ma'jūn-nāk）やハシーシ常用者（bangī）は，その［実演の際の］人だかりを目指そうとする。常に大きな音をたてて手を打つのは，理性や羞恥の鳥たちを驚かせ逃げ出させるためである。その行動は明らかに気違いの振る舞いであり，その言葉にははっきりと酔っ払いの特徴がある。[f.19 (a)] 砂糖菓子（qandī）だと言って駱駝の乾糞を売り，その人だかりの中で信じた者たちが，それを買って食べる。

バイト：

マアジューンや砂糖菓子を買わない者が

---

68)「騒々しく質の悪い物乞い」の原語はkungurである。kungurはšāḫ-šānaとも呼ばれ，雄羊の角（šāḫ）と肩甲骨（šāna）を戸口で打ち鳴らして物乞いし，何ももらえなければ短剣で自らを傷つけ，自分の子供にも同じことをさせようとするという（「凡例」に前掲のMu'īnとSteingassの辞書参照）。ここでは楽士の喩えに用いられている。

69)「救済の鳥（najāt ṭayrı）」は，古代イランの伝説・神話やフェルドウスィーの『シャー・ナーメ』において英雄を救う，空想上の不死鳥スィーモルグを指すと考えられる。

70)「マアジューン（練られたもの）」については，同時代の『バーブル・ナーマ』でしばしば言及されており，麻薬として嗜まれるものであったことが判る。同書中，「酒宴（čağır ṣuḥbatı）」に匹敵するものとして「マアジューン・パーティー（ma'jūn ṣuḥbatı）」が挙げられ，両方同時には行うべきではないと述べられている［バーブル（間野訳）：358-361, 22-23（注136）；BN/J：359］。なお，現代ウズベク語辞典（「凡例」参照）によれば，маъжун とは「阿片を混入した様々な薬味を含む刺激性薬用混合物（ペースト状）」である。

［起こす］騒ぎのせいで，そのバザールはさっぱり静まらない

第24節「忠告者（naṣīḥat ahlı）である説教師（vā'iẓ）たちについて[71]」

説教師は＜神が言った＞［こと］を言い，＜神の使徒が言った＞［こと］に違反せず，神と使徒の道を歩み，自分が歩み始めた後に，忠告によって人々にも歩み始めさせねばならない。［自分が］歩まない道に人々を導くのは，旅人を街道から外れさせ，荒野に入らせ，砂漠を彷徨わせること［と同じ］である。［自分は］酔っぱらっているのに人々に素面であることを命じるのは，［自分は］眠っているのに，人に覚醒を教えるようなものである。眠っている時に言うのは寝言（jelvigän）であるが，その寝言に従うことを何と言うのであろう。

説教（va'ẓ）は，覚った指導者（muršid）の仕事であり，完全なる神の徒（ahl Allāh）の仕事である。第一に1つの道を行かねばならず，その後，人々を導かねばならない。道を歩まずに［＝道を外れて］進む者は，迷い，目的地以外に到着する。

説教師とは，その［説教の］会に，空虚な［状態で］来た者が [f.19 (b)] 満ち足り，満ち足りた［状態で］来た者が空虚となるものである。説教師が学識豊かで，敬虔であるなら，その忠告に背くのは不幸なことである。

命じておいて自らは実践しない者の言葉は，誰にも影響や効果を及ぼさない。台本読み（naẓā'ir-ḫ^{v}ān）とともに講話を行うのは，助手をつけて歌うカッワール（スーフィーの歌い手）［と同じ］である。[33-бет]

韻文：

説教師が助手なしに説教ができないのであれば

前者［＝説教師］に歌い手[72]，後者［＝助手］に編曲者（ayalġučı）の使命がある

神の言葉を言うことができない者は編曲者ではない

---

[71] 前述ハティーブ（注63）が金曜日の集団礼拝における定例の説教（ḫuṭba）を行うのに対し，「ワーイズ」の「説教の会（majlis-i va'ẓ）」には時間と場所の規定はない。当時の最も有名な説教師で文人でもあるKamāl al-dīn Ḥusayn Vā'iẓ Kāšifī は礼拝所以外に，マドラサやマザール（聖者廟）など様々な宗教施設で説教を行っている［ḤS：345；久保 1990：36］。

[72] 最新のタシケント刊キリル文字版では，yırav（歌い手）ではなくyarad/ ёрод（楽器の1種）としている［MQ/U^2：33, 282（note 50）］。

［編曲者なら］１つの楽器さえ自分で選ばねばならない［のであるから］

第25節「占星術師たち（ahl-i nujūm）について」

占星術師（munajjim）とは，恒星と惑星を観察して神意（ḥukm）を尋ねる者であり，砂粒を数えて出鱈目を言う砂占い師（rammāl）に似ている。その天文表（zīj）は無意味で，その暦（taqvīm）は間違って分割されており，そのアストロラーベ（天体観測儀）は避ける必要があり，その月宿表(?)（ruq'at al-qamar）は役に立たず無益である。これらの工具で騒ぎを起こし，至高なる神の裁定や判断の言葉を忘れた愚か者である。［それは］自身の手に１個のざくろを持っていながら，［そのざくろに］いくつの膜（内皮）といくつの室（内皮で仕切られたまとまり）があり，膜で仕切られた各々の室に何粒あり，その粒は辛いのか渋いのか，あるいは甘いのか酸っぱいのか，知らない［のと同じである］。それを何度も割って食べ，その特徴や特質を知り，人々にも [f.20 (a)]［それを］説明しているにも関わらずである。

廻る天の星や宮に関する話をし，それらによって吉凶の神意を尋ね，歌にして言う。10の言葉のうち１つも当たらないにも関わらず，このみっともなさをわかっていないか，あるいはわかっていても意に介しない。＜占星術師たちは嘘をつく＞と言われる通り，その言葉は嘘であり，自身が真実の国から遠く隔たっており，その洞察の眼に不注意の幕を掛けている。

バイト：

天や星の状況に損得が無いわけではないが

それを知るのは神であり，占星術師が知る由もない [34-бет]

第26節「商人たち（tijārat ahlı）について[73]」

旅を信条とする商人たち（tujjār）は，様々な気候帯や様々な町の状況に通じており，驚くべき物語や珍しい奇譚を語る。山や岩や砂漠の砂に駱駝を進ませ，大海の波のうねりに利益を得たり損失を被ったりする。合法的な糧を得るために長い距離を旅し，

[73] 商人の中でも大資本に基づいた遠距離交易に従事する商人（tājir）を指しており，次節の「町の仲買商人」や次々節の「バザール商人（小売商）」と明瞭に区別されている。

外面的な安定を求め，内面的な混乱に見舞われる。手もとの1が100になることを考えて取引し，所有する綿の粗布（böz）が亜麻（katān）になることを心で願っている。

［以下のようであることが望ましい：］このような人物の目的が利益だけではなく，この利益獲得のための苦労が厳しいものでなく，[f.20 (b)] 取引のために船を海に駆ったり，真珠のためにワニの口に足を踏み入れたりしない。財産や金を大物ぶる理由としたり，下僕や召使いを，羽振りを利かせる要因と見なしたりしない。高価な素材を取っておいてぼろ着を着たり，美味しい食事を惜しんで乾いたパンを食べたりしない。苦労は生活を楽にするためであり，利益は心の安逸のためである。旅によって［遠方にいる］気高き人々と語らうことが願いであり，彼の支援によって不幸な者たちの問題が解決する。シャリーアによるザカート（救貧税）の責務を滞らせず，自分から［ザカートを］貧者たちへの恩義と見なさない。

さもなくば，財産を大切に守って自らを卑しくし，自身の財産をタムガ（商税）から盗んで[74] 自らを賤しめるであろう。あるいは，相続人に散財させるために蓄財したり，不幸に見舞われるために儲けたりするであろう。このような人物は大尽（ḫᵛāja）ではなく，金で雇われている者［と同じ］であり，自らの下劣さや賤しさでいつも病んでいるのである。

バイト：

このような人物に理性や知性のあかしはない

世の大尽（ḫᵛāja-yi jahān）であったとしても，物乞いだと知れ

第27節「町の仲買商人（šahrda alıp satqučı）たちについて」

町はずれの仲買商人（shahr tahı sawdāgarı）[75] は欺瞞を宗とし，自身には利益を，ムスリムたちには欠乏を［与えることを］たくらんでいる。人々の損失が彼の利益で

[74]「自身の財産をタムガから盗む」とは，商税を支払わずに蓄財することを意味すると考えられる。なお，ティムール朝期には，モンゴルによって導入された「タムガ」を，シャリーアに反しないよう「ザカート」と詐称していたから［久保 1988：145（注15)］，ここで言うタムガは前出のザカートと区別されていない可能性が大きい。

[75] 原文で「町（šahr)」に続くTHYの文字列をtuhī（空の）と読む可能性もあるが，tah（底，端，はずれ）に3人称所有接尾辞のついた形と判断した［参考（ペルシア語）：tah-i ḫiyābān「大通りのはずれ」(「凡例」に前掲の黒柳『ペルシャ語辞典』)]。

あり，安く買って[35-бет] 高く売るのが彼の目的である。買う時には亜麻を綿の粗布と言い，売る時には綿の粗布を評して亜麻［の場合］より多くのことを言う。毛織物（šāl）を絹織物（torqa）の代わりに［売りに］出せるなら，時機を逸することはなく，莚（むしろ）を錦（zar-baft）の代わりに売れるなら，不手際はない。その店舗には公正さ以外のすべての商品があり，その不正により，[f.21 (a)] 全ての品物を揃えて，不手際以外のことを自認する。

商人は旅人であり，彼［＝仲買商人］は主婦に近い［存在である］が，前者を兵士，後者を［まさに］主婦と言うことさえできる。前者［＝旅をする商人］には利益があるが，買う者には財貨の損失［が生じる］。双方に嘘の誓いをする仲介人である。

韻文：

よく見れば，これらの者たちは人間ではない［と判る］

彼らから遠離っていれば，汝に利益がある

第28節「バザール商人たち（bāzār kāsibları）について」

バザールにいる商人（sawdāgar va kāsib）は，神を裏切り，約束を守らない。1の値打ちのものを100で売れば，彼らに1000の自慢となり，1000に達するものを100で入手すれば，彼らには，いささかの不名誉もない。正しく取引することは彼らにとって損失であり，約束を守ることは彼らにとって悪行である。彼らは来世の知識の取引から顔を背け，行為の秤の公正さ[76]に抗議する。父子で騙し合うのが彼らの仕事であり，自分たちのペテンを「気高い書記たち[77]」に隠そうと考えている。

バイト：

これらの者たちの中で，自らを聖者と言う者は

もし汝が確かめれば，1人の詐欺師［と判る］

---

[76] 『コーラン』の一節「復活の日のために我らは公正な天秤を設ける」［*Qur'ān*：21/47］や「その日の秤は公正そのもの」［*Qur'ān*：7/8］などに基づいており，「行為の秤（'amal mīzānı）」とは，最後の審判で人間の現世における行為を量る，神の天秤を指す。

[77] 『コーラン』の一節「汝らは審判を嘘だと言っている。しかし，汝らの上には監視役たちがいる。気高い書記たちがいる。彼らは汝らの所業をよく知っている」［*Qur'ān*：82/9-12］に基づいており，「気高い書記たち（kirām al-kātibīn）」とは，人間の現世における行為を記録する役目の天使たちを指す。

第29節「熟練した職人（hunarvar ṣan'at-pardāz）全般について[78]」

熟練した職人は嘘がこの上なく多く，真実はこの上なく少ない。彼らの仕事上のごまかしは，可能性や限度を超えており，彼らの違約は，想像や予想を [36-6ет] 上回っている。男子にとって偉大な技能（hunar）である［はずの］真実の言葉は，彼らのもとではこの上ない欠点であり，人間にとって深刻な欠点である［はずの］嘘が，彼らの前では言葉が［要ら］ない［ほど立派な］技能である。

マスナヴィー：

朝から晩まで働く職人は／腕前のほどでは魔法使いである

この道で鍛錬して／誰かのためにやっつけ仕事をする

支払う者が金持ちであれ貧乏であれ／騙すのは不手際ではないから [f.21 (b)]

第30節「シフナ（軍政官）と夜警（'asas）と囚人（zindānī）たちについて[79]」

ダルガ（地方長官）やシフナや夜警は，盗人や人殺しにとっての支援助であり救助者である。囚人たち（zindān ahlı）は地獄の住人であり，夜警たちは懲罰の天使であり，シフナは地獄の［番をする天使］マーリクのように，支配者であり高位の有力者である。罪人たちは軛（ṭawq）と鎖（zanjīr）で囚われており，この鎖と軛は，「［地獄の］鎖と枷（salāsil va aġlāl）[80]」を思わせる。

スリ（kīsa-bur）と博徒（muqammir）は夜警たちからバザールと賭博場（qumār-ḫāna）を賃借している［＝賄賂を渡して見逃してもらっている］。

盗人たちの心が牢獄の奈落によって闇に包まれていることは明白であり，犯罪者たちはそこで，心を乱した精神のように苛まれる。そこでは，罪人には希望よりも恐怖が多く，悪人には，抵抗よりも屈服が多い。誰かが［処刑のために］引っ張り出されるごとに，そこに残る者たちは我を失うことになる。［処刑を見て］戻って来た者たち

---

78)「熟練した職人」の中には，ナヴァーイーが保護した画家（naqqāš）や技師（muhandis）［久保 1990：41-42, 44］も含まれている可能性がある。

79)「シフナ（あるいはシャフナ）」は町の治安維持の責任者であり，「ダルガ（ハーキムとも呼ばれる）」の配下にあった。シフナは1都市に1人であるが，「夜警」は複数いたと考えられる。

80)『コーラン』の一節「我ら［＝神］は背信者に鎖（salāsil）と枷（aġlāl）と火焔を準備しておいた」等に基づいており［*Qur'ān*：76/4］，単に犯罪者につける鎖や枷を指すのではなく，最後の審判の後に，地獄に送られる者につける鎖と枷を指している。

がする話は残酷なものであり，様子を伝える者たちが［語る］出来事は不安なものである。ある者は，［処刑された者が］絞首刑に処せられるとき立派に立っていたと言い，ある者は，［処刑された者が］首を打たれるとき立派に座っていたと言う。ある者は，殺された者の雄々しさを惜しみ，ある者は，孤児がルバーイーを詠んだ[81]ことに戸惑う。この種の困難な事態が際限なくあり，このような馴染めない状況が数え切れないほどある。

夜警は働きたい時に犯罪者の逮捕に努めるが，自身の求めるもの［＝賄賂］を得た後に，［その犯罪者を］釈放する理由［が生じる］。

この居所［＝牢獄］は現世における終末のようであり，[37-6ет] 最後の審判における地獄を思わせる。枷と鎖をつけられた罪人たちが町の牢獄にいる様は，[f.22 (a)] 恋情（'išq）に囚われた者が「悲しみの家」［注5参照］にいるようである。神よ，すべての者を，この場所に連れて来られる行為から遠ざけ給え！この居所に陥る状況から離れさせ給え！

バイト：

多くの苦難と懲罰がある居所の１つである

そこでは，陥った者に無限の苦悩と困難がある

バイト：

しかし，その禁忌の地（ḥaram）にいる者に特有なのは

せめて神が解放してくれないか，という願いである

第31節「農民（dihqānlıq）について[82]」

農夫（dihqān）は種を播き，土を裂いて，生計の道を開く。もし正直で正しければ，

---

[81] 当時のヘラートでは，きわめて幅広い層に韻文学が愛好され，庶民に位置付けられる者でも詩作し，時には高く評価されていた［久保 2001：76-78］。孤児がルバーイーを学んでいたことについては，第32節参照のこと。

[82] 最初の人間にして預言者のアダムが農耕に従事したというだけではなく，当時大きな影響力を持ったタリーカ，ナクシュバンディーヤにおいても，農耕に従事して農業を発展させることが奨励されていたらしい［ウルンバーエフ（久保訳）：62］。ホージャ・アフラールやジャーミーら著名シャイフだけではなく，ナヴァーイーほか様々な者たち，例えば，当時最有力のカーディーも引退後にこの道を選んでいる［久保 1988：152-153］。なお，ベルテリスは本節の内容にNāṣir-i Ḫusraw, *Sa'ādat-nāma* との類似性を見出している［Bertel's：195-196］。

その［農夫の］雄牛がサーリフの雌駱駝[83]のように思われる。その［農夫の］1対の牛は，力の等しい2人の力士（pahlavān）［のよう］であり，軛をつけられ，彼の前を行く。作業中は息も歩みも合っており，農夫は，牛たちを歩ませるとき，アダムのようである。世の繁栄は彼らのおかげであり，世の人々の歓喜は彼らによるものである。彼らはどこで活動しても，人々に，幸運もご利益（barakat）ももたらす。

農夫がきちんと種を播けば，神が1粒に対し700の扉を開く[84]。播いた種が［穂を実らせるまでに］育つや否や，刈り取って山積みし，［そこから］収穫を取り出すや否や，虫と鳥がお相伴に与り，荒野の野獣が喜び，蟻の巣が繁栄し，野ロバは心楽しむ。鳩は酔い，ひばりは [f.22 (b)] 歓喜と友になる。刈取り人（oraqčı）は糧を得，穂拾い人（bašaqčı）は眼を輝かせる。耕作者は望みを遂げ，運搬人（pušta-kaš）の願いがかなう。物乞いが満腹し，一家の主の満腹も，まさにこれによる。旅人は食料を得，寄生生活者（mujāvir）は希望を持つ。パン職人はパン焼き釜を赤くし，穀物バザール（‘allāf bāzārı）は活気を帯びる。貧者たちの生計が成り立ち，よそ者たちが十分な幸福を得る。禁欲者は忍耐を得，崇拝者は満足を誇る。[38-6ет] 乞食の持つ袋（ḫarīṭa）にはおこぼれが収められ，王の財宝庫には海と鉱脈の品々［＝宝石］が揃う。農夫が1粒の種を播けば，このような状況となるから，ほかの仕事を褒めること［など］はできない。

その［正直で正しい農夫の］果樹園は天国を思わせ，菜園では魂の幸福が明らかである。木々の1つ1つが緑の天輪であり，木の葉や果実が星々である。それによって貧者たちの酢や果汁が得られ，裕福な者たちの糖果や上質酒（may-i nāb）が得られる。果樹園を飾る様々な果物は，［運び出され］牧草の王国において装備や装飾となる。

このような人は，貪欲さを免れ，嘘や吝嗇と無縁でなければならない。王に税を支払うことを拒まず，困窮している仲間を虐げず，1粒が幸運の真珠を生み出すように，

---

[83]「サーリフ」は『コーラン』によれば，アラブの伝説上の民族サムード族に遣わされた預言者であり，彼に「みしるしとして下された神の雌駱駝」は，サーリフを預言者と信じない者たちによって屠られ犠牲となったという［*Qur'ān*：7/73-77, 11/61-65, etc.］。

[84]『コーラン』の一節「神の道のために財産を費やす人々を喩えれば，それぞれが100の穀粒をつける，7つの穂を出す1粒の穀粒のようである。神は欲し給うた者には何倍にもしてお返しになる」に基づいていると考えられる［*Qur'ān*：2/261］。

また，種を播いて気高き星々［＝収穫］を集めるように［しなければならない］。このような農夫は，アダムの立派な［後継者たる］息子（farzand-i ḫalaf）であるばかりでなく，［彼に］養われる者は彼の息子であり，彼［自身］も清浄なる［選ばれた］者である。[f.23 (a)]

キトア：

農作を職業とした者には

パンを与えることも，その信条となる

かくて，気高さに関しては誰も

アダムとはならないが，アダムの子孫自体は存在する

第32節「孤児（yatīm）や賤しい者（laʾīm）たちについて」

ならず者たち（awbāš）や下賤の者たち（arḏāl）には，ムスリムらしい生活もなければ性質もない。彼らの本性には人間性が欠けており，動物の性質どころか猛獣の凶暴さが彼らの信条である。

孤児が短剣を振り回すようになると，自身は狂犬となり，短剣はその牙となる。素面の時には狂犬であり，酔っぱらった時には，100匹もの犬が彼から逃げ出す。荒野の猛獣のように，彼らの五指は致命傷を与える鉤爪であるが，処刑される日にそなえて，信仰のようにルバーイーを学ぶ［注81参照］。善人悪人［見境なく］突き刺し，蠍のように当たったもの何でも毒牙にかける。彼らには理性も信仰もなく，恥じらいも確固としたところもない。彼らの仕事は信頼できず汚く，彼らのやることは男気がなく恐れを知らない。

町はずれ[85]の賤民は，全般に [39-6ет]［蛇や蠍のような］地を這う厄介な生き物（ḥašarāt al-arż）［と同類］であり，彼らを警戒することは，「必要（vājib）」どころか，「義務（farż）」である[86]。

バイト：

---

[85]「町はずれ」の原語は šahr tahı である（注75参照）。

[86]「必要（vājib）」と「義務（farż）」はいずれもイスラーム法学上の用語で，行為の5範疇において同じ範疇に属するが，ハナフィー派だけは両者を区別する［遠峰：13］。

彼らの性質は人々を苦しめる

預言者は言った<その［類いの］有害な生き物を殺せ>と

第33節「流浪者（ġarīb-zāda）たちについて」

流れ者（jet）やジプシー（lūlī）[87]の大部分は，可笑しな行動をし，単純な原則に従っている。［大道芸で］宙返りをすると卑しさが明らかであり，逆立ちをすると信用ならないことが[f.23 (b)]明白である。彼らの利己主義の顔に駄馬（čemender）が糞をひり，彼らの人間性の輪［＝枠］は彼らの猿につける首輪である。人たることから飛び跳ねて逃げ出し，善には道化て［取り合わず］，非難の扉を自らに向けて開く。

その日得られたものを食べ，明日を思って悲しむことはなく，乞うて何ももらえなかったからといって不平を言うこともない。彼らの故郷や住居は賤しさの廃墟であり，彼らの住処や安住の場は卑しさの小屋である。夜が明けるとすぐに，［大人の］男女が仕事のために方々に分かれ，彼らの子供たちは街路や路地に散らばる。各々が手に入れたものは何でも［持ち寄って］，夕方みなが1個所に集まる。得たものが無くならないうちは寝ようとせず，「明日は何を食べよう」という言葉を知らない。翌日することも前日と同じであり，これが人間にできる［ことであると言う］なら，これも1つの仕事である。

この賤しさは，人であるという傲慢さよりはましであり，この誤りは，善であるという思い込みよりは望ましい。

韻文：

人は，もし人であるなら，自らを人とは言わないだろう

どんな仕事をするときも，それを人間の仕事とは言わないだろう

第34節「しつこい乞食（mubrim gadā）たちについて」

物乞い（tilänči）や乞食の大部分は卑怯で恥知らずである。彼らが日中彷徨うのは，

---

[87] jetもlūlīも流浪民・ジプシーを意味する語で明確な区別はないと考えられる。なお，jetという表記はZenkerにより，Steingassではjatであり（ZenkerとSteingassの辞書については「凡例」参照），最新のキリル文字版ではжутとしている［MQ/U^2：39］。

［その］しつこさで人々から［施し物を］もらうためであり，夜 [40-6ет]泥棒に入るべく，あちこちの人に目をつけるためである。恩恵に与っても恩恵を与えた者に感謝せず，賜り物をもらっても寛大に与えた者への詫びを口にしない。食べても食べていない人のように，胃袋が満ちることはなく，[f.24 (a)]［水を］求めて［与えられても］水腫の者のように，水で満腹することはない。

そのカボチャ製の［施し物を入れる］深皿（kačkūl）は，ハシーシ常用者の精神のように様々な妄想で一杯であり，その乞食袋（ḫarīṭa）は似非スーフィーたちの心のように，色々な心模様で満ちている。彼らが［身体に］結びつけた銅貨は，死体洗い人（ġassāl）以外の者が［その結び目を］解くことは不可能であり，彼らが埋めた銀貨を，ほかの誰かが土から［掘り出して］横取りすることは有り得ない。彼らの目は「貪欲（ḥirṣ）」［という単語］の［最後の文字］「サード（ṣād）」と「強欲（ṭamaʿ）」［という単語］の［最後の文字］「アイン（ʿayn）」であり[88]，彼らがこの貪欲と強欲を魂と心に欠いていると，［彼らにとって］不名誉となる。

彼らの中で自身をカランダル（奇妙な姿で放浪するスーフィー）と呼ぶ者は呪われ，人間らしさを騙し取られ，魔物や悪魔のもとでそしりを受ける。［彼らは］人間やムスリムと言うにはほど遠く，猪や熊の方が，人間らしさにおいて，彼らよりましである。［彼らは］姿を変えて人たることから遠ざかっており，彼らが毛皮を裏返して身につけるのは，動物や猛獣たることのあかしである。大小いかなる類いであれ，野蛮な乞食は，堕落した精神のように，清らかな心を動揺させる。

ルバーイー：

これらの者に人間の使命を与えることはできない

あるいは，人の，信者の，ムスリムの使命も［与えることはできない］

排除すべき腐敗した成分［を持つ者ども］に

「魂の使命を与えよう」と言う人がいるだろうか

---

[88] 周知の通り「アイン」は，「眼」を意味する単語である。一方「サード」には，目に関連して，「駱駝の両目の間の血管」という語義単語であるがある（「凡例」に前掲のDihḫudā, *Luġat-nāma*）。

第35節「鷹匠（quščı）と猟師（ṣayyād）について[89]」

鷹匠は猟師たちの導師（muqtadā'）であり，指揮官（ḥukm-rān）であり，この集団は彼［＝鷹匠］に服属し命令に従う。彼の腕には1羽の鷹がいて，昼夜苦痛と困難に相対している。［夜間の調教のために］夜眠ることは禁止されており，彼が苦難から解放されることはない。［邪悪な］自己の享楽（nafs ḥaẓẓı）のために罪のない［鷹の］脚に [f.24 (b)] 縄をかけ，長い夜にその苦悩を喜ぶ。希望の糸を貪欲さの針に通し，その言葉を持たぬものの目を縫い付けさえする[90]。目的はそれ［＝鷹］を [41-бет] 狩人とすることであり，ほかの動物たち［の命］を狙う処刑人とすることである。

日中平原や荒野へと［馬を］駆り，数羽の哀れな［獲物］の不意を狙い，100もの計略や策略とともに，それらに向けて鷹を放ち，彼に放たれたもの［＝鷹］は虐げられたもの［＝獲物］を捕える。［鷹に］捕えさせた後に，その獲物の頭上に陣取り，その血まみれの哀れなものを屠殺する前に，何か言って，翼を引っ張り翼の付け根を裂いたのか，殺害者である自身の弟子［＝鷹］を［獲物の］心嚢（šaġaf）で満腹させる。このように数羽の血を流し，翼の付け根を裂き，翼を引きちぎる。［それを］鞍帯に結びつけて家に帰り，自分と鷹がやったことを誇る。忌まわしい自己の享楽に1～2杯の［飲酒の］罪を犯し，手元で獲物の肉をカバブにすることであろう。翌日いくつかを自身のベグのところに運んで差し出し，その恩寵に浴し，心には［さらなる］賜り物への貪欲さが増すことであろう。

鷹を自慢して言うことは全て法螺であり，自らを賞賛して語ることはみな戯言である。［調教の］苦難であれ，遊山であれ，カバブであれ，ベグからの賜り物であれ，多くの非難を浴びる事柄の要因は，［邪悪な］自己の欲望（nafs kāmı）である。

マスナヴィー：

これらの要因は全て［邪悪な］享楽主義（nafsānīyat）である

そこに人間性は含まれていない

---

[89] ティルーム朝宮廷において「鷹匠」は側近集団に属し，例えば，スルターン・フサインのもとでこの職に就いた者は，3名確認できる［久保 1997：150］。本節の内容からすると，君主や王族だけでなく，一般のベグ（アミール）も鷹匠を召し抱えていたようである。

[90] 鷹の調教，特に，野生の鷹を捕えて調教する際に目を縫い付けることについては，19世紀前半のカーブル地方の例を参照できる［ラットレー（近藤監訳）：72-73］。

留まるのは金が留まりそうな所である

馬と [f.25(a)] 馬用の大麦と鷹の餌も［留まりそうな所である］

第36節「世話になりながら恩知らずなことをする従者（nökär）について[91]」

篤志家（valī-ni'mat）に保護されたり，自身のベグや主人（maḫdūm）の世話になり恩顧を受けた従者は，以下のようにするのが［一人前の］男であり人である。その［恩人］に対して，臣従と奉仕だけでなく，心の通じたことや命がけのことをなし，慈愛の恩義に報いるべく，その［恩人］に対して献身的行為を為すよう心がける。

以下のことは［一人前の男の］心意気に欠ける。主人がほかの誰かに，より多くの寵愛を示したことに関して，不満を露にし，不平を述べ立て，忘恩の徒となり，恩知らずの洪水を [42-бет] 生じさせるに至る。この人でなしはいずれ逃げ出すことになり，敵の門に下るに決まっている。自分が誰かの下僕（qul）だと言って逃げ出す者は，［まるで］下女（dädäk）であるどころか，下女より100倍も小物である。特に［そう言えるのは］，身に余る保護を受け，面と向かって怪し気な法螺を吹いていたような［場合である］。ある場所から別の場所へと逃げる男は，女々しさの土を雄々しさの頭の上に撒くことになるであろう。

このような人物は男らしさの列から外れ，雄々しさの枠の外にいるから，[f.25 (b)] 賢明な為政者のもとで，このような人物に，どうして［一人前の］男たち［を対象とする］懲罰が与えられるであろうか。［一人前の］男たちから男としての罪が見られたら，その首に軛をつけた後で首を打ち，［血で］顔を赤く染めるために，その首に剣を走らせる。しかし，先の［恩知らずな従者の］顔を赤くするには紅がふさわしく，顔を白くするなら適当な白粉がある。それは年老いたおかまと，その従兄弟（ḫāla-zāda）の老いぼれた死体荒らし（kaftār）が驚くものである。

［みなで］協力して［恩知らずな従者に］花嫁の化粧をほどこし，この花嫁の装飾や飾りに様々な奇術を使う。彼の眉を取り去って眉墨（vasma）［をつけるの］にふさわ

[91] nökär（あるいはペルシア語転訛形nawkar）はmulāzimとほぼ同義で用いられる語である。ナヴァーイー自身，若い頃，ティムール朝君主アブーサイード麾下のAmīr Sulṭān Ḥasan Arhangīのnökärとして日々を過ごした経験を持ち，これは決して名誉なことではないが，彼自身は恥じていなかったという［MA：f.166(b)］。

しくするが，［つけた］眉墨を［ひとつに］連ねる。彼の髭を剃り，両耳の耳たぶに巻き毛を乱れた状態で置くが，両頬に左右2つの付け黒子をつける。彼の頭にシロップ用ナプキンをベール（bürünčak）としてかぶせ，貞節な花嫁とヤズドの絹地（gard-i Yazd）が隠れないようにする。とき分けて油の付いた頭の頂にスカーフ（lačak）を投げかけて，若き淑女と衣服の，繊細さが生じ得ないようにする。このように飾った後，輪状の角を持つ歩みの鈍い雄牛に，逆向きに乗せ，町の街路や街区を引き回すのである[92]。

もし紙葉の表面が黒いことが恥とならず，筆が黒い舌を持つことがベールで隠されないのなら，この［上述の］者の格好の競争相手たち［の名］が記され，この者と気脈を通じる親友たち［の名］が述べられ，[f.26 (a)] 歓楽と歓喜の宴が催されたであろう。しかし，そのような恥への非難や，その類いの不面目への侮辱は，いかに世の人々に求められようとも，これ位できっと十分であろう。

バイト：

この類いの嘲笑は人々に甚だしい戸惑いを与える

誰のことであるかを聞いて，死んでしまうほどの［戸惑いを与える］ [43-бет]

第37節「結婚生活（kad-ḫudālıq）における婦人（ḫatun）たちについて[93]」

結婚生活とは，救われることのない災厄に見舞われることであり，薬が効かない苦しみに苛まれることであり，治療のできない苦痛に囚われることである。もし，このことで頭から足まで苦痛や痛みがあっても，その特質には様々な違いがある[94]。

しかるべき妻がいれば，幸運や安心と隣り合わせることになる。妻によって家は飾

---

[92] 写本によっては，この後「見物人たちが呪いや誹謗とともに『半人前の兵士（čār dāng-i sipāhīgarī）は水牛で突撃するのか』と言って叫びを上げる」（『 』内ペルシア語）という文が続いている（後掲「付.ローマ字転写校訂テキスト」当該箇所の脚注参照）。

[93] ナヴァーイーが生涯独身を貫いたことは有名な史実であるが，管見の限り，その理由に彼の結婚観・女性観が挙げられたことはない。本節に示された彼の結婚観・女性観は，未婚の重要な要因になり得るものと言えるであろう。なお，最新のキリル文字版（MQ/U^2）は，мукаммал（完全版）と銘打ったナヴァーイー全集に収められているにも関わらず，本節の多くの部分が削除されている。テキスト編纂者が女性であることと無関係ではないであろう。

[94] この形式段落は最新のキリル文字版（MQ/U^2）では削除されている。

られ，妻によって家内は安らかである。［妻が］美人であれば心に望まれ，正しくあれば魂に求められる。［妻が］聡明であれば彼女によって日々に秩序があり，生活の装備が彼女によって整えられ揃えられる。この種の夫婦になれたら，というより，このような幸福が手に入ったなら，秘めた悲しみや労苦において［妻は］秘密を共有する汝の真の友となり，隠された苦しみや苦難に関しては，汝の気の合った近しい友となろう。時代からいかなる迫害を受けようとも，汝の親友は彼女であり，廻る天輪からいかなる試練を与えられようとも，汝と共に座すのは彼女である。汝の心の悲しみに彼女が悲しみ，汝の身体の衰えや不調に，彼女が倒れる。[f.26 (b)]

もし［妻の］麗しさや美しさが人並みで，協調の絆が敵対にもつながっているなら，恐れと期待をもって暮らし，知恵と穏当さによって生活［を営むこと］を知る。結婚生活における幾つかの困難が解決しても，普段は，心に恐れを抱いている。この類い［の妻］にも，不首尾や失敗ともども我慢し，どうにかこうにか，やり過ごすことになるであろう。

しかし，＜神よ，救い給え！＞不適切な縁組みは，夫にとって，陰に陽に，致命的な病である。［妻が］口うるさければ，［夫の］心は苦しみ，下品であれば，魂が虐げられる。［妻の］生活態度が悪ければ，夫の心は傷つき，働きぶりが悪ければ，夫が恥をかく。［妻が］酒飲みであれば，家から繁栄が失われ，行いが悪ければ，家が売春宿（bayt al-laṭaf）となる[95]。

最初に上に叙述された者［＝しかるべき妻］は，時の母から100年に1度生まれることがなく，10万人に1人出会うことがない。出会った者の頭上に王冠あれ！この幸運が彼への祝福となれ！[96]

さて，この集団を至高なる神は不完全かつ不正確に創造し[97]，完全さと正しさを彼

---

[95] 2行上の「働きぶりが悪ければ…」からこの箇所まで，最新のキリル文字版（MQ/U^2）では削除されている。

[96] この後（つまり次の形式段落の初めから）注98の箇所まで，最新のキリル文字版（MQ/U^2）では削除されている。

[97] 『旧約聖書』において人類最初の女性イブはアダムの肋骨から創られたとされるが，『コーラン』においてもアダムからアダムの妻が創られたとされている［*Qur'ān*：4/1］。また『コーラン』には，「男は女より優位にある。というのも，神がお互いの間に優劣をつけ給うたからであり，また男が金を出すからである」という一節もある［*Qur'ān*：4/34］。

女らの本性から遠ざけた。彼女らの行いを良くないものにし，大部分の [f.27 (a)] 男たちを，彼女らの哀れな荷担ぎ（bār-kaš）となした。騒動と欺瞞が彼女らの仕事であり，奇術と裏切りが彼女らのたくらみである。神の恩寵に感謝せず，人々の善による恩義を認めない。無遠慮が彼女らの信仰であり，不正が彼女らのならいである。見栄が彼女らの流儀であり，自慢が彼女らの成果である。彼女らの信仰には，理性の無さゆえの不足があり，彼女らの理性には，信仰の無さゆえの弛みがある。彼女らの衣服は自己の汚れゆえに清潔ではなく，彼女らの衣類は本性の邪悪さゆえに汚れている。

彼女らは，素面の時には無知の酒で酔っており，酔っている時には酒と愛人（ma'šūqa）［女性形ではなく誇張表現］を崇拝する。彼女らの欠点を見る視線は，欠点を探す技能である。計略と詐欺においては魔法使いであり，欺瞞と策略においては魔術師である。罪のない者たちに対する彼女らの悪意と嫉妬は，死に至らしめるものであり，無実の者たちに対する彼女らの嘘と中傷は，まことしやかである。彼女らが真実を支持することは困難であり，彼女らが偽りと縁を切るのは難しい。頬紅で顔を赤くするのは彼女らの装飾であり，言葉の途中で顔に黒さを求める［＝すすんで恥をかく］のは彼女らのならいである。妖精のような姿をした王族の夫に対して，彼女らがやることは裏切りと圧制であり，愛人である魔物のような所作の黒人（zangī）に対して，愛と団結をきまりごととしている。彼女らが帳の向こうに座すのは策をめぐらす［ため］であり，着飾って馬に乗るのは [f.27 (b)] お馬遊び（aspak-bāzlıġ）［のため］である。彼女らの織り糸（čilla）は蜘蛛の糸であり，このような人の覆いにどうして秘密を隠せるであろうか。

古い革袋［＝年老いた顔］に頬紅を塗り，震えている頭［髪］に装飾の房を突き刺す下女（kanīz）がいたら，天が彼女の頭を死の石で打ちのめす方が良い。もしこの集団の中に，着飾ることを望む年老いた下女（dädäk）がいるなら，［それは］大麦を食べられないロバが手綱と馬衣に絵模様を求めているの［と同じ］であり，これらの者たちの哀れな夫は，荷を曳くロバであり，無能な寝取られ男であり，下僕というより下女である。

すべての人に違いがあるように，これらの者たちにも数え切れない，無数の違いがある。この違いは3つに大別される。1つは身分の低い者たち（'avāmm），1つは身分

の高い者たち（ḫavāṣṣ），もう1つは最も高貴な者たち（ḫāṣṣ al-ḫāṣṣ）である。

身分の低い者たちは動物や猛獣に似ていて，飲み食いや眠ることで喜ぶ。彼女らの［神への］服従は飾りや装飾であり，信仰はうわべや見せかけである。彼女らの信条はイスラームを無視することであり，彼女らの願いや望みは放蕩にあることが知られている。

身分の高い者たちは［堕天使］イブリースの信条に倣い，魔物の慣習に従っており，彼女らのやり方は欺瞞であり，やる事は報復である。彼女らの正論は策略や詐欺師めいたことであり，彼女らの正しさや敬虔さは，圧制や [f.28 (a)] 背信行為めいたことである。裏切りや欺瞞においては，彼女らのもとで魔物が破滅［し］，堕落と策略においては，彼女らの前で悪魔が灰［となる］。彼女らのもとでは天使たちが愚かだと非難され，彼女らの前では悪魔たちが愚鈍とされる。家庭を破壊することは，彼女らにとって，礼拝所を建てることのような技芸であり，不法な殺人は，彼女らによって，死者を生き返らせることのように，賞賛される。100の善に1000の悪［で報いること］が彼女らの仕事であり，蜜を運んでくれた者を毒牙にかけることが，彼女らの安らぎである。貞節と正しさの家が彼女らによって破壊され，健やかさと節制の館が彼女らによって壊される[98]。

彼女らの欺瞞については，多くの学問を知り非常に注意深い賢者たちが，数々の書を著し，何冊も［の著作を］書いている。随分力を入れて説明しているが，それでもなお，自らを無力で至らないと考えている。［私の］この混乱した幾つかの言葉で，どのような叙述ができるであろう。先人たちの記述の100分の1になら到達できるであろうか。

さて，最も高貴な者たちは，これらの者たちの正反対であり，真実を言い，真実を認め，その言葉に [44-6ет] 真実があり，その心にも真実がある。イスラームの学者たちは彼女たちから希望を与えられ，偉大なる聖者たちは，彼女たちの息吹の恩恵に浴している。［神の］使徒たる預言者たちを彼女らの賞賛者と知れ！［神の］側近たる天使たちを彼女らの姉妹と［知れ］！貞節の糸で編まれたベールが彼女らの頭を覆い，[f.28 (b)] 貞淑の布で出来たブルカが彼女らの顔を隠している。神よ，このブルカをそ

[98] 注96の箇所からこの箇所まで，最新のキリル文字版（MQ/U²）では削除されている。

の顔から遠ざけ給うな！惓惰の風でこの覆いからその顔をのぞかせ給うな！

第38節「似非シャイフたち（ri'ā'ī mašā'iḫ）について[99]」

似非シャイフは気取った見栄張りである。金めっきをほどこした銅［と同じ］であり，外見は良いが内面は良くない。その姿（ṣūrat）はダルヴィーシュのようであるが，実質（ma'nī）は端から端までごまかしである。その［身なりの］装飾はみな規定であり，その奇蹟（karāmāt）は完全にまやかしである。

そのターバンは首長が負う荷であり，その頭の毛の1本1本が，腐敗した考えである。その肩に羽織っているぼろ着（muraqqa'）は様々な色模様できらめいており，その外衣は欠点を隠す覆いで，糸の1本1本が偽善の糸車を回す。その歯ブラシは貪欲さの牙を研ぐやすりであり，櫛入れには嘲笑（rīš-ḫand）の道具を隠している。さいころ遊び［＝ペテン］のように数珠を回し，人に見せるために［わざと］長い目に礼拝する。幸運の帽子は，その幸運の主［＝金持ち］用のターバンであり，長い目の［ターバンの］組紐は狐の尾を思わせる。時宜を得ないその叫びは非常に不快なものであり，時間に関係なく鳴く雌鶏のようである。間抜けさゆえに任意の礼拝での祈り（awrād）の際に大騒ぎする。それは，宴席において酔っ払いが鶴のように喚く様に似ている。

その全ての言葉が策略を煽り，全ての行動に私欲が混じっている。正夢（vāqi'a）はすべて仕組まれたものであり，覚醒して言ったことはすべて嘘である。［似非シャイフが実践する］聴聞（samā'）は原則から [f.29 (a)] 外れており，感知（vajd）と意識の喪失（ṣa'qa）[100] は定義の意図を充たしていない。その姿は複雑怪奇で，そもそも頭から足まで全く実質が無い。この邪悪な本性とこれほどの粉飾が，清らかな男たちの状況［との対比］によって，彼［＝似非シャイフ］のもとに示される。何と悲しいことか。［これは］恥，10万もの恥である。

---

[99] ここに言う「シャイフ」とは，スーフィズムにおける指導者への尊称であり，同時に，主に聖者廟に付設された修道場等の責任者の職名でもある。聖者廟に付設された修道場等の施設では，しばしば被埋葬者の子孫がシャイフに任命され，当該施設のワクフ財産の管財人職を兼務した（注40も参照のこと）［久保 1990：31］。

[100] 前出（注67）の「聴聞（samā'）」と同じく，「感知（vajd）」と「意識の喪失（ṣa'qa）」もスーフィズムの修行における忘我状態を示す用語である［ニコルソン（中村訳）：79］。

奇妙なのは，この［神の恩寵の］顕現者［＝シャイフ，聖者］にもムリード（弟子）たちがいて，みな彼に仕えて心奪われ落ち着かない。彼はこの店舗［＝修道場］を方策によって運営し，この人だかりを虚偽によって維持しているが，そこは悪魔も戸惑う場所であり，呪われた魔物にさえ戒めとなり，嫌悪をもよおさせる。[45-6ет]

韻文：

清貧の名とともに，これほどの詐欺欺瞞にこの偽善

［それはまるで］筵に座す帝王が行使する王権のようである

もし後者［＝帝王］が自らをダルヴィーシュ，前者が［自らを］帝王と考えても

驚くことではない，両者ともに理性と廉恥が無いのだから

第39節「酒場の人々（ḫarābāt ahlı）について」

酒を飲んで時を過ごす酒場の俗人（rind）[101] は，泡のような飲酒欲を頭にわかせ，酒瓶のように頭を酒杯のもとに置く。どこであれ酒場（dayr）の宴を見ると必ず，酒壷を運ぶ仕事を口実に自らそこへ行き，名誉のターバンを頭から取り，ひと飲みのために酒商人の足もとに［ターバンを］投げ出す。酒場（may-ḫāna）に入り浸って家財を無くし，酒杯に従属して節度を失う。酒場の給仕（muġ-bačča）たちは，その手で酒杯を運ぶとき，各々の富裕と栄華がジャムシード[102] をも凌ぐ［かに思える］。［酒場の俗人は］酒場の給仕たちの面前で偶像崇拝者となり，酒場の長（dayr pīrı）の足もとに額突く。[f.29 (b)] その襟は陽気な酔っ払いたちの手で引き裂かれ，心も彼らの恋情の剣（ʻišq tīġı）によって傷だらけである。酒場で酒の施しを求め，酒場の壊れた陶器

---

[101] rindは本来「ずるい，狡猾な」を意味するが，「儀礼や慣習ににとらわれていない」という語義もあり，時には「放蕩者」を意味するlavandやfāsiqの類義語として用いられる。スーフィズム色の濃い文学作品においては，シャリーアにわざと背き，世俗の成功に関心を持たず，存在を忘れるために酒に溺れ，神の愛を求めて彷徨う者を指す［Sultan：37（同原著：46）；MQ/U^2：283（note 64）］。黒柳氏も，ハーフェズの作品に見られるrindについて，「放蕩児」と訳した上で類似の説明をしている［黒柳：227］。本稿では，正しく生きる聖人との対比で，「俗人」と訳すが，本文の内容からは，俗人を気取りつつも，その願いは決して俗っぽくない者たちの姿が浮かび上がる。

[102] 「ジャムシード」は古代イランを繁栄へと導いた伝説・神話上の王である。この王の名を冠する「ジャムシードの酒杯（jām-i Jam）」なる盃が，世界の状況と7天の秘密を映したとされる［Yāḫaqqī：156-158］ことから，ここで例えに用いられたと考えられる。

を手にしている。恥辱の街路において，足は裸足で頭も剥き出し［のていたらくで］，悪しき酔っ払いどもに襲われ，額，そして眉間にも傷を負う。

自らの人としての存在を踏みにじるため，会合では靴脱ぎ場をその席とする。頭にターバンを巻く労苦を負わず，その首は外衣の世話にならない。その魂（nafs）が地と友であっても，その志（himmat）の前では天さえ賤しい。時の調べにその心は悲しまず，天［≒運命］による出来事にその精神は苦しまない。存在と非存在を恐れず，有と無がその志の前では同等である。酒瓶のように苦い涙を流すのが喜びであり，酒のように流れ落ちるのが楽しみである。酒場（muġ dayrı）で片時も癒されることなく，時代の幸不幸に目を向けず，時［≒運命］の良し悪しと関わりを持たない。［それは，］世界［のどこ］に［も］このような人物はいないと言い得る［ほど］であろう。

時の人々の圧制ゆえ，このような暮らしは適正であり，［神の］許容の慈悲に値する。存在の酒場（may-kada）の土の上で［はかなく］滅び去るが，その望みは，神の [46-бет] 寛大さによって永遠の存在（baqā-yi jāvidānī）［となること］である。俗人や乞食にこの幸運と幸福がもたらされ，王たちは，その様を夢みつつ悲嘆に暮れる。

ルバーイー：

消滅（fanā'）の酒杯を常にあおる俗人は

現世と来世に拘束されていない

神の慈悲を願いつつ昼夜酔っぱらっているが

偽善を崇拝する禁欲者よりずっと良い

願わくは，全ての不幸な者に，神がこの消滅の幸運を近付け給い，改悛の幸福と永遠の存在を運命付け給わんことを！

第40節「ダルヴィーシュ [f.30 (a)] たちについて[103]」

ダルヴィーシュとは，［神の］満足（riżā'）[104] に思いをめぐらす者である。たとえ内

---

[103] ナヴァーイーは本書中，スーフィズムにおける修行者を様々に表現しているが，「スーフィー」はあまり用いず，「ダルヴィーシュ」（およびsālik）を最も一般的な表現として用いている。

[104] 「［神の］満足（rizā'）」は，ナヴァーイー自身が本書第2章第9節で解説しているように（本稿「はじめに」第3節参照），古典的スーフィズムにおける最高の階梯である［ニコルソン（中村訳）：44-45, 59］。

面に100もの針があるとしても，外面は軟膏のようで温厚であろう。

ダルヴィーシュは以下のようでなければならない。真実（ṣidq）と消滅（fanā'）の道を整え，自らをあるがままに示す。利己（anānīyat）の荒々しさを厳しい苦行によってやわらげ，偉大なる努力によって［自己の］情欲（nafsānīyat）の激しさから抜け出し，清貧の道を歩み始めるばかりか，存在による不和の谷を遮断し，消滅による安全の館（dār al-amān）の修行所（jamā'at-ḫāna）に到達する。その志の眼で見れば＜神と同等のもの＞が存在しない，というより絶対的存在以外は全て非存在である［ことがわかる］［注4参照］。その内面は外面に適合する，というより［内面の方が］より清らかであり，内面が外面と同等である，というより［内面の方が］より耀いている。もし，その外面に，内面を隠蔽するための欺瞞が見られるなら，その望みは非難されるであろう。

内面の清らかさが，外面における冴えの無さとどうして矛盾するであろう。財宝のある場所が荒廃しているように，ダルヴィーシュの外衣は引き裂かれている。フェリードゥーン[105]の財宝が廃墟にあるように，清浄なる人々（ṣafā' ahlı）はぼろ着をまとっている。意味［≒実質］を重んじる人々（ma'nī ahlı）のもとには真理が隠されているが，外面を重んじる人々（ṣūrat ahlı）の真理は［自己］主張であり，［自己］主張は真理のもとでは意味がない。

［ひとかどの］男たちは自らの心的状況（ḥāl）[106]の姿を隠し，非難の［対象となる］姿で欺いている。その外面の礎を壊し，内面の [47-бет] 基礎を築いている。運命から何がもたらされようと，自身を［神の］満足へと整え，世間の人々からの厳しい［攻撃による］苦痛や激しい非難に耐えている。［日中の］飲み食いを放棄し，神の満足を求めながら [f.30 (b)] 悲しみを味わい，血を飲んでいる。［神の］満足と［神への］服従の隅（zāviya）を居場所とし，清貧と消滅の荒野で安らぐ。礼儀と謙遜が彼らの信仰であり，敵味方双方に対して良き考えを持つ。この性質とならいによってダルヴィーシュとなるのである。

---

105)「フェリードゥーン（アーファリードゥーン）」は古代イランの伝説・神話上の王で，蛇王ザッハークから王権を奪い返し，ジャムシード以降で最も偉大な王とされる［Yāḥaqqī：331］。

106) ḥālはスーフィズムの用語で，「陶酔」を意味することも多いが，ここでは複数形が用いられ，階梯に沿って変化する「心的状況」を示している［ニコルソン（中村訳）：45］。

ルバーイー：

おお神よ，消滅の鳥を私に馴れさせ給え！

馴れさせるというより，私の罠の獲物とし給え！

清貧の道をも私に歩ませ給え！

消滅の隅をも私の居場所とし給え！

参考文献

BN/J：Bābur, Ẓahīr al-dīn Muḥammad, *Bābur-nāma/ Vaqā'i'*, ed. E. Mano. 2nd ed. Kyoto, 2006.［間野英二『バーブル・ナーマの研究Ⅰ 校訂本』（第2版）松香堂，2006年.］

BN/U：*Бобир, Заҳириддин Муҳаммад.* Бобирнома. Нашрга тайёрловчидар: *Порсо Шамсиев* и *Содиқ Мирзоев.* Тошкент, 1960.

ḤS：Ḫ^{v}āndamīr, Ġiyāṯ al-dīn, *Ḥabīb al-siyar fī aḫbār afrād al-bašar*, ed. J. Humāyī, IV. Tehran, 1333 (1954).

MA：Ḫ^{v}āndamīr, Ġiyāṯ al-dīn, *Makārim al-aḫlāq*, ed. T. Gandjeï. Cambridge, 1979.

MQ/K：*Алишер Навои,* Возлюбленный сердец. Подготовитель сводного текста: *А. Н. Кононов.* Москва-Ленинград, 1948.

MQ/M：Navāyī, *Maḥbūb al-qulūb.* MS. Bibliothèque nationale (Paris), Suppl. turc 327.

MQ/R：*Алишер Навои,* Возлюбленный сердец. Перевод: *А. Рустамов* и *А. С. Старостин.*—*Алишер Навои,* Сочинения в десяти томах. Том 10. Ташкент, 1970.

MQ/U^{1}：*Алишер Навоий*, Маҳбуб ул-қулуб. Нашрга тайёрловчи: *Порсо Шамсиев*; Муҳаррир: *Суйима Ғаниева.* — *Алишер Навоий*, Асарлар（15 томик）. 13-том. Тошкент, 1966.

MQ/U^{2}：*Алишер Навоий*, Маҳбуб ул-қулуб. Матнни изоҳлар билан нашрга тайёрловчи: *Суйима Ғаниева.* — *Алишер Навоий*, Мукаммал асарлар тўплами（20 томлик）. 14-том. Тошкент, 1998.

TB：Bal'amī, A.M. (tr. & ed.), *Ta'rīḫ-i Bal'amī/ Takmila va tarjuma-yi Ta'rīḫ-i Ṭabarī*, eds. Taqī-bahār, M. & M.P. Gunābādī, I-II. Tehran, 1353 (1974/75).

Bartol'd（1964）*Бартольд, В.В.* Мир Али-Шир и политическая жизнь. — *Бартольд, В.В.* Сочинения. Том 2. Часть 2. Москва.［初版：Москва, 1928.］

Bertel's（1965）*Бертельс, Е.Э.* Навои. — *Бертельс, Е.Э.,* Избранные труды: Навои и Джами. Составитель и редактор: *Э. Р. Рустамов.* Москва.［初版：Москва, 1948.］

Bregel'（1964）*Брегель, Ю.* Предисловие. — *Бартольд, В.В.* Сочинения. Том 2. Часть 2. Москва.

Gandjeï, T.（1953）Uno scritto apologetico di Ḥusain Mīrzā, sultano del Khorāsān. *Annali (Istituto Universitario Orientale di Napoli)*, nuova serie V.

Gross, Jo-Ann & A. Urunbaev（2002）*The Letters of Khwāja ᶜUbayd Allāh Aḥrār and his Associates.* Brill's Inner Asian Library, 5. Leiden・Boston・Köln.［書評：久保一之『オリエント』47-1（2004）.］

Mukminova（1995）*Мукминова, Р.Г.* Социальные слои населения по «Махбуб ап-кулуб» Алишера Навои. — Восточное историческое источниковедение и специальные исторические дисциплины. Выпуск 3. Москва.

Muminov & Hairullaev (eds.)（1977）*И.М. Муминов* и *М.М. Хайруллаев*（ред.）Очерки истории общественно-философской мысли в Узбекистане. Ташкент, 1977.

Subtelny, M.E.（1994）The Cult of 'Abdullāh Anṣārī under the Timurids. In: Giese, A. & J.C. Bürgel (eds.), *Gott ist schön und Er liebt die Schönheit: Festschrift für Annemarie Schimmel zum 7. April 1992.* Bern・Berlin・Frankfurt/M・New York・Paris・Wien.

Sultan (1985) *Султан, Иззат* (*Султанов, И.А.*) Книга признаний Навои. Перевод: *А. Зырин* и *С. Иванов*. Ташкент. [原著：*Иззат Султон*, Асарлар (4 томлик). 3-том: Навоийнинг қалб дафтари (2-нашр). Тошкент, 1973.]

Yāḥaqqī, M.J. (1996) *Farhang-i asāṭīr va išārāt-i dāstānī dar adabīyāt-i Fārsī*. Tehran.

アッタール，F.M.（藤井守男訳）(1998)『イスラーム神秘主義聖者列伝』国書刊行会．[底本：'Aṭṭār, Farīd al-dīn Muḥammad, *Taḏkirat al-awliyā'*, ed. M. Isti'lāmī. Tehran, 1984.]

ウルンバーエフ，A.（久保一之訳）(1997) 15世紀マーワランナフルとホラーサーンの社会・政治状況におけるナクシュバンディズムの位置――『ナヴァーイー・アルバム』所収書簡に基づいて――」『西南アジア研究』46.

サアディー（蒲生礼一訳）(1964)『薔薇園――イラン中世の教養物語――』(東洋文庫12) 平凡社．[底本：Sa'dī, *Gulistān*, ed. M.A. Furūġī. Tehran, 1937.]

ニコルソン，R.A.（中村廣治郎訳）(1996)『イスラムの神秘主義――スーフィズム入門――』(平凡社ライブラリー143) 平凡社．[初版：東京新聞出版局，1980年；原著：Nicholson, R.A., *The Mystics of Islam*. London, 1914.]

バーブル，Z.M.（間野英二訳注）(1998)『バーブル・ナーマの研究Ⅲ　訳注』松香堂．[底本：Bābur, Ẓahīr al-dīn Muḥammad, *Bābur-nāma/ Vaqā'i'*, ed. E. Mano. Kyoto, 1995.]

ラットレー，J.（近藤信彰監訳／小澤一郎・登利谷正人訳）(2007)『鮮麗なるアフガニスタン 1841-42――イギリス軍中尉ジェームズ・ラットレーの石版画より――』東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所．[原著：Rattray, J., *The Costumes of the Various Tribes, Portraits of Ladies of Rank, Celebrated Princes and Chiefs, Views of the Principal Fortresses and Cities, and Interior of the Cities and Temples, Afghaunistaun*. London, 1848.]

安藤志朗 (1994) 王朝支配とスーフィー――ジャームのシャイフの場合――『西南アジア研究』41.

久保一之 (1988) 16世紀初頭のヘラート――二つの新興王朝の支配――『史林』71-1.

久保一之 (1990) ミール・アリー・シールの学芸保護について『西南アジア研究』32.

久保一之 (1996) イスラーム期中央アジア古文書学の成果と16世紀ブハーラーの法廷文書書式集『東洋学報』78-2.

久保一之 (1997) ティムール朝とその後――ティムール朝の政府・宮廷と中央アジアの輝き――『＜岩波講座世界歴史＞11　中央ユーラシアの統合 (9―16世紀)』岩波書店.

久保一之 (2001) いわゆるティムール朝ルネサンス期のペルシア語文化圏における都市と韻文学――15世紀末ヘラートのシャフル・アーシューブを中心に――『西南アジア研究』54.

黒柳恒男 (1977)『ペルシア文芸思潮』(世界史研究双書23) 近藤出版社.

遠峰四郎 (1964)『イスラム法入門』(紀伊國屋新書B-11) 紀伊國屋書店.

堀内　勝 (1986)『砂漠の文化――アラブ遊牧民の世界――』(教育社歴史新書＜東洋史＞Ｂ２) 教育社．[初版：同，1979年.]

間野英二 (2001)『バーブルとその時代 (バーブル・ナーマの研究Ⅳ　研究篇)』松香堂.

付. ローマ字転写校訂テキスト

凡　例

1．利用したテキストおよびその略号

K：*Алишер Навои,* Возлюбленный сердец. Подготовитель сводного текста: *А.Н. Кононов.* Москва-Ленинград, 1948.［最初にして唯一のアラビア文字活字校訂テキストである。残念ながら底本とした写本が，価値の高いMS/a，MS/bとは系統が異なり，MS/cと同じ系統のものである。誤植も多く，現在のテキスト校訂の水準で高く評価することは難しい。ただし，8点もの写本を照合した成果が脚注に生かされており，本稿でもこの脚注を随時参照した。］

MS/a：MS. Bibliothèque nationale (Paris), Suppl. turc 327.［1569/70年Sayyid Qāsim Qarābāġīなる人物が書写した写本である。書体の美しさや書写年代の古さでは同系統の写本MS/bに劣るが，テキストにMS/bほど欠落がなく，丁寧に書写されており，書き飛ばした部分も必ず欄外で補足されている。マッダはもとよりシャッダやハムザもよく書き込まれている。別系統の写本を用いたKおよびUZとの照合の結果，より原典に近いテキストであると判断し，本校訂テキストの底本とした。］

MS/b：MS. Bibliothèque nationale (Paris), Suppl. turc 747.［1553/54年Mūsā al-Samarqandīなる人物が書写した写本である。MS/aと同系統の写本で，非常に近い関係にある。MS/aにはない枠線があり，書体も美しいナスタアリーク体で，全体に高級感がある。しかも，書写年代がMS/aより古く，シャッダやハムザもよく見られる。しかし，MS/aに比べテキストに欠落が多いので，本稿では底本とせず，MS/aを補足する目的で利用するにとどめた。］

MS/c：MS. Bibliothèque nationale (Paris), Suppl. turc 962/I.［同じく写本で，ナヴァーイーの他の2作品（*Maǰālis al-nafā'is*と*Ḫamsat al-mutaḥayyirīn*）との合本になっており，2作品目の奥書に，1566年Pīrī b. Murād al-Dizdārなる人物が書写したとある。書写年代は古いが，MS/a，MS/bに比べてテキストの欠落がかなり多く，書体の美しさや丁寧さも劣る。Kの底本となった写本と同系統であり，KやKの底

本（および同系統の写本）に拠ったと思われる，UZを補うには有用である。]

UZ：*Алишер Навоий,* Маҳбуб ул-қулуб. Матнни изоҳлар билан нашрга тайёрловчи: *Суйима Ғаниева*). *Алишер Навоий,* Мукаммал асарлар тўплами (20 томлик). 14-том. Тошкент, 1998. [現代ウズベク語式キリル文字テキストであり，全編を収めている（第1章第37節には大幅な削除あり）。学術的な校訂テキストではなく，底本への言及もないが，おそらくKに基づいており，Kの底本やこれと同系統の写本を補助的に利用した可能性もある。MS/aやMS/bのような価値はないが，ウズベク人研究者によるテキスト解釈を窺うことができ，参考になる点も少なくない。]

2．使用文字

(1) 子音

ペルシア語のアルファベット順にb, p, t, s̱, j, č, ḥ, ḫ, d, ḏ, r, z, ž, s, š, ṣ, ż, ‘, ġ, f, q, k, g, l, m, n, v（アラビア語引用文ではw），h, yとする。これに加えて，語中・語尾のハムザを示すアポストロフィ（’）およびトルコ語のn͡gである。

(2) トルコ語語彙の母音

a, ä［アラビア文字表記における語頭・語中（まれに語尾）のalif／語尾の無声のh］

e, ı/I, i/İ［アラビア文字表記における語頭のalif + yā’／語中・語尾のyā’］

o, ö, u, ü［アラビア文字表記における語頭のalif + wāw／語中・語尾のwāw］

(3) ペルシア語・アラビア語語彙の母音

短母音はa, i/İ, u，長母音はā, ī, ū，二重母音はay, awとする。短母音をa, e, oとしなかった理由は，標準現代ペルシア語より，タジク語やダリー語，さらにはウズベク語における標準的な発音を念頭に置いたからである。

3．単語の表記

(1) トルコ語の単語については，使用文字の違いや母音調和の処理の違い（後述）を除いて，基本的にEckmannとClauson（本稿「*Maḥbūb al-qulūb*第1章日本語訳」の「凡例」参照）に従った。アラビア文字表記では確定されない子音の有声化・無声化については，主に現代ウズベク語式キリル文字版（UZ）を参照した。

(2) ペルシア語・アラビア語の単語については，できるだけ，辞書に見られる標準的・文語的な形で示した。特に，大量に含まれるアラビア語語彙については，ハムザや重

子音も表記した。信頼度の高いMS/aとMS/bでは，ハムザやシャッダがしばしば明記されており，著者にも十分なアラビア語の知識があったと考えられるからである。

ただし，語尾のハムザは，ペルシア語のエザーフェのためにyā'が付記されている場合と，トルコ語の接尾辞が続く場合には削除した。前者の場合はハムザが記されることはなく，後者の場合は，接尾辞の形からハムザが無視されていることが判るからである。また，nabīyのyや'adūvのvも原則として削除した。脚韻や韻文作品の韻律から，無視されていることが判るからである。

(3) アラビア語の定冠詞al- およびAllāhは，ひと続きの語句の途中に見られる場合は，前の単語に続けて表記した（例：Maḥbūb al-qulūbではなくMaḥbūbu-l-qulūb）。本書中の韻文作品では，この表記に基づく読み方でなければ韻律が合わないからである。

(4) ペルシア語のエザーフェは，エザーフェのつく単語に-i/-yiを書き加えた。

(5) 複数の単語（接尾辞は除く）が結合した語，および1語として扱われている複数の単語は，単語をハイフンでつないで表記した。

(6) 複数の単語が等位接続詞vaでつながれ，1語として扱われている場合にも，単語を-u-でつないで表記した。なお等位接続詞vaは，韻律の関係上u/ūとなる場合も多い。

(7) 脚韻部や韻文作品において，重子音を単子音化して読むことが明らかな場合は，重子音中の2番目の子音を( )で括った（例：ḥaqqではなくḥaq(q)と表記）。

(8) 韻文作品における短母音の長母音化については，写本で示されている場合が少なくないが，語義解釈の混乱を避けるため，校訂テキストでは表記せず，代わりに韻律を示した（ただし，固有の韻律を持つルバーイーについては示していない）。

4．母音調和とその処理

(1) 接尾辞を含むトルコ語語彙

アラビア文字表記の子音から判断する限り，ごく一部の例外（書き誤りの可能性が大きい）を除いて原則通りの母音調和が見られる。

(2) ペルシア語・アラビア語の単語にトルコ語接尾辞が続く場合

ペルシア語・アラビア語の単語（名詞・形容詞・副詞）に続くトルコ語接尾辞に，驚くほど前舌母音が見られない。子音の文字から前舌母音・後舌母音を判別できる接尾辞 -qa/-ġaと-kä/-gä，-lıq/-lıġと-lik/-lig，-raqと-räk，-daġıと-däkiの用例から判明した

限りでは，語尾が -k, -g, -ka, -kab, -kan, -kaš, -gar, -vaš の単語，およびペルシア語の kam, kašīda, gūr, gul, nīš, šīva, tīraのみが前舌母音の接尾辞を伴っている（ただし，語尾が -āk, -ka, -kašの単語および šīvaは後舌母音の接尾辞を伴う場合があり，上記の語に類似する-tīyaを語尾とする単語やrasīdaにも後舌母音の接尾辞が伴われている）。

このような現象は，ペルシア語・アラビア語の単語が，抑揚のある発音のままで取り入れられたために生じたと考えられる。

したがって本稿では，上記の語や，これらの例から類推可能な場合（および接尾辞の子音から明白な場合）を除いて，接尾辞の母音は後舌母音とした。また，接尾辞の母音とは関係なく，単語自体の表記は，前述「3. 単語の表記」の (2) に従っている。

5．アラビア語引用文の処理

アラビア語の文章や語句の引用は＜＞で括った。またwāwはvではなくwで示した。

6．校訂テキスト編纂の方針とテキスト間の異同の表示

最も価値が高いと判断した写本MS/aを底本とし，MS/aに近い価値を持つ写本MS/bと現代ウズベク語式キリル文字版UZで補った。この3テキスト間の異同については，脚注で示している（ただし，符号*om.* は「欠落（omitted)」を示す)。アラビア文字校訂版K（およびその脚注K/fn.）と写本MS/cも適宜参照したが，K, K/fn., MS/cにしかヴァリアントが見られない箇所については，原則として注を設けなかった。

なお，意味に違いの生じない場合には，トルコ語接尾辞の違いや有無，等位接続詞vaの有無，トルコ語語尾の -qと -ġの違いには注目せず，基本的に底本MS/aに従っている。また，UZに見られる現代ウズベク語に引き寄せた表記については，本稿の原則に従って読み替えた（例：олмоқ → almaq；бош → baš；сув → su；бергувчи → bergüči；етган → yetkän)。

7．脚韻部の表示

本書は押韻散文で著されており，脚韻部の把握が文章理解の上で重要である。写本MS/a, MS/b, MS/cおよび校訂版Kはいずれも脚韻部の末尾に符号を付したり，空白を入れたりしている（上記テキスト間で常に一致するわけではない)。したがって，本稿でも，各句末の響きを同じくする音節および音節の連なりを，脚韻部と判断して太字で強調した。ただし，これは韻文学における厳密な脚韻（qāfīya）とは異なる。

[f.1(b); 7-бет] Bi-smi-llāhi-r-raḥmāni-r-raḥīmi

Ḥamd an͡ga kim ḏātıġa ḥamd anča kim sazāvār dur, aytsa **bolmas** va ṣanā' an͡ga kim iḥsānıġa ṣanā' anča kim yeri bar dur, bit**sä bolmas**. Ḏātı jamī' kamālāt ṣifātı **bilä mawsūf**, ṣifātıdın majmū' kamālāt kašf ah**lıġa makšūf**. Tanzīhī til šarḥ qılur**dın mubarra'**, taqdīsī el vaṣf etär**din mu'arrā**.

'Aẓamatı bāġıda sipihr-i davvār bir nīlūfardın[1] **kam** va qudratı alıda nujūm-i ṣābit va sayyār[2] ol nīlūfar[3] yüzidä bir nečä qaṭra-yi šab-**nam**. Nīlūfar[4] yüzigä šab-**nam sačquči ham Ol** va šab-nam suyıdın nīlūfarzār[5] balki gulistān-i **İram ačquči ham Ol**. Bī-niyāzlığı janbıda čarḫ-i nigūn bir gadā-yi niyāz**mand** va čāra-sāzlığı alıda dahr-i būqalamūn bir bī-čāra-yi 'ajz-pay**vand**. Vujūdı mulāḥaẓasıda āfarīniš[6] nā-maw**jūd**, ḏātı muṭāla'asıda avvalīn va āḫirīn būdī nā-**būd**. Ḫ^{v}ān-i iḥsānı tegräsidä 'ālī-ša'an šāhlar rizq**qa sā'il** va 'ilm-i bī-pāyānı ta'aqqulıda 'ālī-makān āgāhlar jahl**ġa qā'il**. Qahhārlığı ṣarṣarı učururġa ṣābit va sayyār nastarannın͡g sa**čılgan yafraġları**, [f.2(a)] jabbārlığı qoyunı savururġa dahr-i ġaddār «baytu-l-ḥuzn»nın͡g tö**külgän tofraġları**.

Yoqnı bar qılmaq va barnı yoq qılmaq anın͡g qudratıġa **āsān**, bar-u-yoq va yoq-u-bar anın͡g iḥsānıdın umīdvār va qahrıdın ha**rāsān**. Bir avuč tofraġnı malakūt ḫaylıda ḫilāfat taḫtıġa olturutmaq[7] A**n͡ga yarašur** va yıllar malā'ika-yi muqarrabīnġa pīšvālıq qılġannın͡g boynıġa la'nat ṭawqı Ol **sala alur**[8].

Qiṭ'a: [Baḥr-i Ramal (–⏑––/–⏑––/–⏑––/–⏑–)]

Qādirī kim qudratıdın munča yüz amr-i ġarīb

Bolsa bir[9] sā'atda mawjūd, andın ermäs tur 'ajab

On sek(k)iz min͡g 'ālam va ādam yaratıp äylämäk

Bir kišini «āfarīniš daftarı»dın muntaḫab [8-бет]

Ol qıla alur, an͡ga keldi musallam bu umūr

---

[1] K, MS/b, MS/c, UZ; nīlfardın[MS/a]. [2] ṣābita va sayyāra [K, UZ]. [3] K, MS/b, MS/c, UZ; nīlfar [MS/a]. [4] K, MS/b, UZ; nīlfar [MS/a]. [5] K, MS/b, MS/c, UZ; nīlfarzār [MS/a]. [6] āfarīniš vujūdı [K/fn., MS/c, UZ]. [7] olturġuzmaq [K/fn.]; olturmaq [UZ]. [8] salur [K, UZ]. [9] har [K, UZ].

Gar özi erdi musabbib, līk bu boldı sabab

<Subḥāna ḏi-l-mul**ki wa-l-malakūti**. Subḥāna ḏi-l-qudra**ti wa-l-jabarūti**. Jallat **ālā'uhu** wa 'ammat na'**mā'uhu** wa-lā ilāha ġayrahu>[1].

Na't[2]-u-durūd-i nā-ma'dūd ol maḥbūb-i 'āqibat-maḥmūdġa kim Ḫaqq ta'ālā an͡ga anča[3] qurb va manzalat **berdi** kim 'ālam-u-ādam vujūdıdın maqṣūd anın͡g vujūdı **erdi**. Ḫujasta ṭīnatı rūḥ-i pākdin **ṭāhir** va farḫunda ḫilqatı[4] 'anāṣir tarkībıdın pāk ergäni **ẓāhir**. 'Anāṣırının͡g yeli Maṣīḥ [f.2(b)] an**fāsı** va tofraġı Ya'qūb közinin͡g tūti**yāsı** va suyı Ḫiżr čašmasının͡g zu**lālı** va otı Kalīm diraḫtı[5] nārının͡g išti'**ālı**. Bu 'anāṣırnı rūḥ-i pāk desä, yeri **bar** va rūḥıġa <rūḥī fidāka> demäk sazā**vār**. Ṭā'ir sidra-nišīn Burāq barq-**gāmı** va sā'ir «rūḥu-l-amīn»nın͡g 'ulvī ḫu**rāmı**. Aflāk šabistānı yüzi bahārıdın gul-**šan** va malā'ik 'uyūnı raḫšı ġubārıdın raw**šan**. Kalāmı ša'anıda <wa mā yanṭiqu 'ani-l-ha**wā**> va nuṭqı bayānıda <in huwa illā waḥyun yū**ḥā**>. Asrār-i ilāhīġa ḏātı **amīn**, 'ināyat-i nā-mutanāhīdın ātī <raḥmatan li-l[6]-'ā**lamīn**(a)>.

Maṯnavī[7] : [Baḥr-i Hazaj (⏑– – –/⏑– – –/⏑– –)]

İk(k)i gīsūsı ikki laylatu-l-qadr — bu yan͡ghġ ikki layl ičrä yüzi badr

Bu[8] layl-u-badr olup šam'-i[9] šabistān — 'iḏārıdın ḫūy anda kawkabistān

Bu kawkablardın äyläp Ten͡gri mawjūd — nubūvat ma'šarıġa durr-i maqṣūd

Nubūvat sipihrıda quyaš ergäni ma'**lūm**, muṣāḥıbları ša'anıda aṣḥābı ka-n-nu**jūm** <ṣalawātu-llāhi 'alayhi wa[10] ālihi wa aṣḥābihi ilā yawmi-d-dīni>.

Ammā ba'd, fuqarānın͡g ga**dāyı** va ġarā'ib mastūrlarının͡g[11] čihra-gu**šāyı**, al-faqīru-l-ḥaqīr 'Alī-šīr, al-mulaqqab bi-n-Na**vāyī** <ġafara ḏa**nūbahu** wa satara 'u**yūbahu**> mundaq **'arż qılur** va adāsın özigä **farż bilür** kim:

Bu ḫāksār-i parīšān-rūzgār šabāb [f.3(a)] avānının͡g bidāyatıdın[12] kuhūlat zamānının͡g nihāyatıġača[13] dawrān [9-бет] **vāqi'ātıdın** va sipihr-i gardān **ḥādiṯātıdın** va dahr-i fitna-

---

[1] *om.* (<Subḥāna ḏi-l-mulki ~ ilāha ġayrahu>) [UZ]. [2] *om.* [K, MS/b, MS/c, UZ]. [3] *om.* [UZ]. [4] ḫil'atı [MS/b]. [5] *om.* [MS/b]; diraḫtının͡g [K, MS/c]. [6] al- [K, UZ]. [7] Naẓm [MS/b]. [8] *om.* [UZ]. [9] šam'-u [K/fn., MS/b]. [10] wa 'alā [K, MS/b, MS/c, UZ]. [11] mastūralarının͡g [K, UZ]. [12] K, MS/b, MS/c, UZ; nihāyatıdın [K/fn., MS/a]. [13] K, MS/b, MS/c, UZ; nihāyatġa [MS/a].

angīz būqala**mūnluġıdın** va zamāna-yi rang-āmīz gūnā**gūnluġıdın** muddat-i madīd va ‘ahd-i ba‘īd har naw‘ šiqq-u-ṣūratda aqdām **urdum** va har ṭawr sulūk-u-kisvatda yü**gürdüm** va özümni yaḫšı-yaman ḫidmat-u-ṣuḥbatıġa yet**kürdüm**. Gāh maḏallat-u-fanā’[1] vayrānıda šīvan kör**güzdüm** va gāh ‘izzat-u-ġanā’ būstānıda anjuman **tüzdüm**.

Naẓm[2]: [Baḥr-i Hazaj (⏑– – –/⏑– – –/⏑– –)]

Gahī taptım falakdin nā-tavānlıq gahī kördüm zamāndın kām-rānlıq

Basī ıssıġ-savuġ kördüm zamānda basī aččıq-čüčük tattım[3] jahānda

İflās-u-nā-tavānlıġ hin**gāmıda**, ya‘nī falākat-u-nā-murādlıġ ay**yāmıda** gāh ‘ilm madārisıda ṣaff-i ni‘ālda yer **tuttum** va[4] ‘ulamā’ majālisıda ‘ilm nūrıdın kön͡gülni ya**ruttum**. Gāh atqiyā’ masājidıda alar qadamı yetkän yergä yüz **qoydum** va sijda kaṣratıdın man͡glayım terisin **soydum**. Gāh ṣafā’ ḫānaqāhı ahlı[5] ibrīqıġa su qoymaq bilä arju**mand boldum** va gāh fanā’ dayrı ḫaylı sabū-kašligidin sar-bu**land boldum**[6]. Va gāh la’īmlar alıda **ḫ̆ᵛārlıġ** va gāh raḏllar[7] iläyidä[8] bī-i‘ti**bārlıġ** körgüzdüm[9] va gāh ‘išq kūyıda bī-**pāklik** va ādamī-[f.3(b)]-kuš parī-čihralarġa ha**lāklik** dast berdi. Va gāh junūn maḥallasıda arḏāl[10] boynumġa sīlī **urdılar** va aṭfāl bašımġa taš yaġ**durdılar**. Va gāh šahrım ahlı[11] sitamıdın ġurbatqa **tüštüm** va ġarīb ḫalā’iqqa qošuldum va qa**vuštum**. Va gāh[12] jibāl qullası ārām-**gāhım boldı** va gāh ṣaḥrā’ etägi pa**nāhım boldı** va gāh bu šiddatlardın ‘azm-i va**ṭan qıldım** va ḫumūl zāviyasın nišī**man qıldım**[13]. Va gāh ġurbat**da ‘alīl** va ġarīb el**gä ḏalīl** boldum[14]. Va gāh ‘azīzlar ḫidmatıdın özümni bah**ramand** va sözümni dil-**pasand**[15] taptım.

Rubā‘ī:

Gardūn man͡ga gah jafā’ va dūnluq qıldı baḫ̆tım kibi har išdä zabūnluq qıldı [10-бет]

---

[1] ‘anā’ [K, UZ]. [2] Maṯnavī [K, MS/c, UZ]. [3] K, MS/b, UZ; taptım [MS/a, MS/c]; kördüm [K/fn.]. [4] gāh [K, UZ]. [5] K, MS/b, MS/c, UZ; *om.* [MS/a]. [6] *om.* (va gāh fanā’ ~ sar-buland boldum) [MS/b]. [7] razllar [MS/a]; razl [MS/b, MS/c]; arḏāllar/арзоллар [K, UZ]; raḏl [K/fn.]. [8] alıda [K, UZ]; alında [MS/c]. [9] kördüm [K/fn., MS/b, MS/c, UZ]. [10] K, MS/c, UZ; arzāl [MS/a, MS/b]. [11] eli [K, UZ]. [12] *om.* [UZ]. [13] *om.* (va ḫumūl zāviyasın nišīman qıldım) [UZ] [14] この文が，前の文中のpanāhım boldı の後に続く [K, UZ]. [15] dil-pasand va arjumand [K/fn., UZ].

Gah kām sarı rāh-namūnluq[1] qıldı al-qiṣṣa, basī būqalamūnluq qıldı

Ammā šuġl-u-kām-rānlıġ **čağıda** va kön͡gül mulkidä[2] ḫalq ḫujūmı bul**ğağıda** gāh imārat masnadıda ol**turdum** va ḥukūmat[3] maḥkamasıda dād-ḫ^{v}āh **sordum** va gāh pādšāh niyābatıda taqarrub **tüzdüm** va niẓāragar elgä özümni[4] kör**güzdüm**. Va gāh makrumat ayvānın ma**kān qıldım** va akābir-u-ašrāfnı ta'ẓīm yüzidin mīh**mān qıldım** va gāh nišāṭ bāġıda bazm ṭarḥı **saldım** va sāqī-u-muṭrib bazm-u-samā'ıdın bahra **aldım**. [f.4(a)] Gāh salāṭīn muḫālafatlarıda araġa **kirdim** va munāza'atların muvāfaqatġa qarār **berdim**. Gāh ḥarb ma'rakasıġa özümni **saldım** va jahl-u-nā-dānlıq tuhmatın boynumġa **aldım**. Va gāh ḫayrāt ahlıġa özümni **qattım** va har naw' ḫayr buq'aları tü**zättim** andaq ki sa'yımdın **ribāṭlar boldı** va andın musāfirlarġa **nišāṭlar boldı**.

Naẓm[5]: [Baḥr-i Mujtaṯṯ (◡–◡–/◡◡––/◡–◡–/––)]

Dimāġıma tüšüban köp taṣavvur-u-pindār özümni jāh-u-uluġluqqa[6] äylädim iẓhār

Bu muqaddimātdın maqṣūd[7] bu kim: har kūyda[8] yü**gürüp men** va 'ālam ahlıdın har naw' elgä özümni yet**kürüp men**. Va yaḫšı-yamannıng͡ af'ālın **bilip men** va yaman-yaḫšı ḫaṣlatların tajriba **qılıp men**. Va ḫayr-u-šarrdın nūš-u-nīš köksümgä **yetip dur** va la'īm-u-karīm zaḫm-u-marhamın kön͡glüm dark **etip dur**. Zamān ah**lıdın ba'żī aṣḥāb** va dawrān ḫay**lıdın ba'żī aḥbāb** ki bu ḥāllar**dın ḫabarsız** va kön͡gülläri bu ḫayr-u-šarr**dın aṣarsız** dur.

Qiṭ'a: [Baḥr-i Mujtaṯṯ (◡–◡–/◡◡––/◡–◡–/◡◡–)]

Ne bilgäy ol kiši kim šahd-u-maynı tatmay dur

Ki vaṣl-u-hajr kibi ol čučük durur, bu ač(č)ıġ

Bilür ḏalīl musāfir ki pūya äylärdä

Qum-u-tozan͡g yumšaġ, taġ va ḥāra dur qattıġ [11-бет]

Bu naw' aṣḥāb-u-aḥbābqa inti**bāh qılmaq** va alarnı [f.4(b)] bu[9] ḥālātdın **āgāh qılmaq**[10] vājib köründi ki: har ṭā'ifa ḫi**ṣālıdın vuqūfları** va har ṭabaqa aḥ**vālıdın**

---

[1] K, MS/b; rah-namūnluq [MS/a, MS/c, UZ]. [2] MS/b; mulki va [MS/a]; mulki [K, MS/c, UZ]. [3] ḥukm-u-ḥukūmat [MS/c, UZ]. [4] özümni kām-rān [K/fn., UZ]. [5] Bayt [K, MS/c, UZ]. [6] uluġluqta [MS/b]; uluġluqda [K/fn., MS/c]. [7] maqṣad [UZ]. [8] kūy-u-kūčada [K/fn., MS/c, UZ]. [9] bu naw' [K/fn., UZ]. [10] *om.* (va alarnı ~ āgāh qılmaq) [MS/b].

šu'ūrları bolġay ki munāsib el ḫidmatıġa šitāb **qılġaylar** va nā-munāsib el ṣuḥbatıdın ijtināb vājib **bilgäylär** va barı el bilä maḫfī rāzlarıdın[1] söz **demägäylär**[2] va šayāṭīn-u-ins makr-u-farībıdın bāzī **yemägäylär** va har naw' el ṣuḥbat-u-ḫuṣūṣīyatı ki alarġa ha**vas bolġay**, bu faqīrnıng tajribası alarġa **bas bolgay**.

Čūn bu maqālātnıng qulūbqa maḥbūbluġı ma'lūm **boldı**, anga *Maḥbūbu-l-qulūb* at qo**yuldı**. Va bu bitilgän favā'idnıng kayfīyatı čūn **bilildi**, anı üč qism **qılıldı**[3]: avvalġı qism «sā'ir nāsnıng[4] aḥvāl-u-af'ālınıng kay**fīyatı**»; ikkinči qism «ḥamīda af'āl va ḏamīma ḫiṣāl ḫāṣ**ṣīyatı**»; üčünči qism «mutafarriqa favā'id amṯālı va ṣūratı»[5]. Umīd ol-kim čūn oquġučılar diqqat-u-i'tibār közi bilä naẓar **salġaylar** va har qaysı öz fahm-u-idrāklarıġa körä bahra **alġaylar**, bitigüčigä ham bir du'ā' bilä bahra yet**kürgäylär** va rūḥını ol du'ā' rūḥıdın[6] sevün**dürgäylär**. [12-бет]

Avvalġı qism «Ḫalā'iq aḥvāl-u-af'āl-u-aqvālınıng kayfīyatıda»

Va ol qırq faṣl dur:

Avvalġı faṣl[7] «'Ādil salāṭīn ḏikridä»

'Ādil va 'āqil [f.5(a)] pād**šāh**, 'ibādu-llāhġa ẓillu-**llāh**. Ḫilāfat mulki Anıng far**mānıda,** <innī jā'ilun fi-l-arżi ḫalīfatan> anıng **ša'anıda**. Bu-kim 'ādil pādšāh rif'atı[8] ta'rīfdın beyikräk **erür** <wulidtu fī zamani-s-sulṭāni-l-'ādili> andın ḫabar **berür**. Ol-ki anıng ḏātı bilä mubāhī dur kaw**nayn**[9], dep dur ki[10] <'adlun sā'atan ḫayrun min 'ibādati-ṣ-ṣaqa**layn**(i)>.

'Ādil pādšāh Ḥaqqdın ḫalā'iqqa **raḥmat** dur va mamālikkä mūjib-i amnīyat va **ra'fat**[11]. Quyaš bilä abr-i bahār dek qara tofraġdın **gullär ačar** va mulk ahlı bašıġa altun bilä **dur**(r)**lar sačar**. Fuqarā' va nā-tavānlar anıng rifq-u-mudārāsıdın **āsūda**, ẓalama va 'avānlar anıng tīġ-i siyāsatıdın far**sūda**. Ḥirāsatıdın quzı[12] böri ḫawfıdın **īmin**[13] va

---

[1] rāzların [MS/c, UZ]; rāzlardın [K]. [2] sözläšmägäylär [MS/c]; sözläšgäylär [UZ]. [3] qılındı [K, UZ]. [4] sā'iru-n-nāsnıng [K, UZ]; sā'iru-n-nās [MS/c]. [5] «mutafarriqa favā'id amṯāl-u-ṣūratı» [MS/b]; «mutafarriqa favā'id-u-amṯāl ṣūratı» [MS/c, UZ]; «mutafarriqa favā'id-u-amṯāl-u-ṣūratı» [K]. [6] futūḥı bilä [K/fn., MS/c, UZ]. [7] Faṣl-i avval [MS/c]; Birinči faṣl [UZ]. [8] *om.* [UZ]. [9] ḫ^{v}āja-yi kawnayn [K/fn., UZ]. [10] kim [K, UZ]. [11] rafāhiyat [K/fn., MS/c, UZ]. [12] qoy va quzı [UZ]. [13] 韻を踏むための発音。辞書的には īman である。

siyāsatıdın musāfir[1] qaraqčı vaḥmıdın muṭma'**in**(n). Ra'fatıdın har maktabda aṭfāl ġaw**ġāsı** va muḥāfaẓatıdın żu'afā' ḥammāmıda alarnıng[2] 'alā**lāsı**. Haybatıdın yollar qaraqčıdın **ḫ̆ālī** va qollar tola ulus **mālı**. Va żabṭıdın 'amal-dārlar **qalamı sınuq** va sitamkārlar **'alamı yıquq**. Jiddıdın masājid jamā'at ahlıdın mam**lū'** va madāris baḥs-u-jadal ḫaylıdın ġu**lū**(v). Qiṣāṣı tīġıdın oġrı elgi el mālıdın kū**tāh**, intiqāmı bīmıdın qāṭi'-i [f.5(b)] ṭarīq ḥālı 'adam biyābānıda ta**bāh**.

Tünning köpi dukkānlarda sawdā üčün **šam'** va awbāš kūča-gaštıdın köngülläri **jam'**. Šāmdın tā saḥar ḫānaqāhlar ešigi **ačuq** va ḫalvatlar 'ibādat nūrıdın **yaruq**. Šahrda kūylar pās-**bānı ol** va yazıda qoylar ša**bānı ol**. Ra'īyatqa sarā **va bāġ andın ma'mūr** va sipāhīġa kām va **farāġ andın mawfūr**. Andın kečälär atrāk żu'afāsı iši orġuš**tak** va aṭfāl varziši aq sü**ngäk**. 'Ajūzlar čarḫ üni maddı bilä anıng du'āsıġa naġma-**sāz** va kanīzlar[3] mamuq sapamaq [13-бет] kūsı[4] üni bilä anıng alqışıġa naġma-par**dāz**. Fuqarā' iši anga ham du'ā' ham **nāziš**, anıng da'bı fuqarāġa ham saḫā' ham na**vāziš**. Ačlar ġiḏāsı[5] baḏl-u-'aṭāsı **ḫ̆ᵛānıdın**, yalanġačlar libāsı ḫizāna-yi luṭf-u-iḥ**sānıdın**.

Mulk bāġın ma'mūr qılurġa abr-i sī**r-āb**, mulk ahlı közin yaruturġa mihr-i jahān-**tāb**. Özgä mulkning ra'āyā'-u-ḫalqı anıng ār**zūsıda**, yana kišvar maẓlūmları anıng 'adl-u-du'āsı guft-u-**gūyıda**[6]. Yaḫšı atıġa 'ulamā' iši rasā'il **tartībı** va yaḫšı ṣifātıġa šu'arā' varziši qaṣā'id **tarkībı**. Muġannīlar ištiġālı ṣanāsı üčün surūd **tüzmäk**, muṣanniflar maqālı du'āsı āhangidä naġma kör**güzmäk**. [f.6(a)]

Ḫalq riżāsıdın Ḥaqq riżā**sıġa ṭālib**, dād-ḫ̆ᵛāh sorarda soruġ küni vahmı köngl**igä ġālib**.

Maṯnavī[7]: [Baḥr-i Mutaqārib (◡––/◡––/◡––/◡–)]

Ulus pādšāhı va darvīšvaš	anga šāhlıqdın kelip faqr ḫ̆ᵛaš[8]
Jahān-dārlarġa sipihr-ištibāh	valī ahl-i faqr alıda ḫāk-i rāh
Jahān mulki alında ḫāšākča	valī bir köngül mulki aflākča

[1] musāfir köngli [K/fn., MS/c, UZ]. [2] ża'īfalarnıng [K/fn.]. [3] kanīzaklär [K, UZ]. [4] *om.* [K/fn., MS/c, UZ]. [5] MS/b, UZ; ġadāsı [K, MS/a, MS/c]. [6] guft-u-gūsıda [K, UZ]. [7] Naẓm [K/fn., MS/b]. [8] 韻を踏むための発音。辞書的には ḫ̆ᵛuš である。

Barı bī-navālar navā-sāzı ol ham-ol naw‘ kim šāh Abu-l-ġāzī ol

Kelip ‘ayn-i insān va insān-i ‘ayn jahān vārisı šāh Sulṭān Ḥusayn

Ki tā bolsa gardūnġa davvārlıq an͡ga bāqī olsun jahān-dārlıq

Ḫalā’iqqa bu šahdın olsun nišāṭ damī bolmasun ḫālī andın bisāṭ [14-бет]

İkkinči faṣl «İslām-panāh bek[1] ḏikridä»

Mundaq šāhġa musalmān **bek**, nabī ḫidmatıda törtävdin[2] biri **dek**. Nā-murādlarnıng̑ pa**nāhı**, pādšāhnıng̑ dawlat-**ḫ**ᵛ**āhı**. Šāhġa dunyāda čın söz **degüči** va anıng̑ āḫiratı ġamını **yegüči**. Yamanlar andın ha**rāsān**, yaḫšılar dušvārlığı andın[3] **āsān**. El mālı ṭama‘ı köng̑lidä nā-**būd** va ‘iyālı ḫiyālı[4] żamīrıda nā-maw**jūd**. Murā**dı ra‘āyā amnīyatı** va maqṣū**dı barāyā jam‘īyatı**. Ol musalmānlarġa ri**żā’-jūy** va musalmānlar an͡ga du**‘ā’-gūy**. Özining̑ ḏātı tü**zük** va sa‘yı šāh ešigidä tüzük**lük**.

Šāh [f.6(b)] ešigi mundaq bekdin **ḫālī bolmasun** va dawlatnıng̑ andın özgägä[5] intiq**ālı**[6] **bolmasun**.

Üčünči faṣl «Nā-munāsib nā’ib[7] ḏikridä»

Yalġančı ḫᵛud-namā nā’ib nis**batı**, Musaylima-yi[8] kaḏḏāb mil**latı**. Nubūvat tuhmatı[9] özigä **salġan**, Jabra’īl-u-vaḥydın degäni barı **yalġan**. Mun͡ga ham šāh ḫuṣūṣīyatı iẓ**hārı**, ġayr-i vāqi‘ va yalġan **barı**.

Yalġan ḥukm yetkürürigä bā’iṣ ṭama‘-i **šūm**, ötrüq parvāna yetkürürigä sabab ḥirṣ-i maḏ**mūm**[10]. Nemä alurda yal**ġan an͡ga čın ornıġa**, musalmānlarġa nuq**ṣān an͡ga dīn ornıġa**. Yalġan barıda[11], čın demägi mu**ḥāl**. Rišvat alurda özgä söz dep, ammā köng̑lidä özgä ḫi**yāl**.

Mundaq nā’ib ki bir bolmaġay fi‘l-u-**qawlı**, šāh ešigidin gum bolġanı **awlī**[12].

---

[1] beklär [K, MS/c, UZ]. [2] tört yārdın [K/fn., UZ]. [3] *om.* [UZ]. [4] ḫālī [MS/b]. [5] özgä [K, UZ]; özgälärgä [K/fn.]. [6] Šāh ešigi ~ bolmasun va dawlat sipihrıda ‘umrı quyašıġa zavālı [K/fn., MS/c]. [7] nā’iblar [K, UZ]; beklär [MS/c]. [8] musallama [UZ]. [9] tuhmatın [K, MS/b, MS/c, UZ]. [10] maẓlūm [UZ]. [11] K, MS/b; barı [MS/a]; barıda an͡ga [MS/c, UZ]. [12] 韻を踏むための発音。辞書的には awlā である。

Törtünči faṣl «Ẓālim va jāhil va fāsiq pādšāh[1] ḏikridä»

'Ādil pādšāh közgü va bu anıng **učası dur**. Ol yaruq ṣubḥ, bu anıng[2] qaranġu **kečäsi dur**. Ẓulm anıng köng**ligä marġūb** va fisq anıng ḫāṭı**rıġa maḥbūb**. Mulk buzuġluġıdın żamī**rıġa jam'īyat** va ulus parīšānlıġıdın ḫāṭı**rıġa** [15-бет] **amnīyat**. Ābādlar anıng ẓulmıdın vay**rāna**, kabūtar ṭāqčaları juġdġa[3] āši**yāna**. Bāda saylı bazmıda čūn ṭuġ**yān qılıp**, ol sayl mulk ma'mūrların[4] vay**rān qılıp**. [f.7(a)] Sučı-ḫānasıġa farš masjid rivāqı tö**külgändin** va küpläri bašıġa ḫišt miḥrāb ṭāqı yem**rülgändin**. Agar qan tökmäk anga **pīša**, kim ki jānı bar, anga an**dīša**. Agar šurbġa maš**'ūf**, kūy va kūča musalmānlarġa ma**ḫūf**. Agar fāsiq bolsa[5] va bad-af**'āl**, el 'urż-u-'iyālıġa andın bīm-i na**kāl**[6]. Va agar[7] sitīza-rūy bolsa va ḫ^v^ud-**ra'y**, mušfiq nuvvābı[8] jānıġa **vāy**.

Öz nā-šāyistı öz alıda **ḫūb**, el ma'qūlı anga mardūd va ma'**yūb**. Köp ḫidmat az sahv bilä alıda nā-**būd**, köp ḥaqq[9] az ḫaṭa' bilä iläyidä nā-maw**jūd**. Ḫaṭa' ra'yı ong kelmäsä, daḫlsızlarġa şir**kat**, balki naqīżlarġa[10] tuh**mat**. Nā-ṣavāb ḫiyālı tüz čıqmasa, şir**katı yoqlarġa 'itāb**, balki ḫa**barı yoqlarġa**[11] **'iḏāb**[12]. «Ḥayāt suyı»n aġu desä, musallam tutmaġan gunah-**kār**, quyaš nūrın qaranġu desä, taḥsīn qılmaġan tīra-rūz**gār**. Öz jānibıdın qaṭranıng daryāča ḥur**matı** va ḏarranıng bayżāča qay**matı**. El ṭarafıdın māl-i 'ā**lam** bir qara puldın **kam** va fidā' qılġan jān-i **'azīz** anča yoq ki[13] bir **pašīz**. Qara quzġunnı aq tuyġun desä, «qaznı yaḫšı **alur**» **demägän muqṣir**[14], yaruq künni tīra tün desä, «Suhā körünä **dur**» **demägän mudbir**. Čın der elgä jān **ḫaṭarı**, [f.7(b)] ḫayrġa dalālat qılġučıġa ölüm **żararı**.

Ḥaqq anıng **qašıda bāṭil**, ḫiradmand anıng 'aqī**dasıda jāhil**. Eldin köng**lidä kīnasi**, maḫfī ḫazīnasınıng **dafīnası**. Qatl üčün jān bermäk ši**'ārı**, el māl-u-jānıġa qaṣd šah-**kārı**[15].

Bu yaman pādšāh ki bolġay vazīrı ham **yaman** andaq ki fir'awn niyābatıda **Hāmān**.

Naẓm[16]: [Baḥr-i Ramal (–⏑––/–⏑––/–⏑––/–⏑–)]

---

[1] pādšāhlar [K, UZ]. [2] *om.* [MS/b] [3] bayqušġa [K/fn., UZ]. [4] ma'mūraların [K, MS/b, MS/c, UZ]. [5] olsa [MS/b]. [6] bīm va nakāl [UZ]; żarar va nakāl [K/fn.]. [7] *om.* [UZ]. [8] Navāyī [K, UZ]. [9] ḥaqq va rāst [K/fn., MS/c, UZ]. [10] naqīż tutqanlarġa [MS/b]; naqīż tutqanlarġa ziyāda [K/fn., MS/c, UZ]. [11] yoqlarġa arada [K/fn., UZ]. [12] 韻を踏むための発音。辞書的には 'aḏāb である。 [13] kim [K, UZ]. [14] muqaṣṣir [UZ]. [15] šikārı [MS/c, UZ]. [16] Bayt [K, MS/c, UZ].

Oyla kim bolġay madad šah-mārġa[1] ham ja'farī

Yā vabā'ī ḫalqqa ṭā'ūn ham olġay bar-sarı[2][16-6ет]

Tenĝri mundaq balālarnı 'adam čāhıdın vujūd taḫt-gāhıġa **keltürmäsün** va yoġluġ zindānıdın barlıġ šahristānıġa[3] **yetkürmäsün**.

Bešinči faṣl «Vuzarā' ḏikridä»

Vazīr <wazara>dın[4] **muštaq** dur va bu fi'l anınĝ ḏātıġa aḥaqq va **alyaq**[5]. Bu išni pasandīda qılġan Āṣaf **ermiš** kim nigīnı naqšı <qad raḥima Allāhu man anṣafun> **ermiš**. Hamānā Āṣaf ki bardı, inṣāfnı alıp **bardı** va inṣāf gawharın bu nā-inṣāflar arasıdın **čıqardı**. Kiši özin agarča yel dek har yan **salġay**, Āṣafnı bu ḫāk-dāndın[6] qayda[7] tapa **alġay**. Dahr elidä biräv ki Āṣaf-**nihād dur** ki[8] bilgäy ki[9] Sulaymān taḫtı bar-**bād dur**.

Bu ẓālimlar mulkni bar-bād **bergüči** durlar va mulk ahlı yıġıšturġanların **tergüči**[10]. [f.8(a)] Awlā ol-ki[11] bular ḏikridä kiši ḫāma **sürmägäy** va bu ḫāma dek qara-yüzlüklär atın qalam tiligä **ketürmägäy**[12]. Zahr berip bīmār öltürgüči ṭabīblıq bularġa **naṣīb**, zūr bilä öltürgüči yaḫšılar bularġa körä türk **ṭabīb**[13]. Bu ikki ḫaylдın har biri bir **af'ī**, šāhġa vājib dur bularnınĝ **daf'ı**.

Bular 'amalası[14] **čıyanlar**, ḫalā'iqqa yetkürürdä[15] **ziyānlar**. Kilkläri nūki 'aqrab **nīši**, ra'īyat jānıġa ol nīš **tašvīši**. Nečä bu nīš maẓlūmlar**ġa sančılġay**. Umīd ol-ki bašları ajal tašı **bilä yančılġay**.

Maṣnavī[16] : [Baḥr-i Mutaqārib (⏑ – – / ⏑ – – / ⏑ – – / ⏑ –)]

Bulardın gar a'lā gar adnā durur ki[17] andın ḫalā'iqġa īḏā' durur

Šah öltürmäk[18] awlā dur ol elni bat ki dep dur nabī <iqtalu-l-mu'ḏiyāt(a)>

---

[1] Oyla kim šah-mārġa bolġay madad [K/fn., MS/b]; Oyla kim šah-mārġa bolġay mumid(d) [UZ]. [2] bir sarı [UZ]. [3] K, MS/b, MS/c, UZ; šahristānıda [MS/a]. [4] <wizr>dın/ визрдин [UZ]. [5] alyaq dur [K, MS/c, UZ]. [6] ḫāk-dānda [K, MS/b, MS/c, UZ]. [7] qaydın [MS/b]. [8] *om.* [K, MS/c, UZ]. [9] kim [K, UZ]. [10] tergüčilär dur [MS/c]; yitirgüčilär dur [K/fn.]; bitirgüči durlar [K]; bitirgüčilär dur [UZ]. [11] ol-kim [K, UZ]. [12] kivürmägäy [MS/b]; keltürmägäy [K, MS/c, UZ]. [13] Zahr berip bīmār öltürgüči ṭabīb, bularnınĝ ḫālıġa mušābih dur va qarīb [K/fn., MS/c, UZ]. [14] jumlası [K, UZ]. [15] yetkürür [K/fn., UZ]. [16] *om.* [MS/b, MS/c]. [17] kim [K, UZ]. [18] öltürmäs [UZ].

Altınčı faṣl «Nā-qābil ṣadrlar ḏikridä»[1]

Bī-diyānat ṣu**dūr**, bid'at-i sayyi'a[2] dur bi-lā-ża**rūr**. Bu nā-kas agar **'ām**(m)**ī dur** va fisq va fujūr anıng̑ **kāmı dur**, majlisıda [17-бет] naġma-**navāzlıq**, 'ilm-u-taqvā 'azāsıġa nawḫa-**sāzlıq**. 'Ulamā' keltürgän[3] gul-āb šīšaläri ki ḫālī qı**lıp**[4], bāda salurġa kāfī[5] mulāzimları **alıp**. Bular keltürgän[6] nabāt gazak üčüṇ **ušalıp**, vaẓīfa vajhları özgä asbāb üčün [f.8(b)] say**ġalıp**. Bad-kir**dār anda ġalaba**, pāy-**kār anda ṭalaba**. Nökärlärigä āš ḫānaqāh rāti**basıdın** va čuhralarıġa ma'āš šayḫ-u-mudarris vaẓī**fasıdın**. Bazmıġa may keltürgäli muḥtasib **rāżī** va mayġa bāda-pālā rīš-i **qāżī**. Kišvar ki anda manāhī mundaq **bī-ḥisāb bolġay**, İslām va šarī'atqa nī 'izzat va **nī ḥisāb bolġay**.

Ṣadr keräk 'ulamāġa dast-**yār** bolsa va mašā'iḫqa kār-guḏār va ḫidmat-**kār** va sādātqa mu**midd** va fuqarā' ḫidmatıda ba-**jidd**[7] va awqāf buzuġın **tüzgüči** va zirā'at kaṯratıda sa'y kör**güzgüči**.

Maṯnavī[8]: [Baḥr-i Hazaj (⏑– – –/⏑– – –/⏑– –)]

Yoq ol-kim fāsiq-u ḫammār[9] zukka ki buzġay, garča bolġay ḫ^{v}āja, dukka[10]

Rikābı[11] naqšı kimsanlıq sarāsar tonıda andın artuq zīb-u-zīvar

Qiṭ'a[12]: [Baḥr-i Mujtaṯṯ (⏑–⏑–/⏑⏑– –/⏑–⏑–/⏑⏑–)]

Keräk ki bašıġa qoysa 'ilāqalıq dastār/ yana ridā' ham anıng̑ egnidä mavālī dek

Yoq ol-ki markabı boynıġa baġlap assa quṭās/ asılġan[13] özining̑ öz boġzıdın saqalı dek

Yettinči faṣl «Fāsiq va bad-ma'āš bahādurluq lāfın urġanlar ḏikridä[14]»

Šāh ešigidä yarmaġ żā'i' qılġučı ja**mā'at** kim alardın nī Teng̑rigä **ṭā'at** dur va nī šahġa i**ṭā'at**. Ṭarīq**ları ḫ^{v}ud-namālıġ**, rasm**ları ḫ^{v}ud-ārālıġ**. İšläri **mastlıġ**, varzišläri [f.9(a)] ḫ^{v}ud-pa**rastlıġ**. Čın demäkläri **lāf**, ma'nīlıq sözläri ga**zāf**. Jur'a-kašlik [18-бет] **dīnları**, kāfirvašlik **āyınları**. Köng̑ülläri tıpčaq segritürdin ārām **tapmaq**, sözläri baš

---

[1] *om.* (Altınčı faṣl ～ ṣadrlar ḏikridä») [MS/b]. [2] sayy'āt [MS/b]. [3] ketürgän [K/fn., MS/b]. [4] qalıp [K, MS/c, UZ]. [5] anı [K/fn., UZ]. [6] ketürgän [K/fn., MS/b]. [7] mujidd, ẓulm rištasın üzgüči [K/fn., UZ]; ba-jidd, ẓulm rištasın üzgüči [MS/c]. [8] *om.* [K/fn., MS/b, MS/c]. [9] ḫammār-u [K, MS/c, UZ]. [10] 韻を踏むための発音。辞書的にはdikkaである。 [11] Rakībı [MS/b]. [12] *om.* [K/fn., MS/b]. [13] asılġay [K, MS/c, UZ]. [14] *om.* (Yettinči faṣl ～ urġanlar ḏikridä») [MS/b].

yalan͡g yüzgä **čapmaq**. Bazmda da'vīları Ḥātim**lıq**, razmda talāšları Rustam**lıq**. Otaġalarıdın Nasr-i ṭā'irġa **ram**, nayzalarıdın Simāk-i rāmiḥ yüzi dar-**ham**. Ṭawrlarıdın āšuftaraq alarġa das**tār**, dastār 'ilāqasıdın učalarıda ā**zār**.

Mulk dušmanı daf'ıġa[1] šuh**ratları**, šāhġa mulk asrar min**natları**. Bu da'vī bašıġa yetkünčä nečäsini may öl**türüp**, nečäsin özgä fisq dūzaḫqa yet**kürüp**. Yüzdin biri ki ma'rakagä **yetip**, burtaġ[2] čapıš bilä özin żā'i' **etip**. Mubāriz-afkanlikläri öz ḥā**lıġa**, ṣaff-šikanlikläri öz yasa**lıġa**. Bu naw' bahādur hīč ma'rakadä **bolmasun**, hīč ṣaff buzarda anın͡g qanı **tolmasun**[3].

Šāhġa sipāh darvīšlär du**'āsı dur** fuqarā' himmatı va Ten͡gri ri**żāsı dur**. Šāh kim an͡ga Ḥaqq 'ināyatı si**pāh bolġay**, livāsının͡g zīnatı <nasrun min All**āh**(i)> **bolġay**. Šāhġa tā dawlat **bar**, dušmanı erür ḫ^{v}ār[4] va ḫāk**sār**. [f.9(b)] Dawlat[5] yetkür**güči Ten͡gri**, ham alġučı ham ber**güči Ten͡gri**. Ol bersä, kiši **ala almas**. Ol yetkürsä, kiši yıraq **sala almas**. Šāh ki[6] Ḥaqq amrın ba-jā kel**türgäy**, bu dawlat köp ḫawflarġa rajā' yet**kürgäy**.

Qiṭ'a[7]: [Baḥr-i Mujtaṣṣ (⏑–⏑–/⏑⏑––/⏑–⏑–/⏑⏑–)

Šahī ki ṣidqı anın͡g Ten͡gri birlä tüz bolġay

Ne ġam, 'adūsı anın͡g bir yoq ersä yüz bolġay

Kišigä Ten͡gri berür fatḥ, yoq ki ḫayl-u sipāh

Bas[8] i'timād mun͡ga[9] äylämäk, ne söz bolġay

Bayt: [Baḥr-i Mutaqārib (⏑––/⏑––/⏑––/⏑–)]

Čerik bolsa va bolmasa baḫt yār sipahġa 'adū ḫaylının͡g ḥukmı bar

Sekkizinči faṣl «Yasawl gurūhı ḏikridä»

Yasawl ki[10] bir maẓlūm iši keyničä **barġay** va ol maẓlūmnı ẓālimdın qut**qarġay**. Agar muzd tilämägi maqdūrdın [19-бет] artuġ**raq dur**, ol ẓālimġa uluġraq or**taq dur**. Va agar sa'yıġa yaraša alur ḫi**yālı bolġay**, ata mīrāṣı va ana süti dek ḥa**lālī bolġay**. Agar ṭama'ı

---

[1] daf'ı [K/fn., MS/c, UZ]. [2] yortaq [K, UZ]; yortaġ [MS/c]. [3] tökülmäsün [MS/c, UZ]. [4] ḫār [K, MS/b]; ḫ^{v}ār va zār [K/fn., MS/c]. [5] Dawlatkä [K, UZ]. [6] *om.* [MS/b]. [7] Naẓm [K/fn., MS/b]. [8] Pas [MS/b, MS/c, UZ]. [9] K/fn., MS/b, MS/c; bun͡ga [MS/a]; an͡ga [K, UZ]. [10] *om.* [UZ].

ḥaqqu-s-sa'yıdın **kam dur**, erlik va murūvat an͡ga musal**lam dur**. Va agar sa'y qılġay va almaġay muzd ki[1] an͡ga **ḥaq**(q) **dur**, anı desä bolġay ki[2] valī-yi muṭ**laq dur**. Köp eränlär bu išni ši'ār **etip durlar** va bu sulūk bilä kullī[3] maqāṣidqa **yetip durlar**.

Maṯnavī[4]: [Baḥr-i Ramal (–⏑––/–⏑––/–⏑–)]

Awliyā'u-llāh[5] har ṣūratda bar — ba'ża etmiš bu ravišni iḫtiyār [f.10(a)]

Čūn erürlär qubbalar ičrä nihān — Ḥaqqdın özgä kimsägä ermäs 'iyān

Toqquzunčı faṣl «Yasaġlıq va qara čerik ḏikridä»

Yasaġlıq degän qa**ra čerik**, Ya'jūj-u-Ma'jūj ḫaylı**ġa šarīk**. Emgäkdin alarġa ā**rām yoq**, yasaq tartardın bir nafas **kām yoq**. İšläri talay alġan**nı talamaq**, yat mulkdä[6] čürtkä[7] dek sabza-u-yafraġ**nı yalamaq**.

İnsānlıq bilä alar a**rasıda mubāyanat**, musalmānlıq bilä alar or**tasıda munāza'at**. Fahm-u-idrākdin alar ḏātı **'ārī**, 'aql-u-inṣāfsız bi-ḏ-ḏāt **barı**. Qayan[8] ki[9] yüzländilär, alarġa yat**maq**[10] **yoq**, kečä va kündüz taġāful uyqusıdın oyġan**maq yoq**. Issıġ-savuġ tanlarıġa ṭafāvut **qılmay**, ačlıġ-yalanġačlıġ żararını jismları **bilmäy**. Ādamīsızlıqda maḫlūqātdın mum**tāz**, ḥayvānlıqları köp va mardumlıqları **az**.

Rubā'ī:

Ol qawmdın u'jūba ḫalā'iq bolmas — kim mi'daları ḥarām yerdin[11] tolmas

Ölgünčä balā' čekip erürlär mawjūd — čın boldı bu da'vī ki yasaqlıq ölmäs [20-бет]

Ṭurfa bu-kim čūn Ḥaqqnın͡g har naw' elgä 'ināyat-i **pinhānı bar**, bular [f.10(b)] arasıda ham yašurun eränlärnin͡g[12] **imkānı bar**. Ordu-bāzārī özin yasaġlıqqa **qatqučı**, onġay ham[13] almay, ağır **satqučı**. Čerik ulusıdın[14] alar **šatal-ḫ͡ᵛār** andaq ki[15] mulk ahlıdın **'amal-dār**.

Bayt[16]: [Baḥr-i Hazaj (⏑–––/⏑–––/⏑––)]

Sipāhī mālın ol ḫayl-i tabāhī — tün-u-kün muft alıp ḫ͡ᵛāhī na-ḫ͡ᵛāhī

---

[1] kim [K, UZ]. [2] kim [K, UZ]. [3] *om.* [K/fn., UZ]. [4] Naẓm [K/fn., MS/b]. [5] Awliyā'u-llāh ki [K, MS/c, UZ]. [6] yurtda [MS/c, UZ]. [7] čevürtkä [MS/b]; čegürtkä/ čügürtkä [K, UZ]. [8] Qayanġa [K, UZ]. [9] kim [K, UZ]. [10] yanmaq [K, MS/b, MS/c, UZ]. [11] YARDYN [MS/b]. [12] eränlärnin͡g ne [MS/b]. [13] ham ülüš/ улуш [UZ]. [14] ülüšidin har bār [K, UZ]. [15] kim [K, MS/c, UZ]. [16] Naẓm [MS/b].

Mumkin yoq ki[1] ādamī-zād alarġa **sazā bergäy** ki[2] Teng͡ri alarġa balā'[3] **jazā'**[4] **bergäy**.

Onunčı faṣl «Šāh ulusı özigä mušābih bolur ḏikridä[5]»

Šāhġa har kim ki mulāzim va **ṭābi' bolġay**, iši va ṭawrı šāh išigä mušābih **vāqi' bolġay**. Agar šāh[6] 'adālat-ši'**ār**, ulusı ši'ārıda ham 'adālatdın **āṯār**. Agar ol[7] ẓulm-**pīša**, elidä[8] ham ẓulmdın an**dīša**. Agar ol İslām-**āyīn**, ḫalqı ši'ārı ham İslām bilä **dīn**. Agar ol kufr-ḫi**ṣāl**, eligä[9] dağı kufr ṭarīqı af'**āl** kim[10]:

Ḥukamā' šāhnı dep durlar daryā-yi zaḫ**ḫār** va qawm-u-ḫaylın daryā tegräsidäki an**hār**. Daryā suyıġa ne kayfīyat-u-ḫāṣṣīyat va anhārġa ham-ol ḫāṣṣīyat-u-kay**fīyat**. Ol **aččıġ**, bu **aččıġ**. Ol **čüčük**, bu **čüčük**. Ol **tīra**, bu **tīra**. Ol **süzük**, bu **süzük**.

Maṯnavī: [Baḥr-i Mutaqārib (⏑––/⏑––/⏑––/⏑–)]

Arıġlar ki ol baḥrdın ayrılur biliklik alarnın͡ġ suyın bir[11] bilür

Ču bir dur su daryā bilä nahr ara [f.11(a)] emäs ṭa'mıda ḥājat-i mā-jarā'(a) [21-бет]

On birinči faṣl «Šayḫu-l-İslām ḏikridä»

Šayḫu-l-İslām musalmānlar pīšvāsıdın **'ibārat** dur va İslām[12] muqtadāsıġa **išārat**[13]. Mundaq kiši 'ālimī kerāk İslām-pa**nāh** va 'ārifī kerāk muqarrab-i dar**gāh**. Ḫiradmandī[14] šarī'at-ši'**ār**, faqrġa ḫursandī[15] ṭarīqat-**āṯār**. Yaḫšı-yamanġa[16] šafaqatı fayżı **'ām**(m), uluġ-kičikkä iršādı naf'ı lā-ka**lām**[17]. Kāmilī[18] šar' qānū**nıġa rāsiḫ**, barča mubtadi'lar bid'a**tıġa nāsiḫ**. An͡ġa ki[19] bu naw' bolġay āyīn-i İs**lām**, šayḫu-l-İslām anı[20] desä bolur. Va-s-sa**lām**.

Bayt[21]: [Baḥr-i Ḫafīf (–⏑––/⏑–⏑–/––)]

Mundın oldı muqarrab-i bārī šayḫu-l-İslām pīr Anṣārī

---

[1] kim [K, UZ]. [2] magar [K/fn., UZ]; magar ki [MS/c]. [3] balā' birlä [K/fn., UZ]; *om.* [K]. [4] *om.* [MS/b, MS/c]. [5] «Bā-mušābaha(?) iṭā'at qılġanlar ḏikridä» [MS/b]. [6] šāhġa [K/fn., MS/c, UZ]. [7] *om.* [K/fn., UZ]. [8] K/fn., MS/b, UZ; eligä [K]; eli [K/fn., MS/a]; elgä [MS/c]. [9] K, MS/b; eli [MS/a]; elgä [MS/c, UZ]; el [K/fn.]. [10] *om.* [K/fn., MS/c, UZ]. [11] ham [UZ]. [12] İslām ahlı [MS/b]. [13] išārat dur [K, UZ]. [14] K/fn., MS/b; Ḫiradmand-i [K, MS/a, MS/c, UZ]. [15] ḫursand va [K/fn., MS/c, UZ]. [16] yaḫšı-yaman [UZ]. [17] mā-lā-kalām [K, MS/c, UZ]. [18] Kāmī bolġay [K/fn., UZ]; Kāmilī bolġay [MS/c]. [19] kim [K/fn., UZ]. [20] *om.* [K/fn., UZ]. [21] K, MS/b, MS/c, UZ; Naẓm [K/fn., MS/a].

On ikkinči faṣl «Qużāt ḏikridä»

Qāżī İslām bināsıġa **arkān** dur va musalmānlar ḫayr-u-šarrıġa nāfiḏ-i **farmān**[1]. Dīnī ‘ulūmdın[2] köng̑li mulki ma‘**mūr** keräk va yaqīnī firāsatdın ḫāṭirı jam‘īyatı bī-fu**tūr**. Mayl-i šaḥṣī żamīrı kišvarıdın muta**vārī**, mudāhana ṭarrārı mulā’amatıdın ṣādiq[3] köng̑li **‘ārī**. Maḥkaması maḫzan-i ‘ulūm-i šar**‘īya**[4], ḥukm qılurıda āšnā va bī-gāna ang̑a ‘ala-s-sa**vīya**. ‘İlm-u-taqvāsıdın köng̑üllärdä šu**kūh**, diqqat-u-firāsatıdın bī-diyānatlarda[5] an**dūh**. Köng̑li «kalāmu-llāh» aḥkāmıdın **qavī**, ḥukmıda muqtadā’ aḥādīṯ-i muṣṭa**favī**. Šar‘ī ḥīlalar girihı-[f.11(b)]-dın köng̑**li ačuq**, fuqahā’ tazvīrları tīraligidin żamī**rı yaruq**. Rišva-ḫ^{v}ār mu**ftīlar qašıda mankūb** va ḥīla-gar[6] vakī**llar alıda ma‘yūb**.

‘Āmmī qāżī ki may ičkäy, öl**türgülük dur**, dūzaḫ otıġa yetmäsdin burun köy**dürgülük dur**[7]. [22-бет] Qāżī-yi riš**va-ḫ^{v}ār**, İslām ḥiṣārıġa raḥ**nagar**. Ol-ki rišva berip qażā’ a**la alġay**, rišva alıp ham šar‘nı bu**za alġay**.

Qāżī keräk ki[8] jādda-yi šar‘dın qadam **čıqarmaġay** va ṣirāṭ-i mustaqīmdın tašqa**rı barmaġay**. Mustaqīm ḫaṭṭ har qayan ki[9] mayl qıldı, egri **boldı**, sāz tārı dek ki[10] i‘tidāldın tajāvuz qıldı, tüzügi bu**zuldı**. Ol-ki ḥukmı el māl-u-jānıġa **jārī bolġay**, keräk ki[11] da’bı payġām-bar[12] ši**‘ārı bolġay**. Ayaġı ki[13] ṣirāt-i mustaqīmdın ta**yıldı**, vayl[14] čāhı tübin maqām **qıldı**, bu išni özi «qılurmen» degän bī-bāk va **kāḏib**. Kāḏib-u-bī-bākkä[15] payġam-bar šar‘ı ḥākimlıġıġa ne mu**nāsib**.

Qiṭ‘a: [Baḥr-i Ramal (–⏑––/–⏑––/–⏑––/–⏑–)]

Muḫbir-i ṣādiq šahī kim qıldı dīn-u-šar‘nı

Barı adyān nāsiḫı andaq ki mumkin erdi, tüz

Kāḏib ol yolnı nečük tüzgäy ki bir kaḏḏāb ham

Qıldı köp da‘vī, valī qoydı jahannam sarı yüz

On üčünči [f.12(a)] faṣl «Muftī faqīhlar ḏikridä»

---

[1] farmān dur [K, MS/c, UZ]. [2] ‘ulūm-i dīnīyadın [K/fn., MS/c, UZ]. [3] ṣāff [K/fn., MS/c, UZ]. [4] ‘ulūm va šar‘īya [UZ]. [5] bī-diyānatlar köng̑lidä [K/fn., MS/c, UZ]. [6] ḥīla-kār [K, MS/b, MS/c, UZ]. [7] *om.* [K/fn., MS/b] [8] kim [K, UZ]. [9] kim [K, UZ]. [10] kim [K, UZ]. [11] MS/b, MS/c; *om.* [MS/a]; kim [K, UZ]. [12] muqmir [K, UZ]. [13] kim [K, UZ]. [14] ва яд [UZ]. [15] Kāḏib-i bī-bākkä [K, UZ].

Muftī faqīhī kerāk mutadayyin va 'ālimī kerāk mu'min. İslām 'ilmıda **māhir** va diyānat nūrı jabīnıda **ẓāhir**. Mayldın köng̑li **bī-quṣūr** va ḥīladın żamīrı **bī-futūr**. Qalamı rivāyātda **ṣādiq**, raqamı mujtahid sözi bilä **muvāfiq**.

Yoq ki fāsiqī bolġay may-**ḫ̌ʷār** va jāhilī bolġay bad-kirdār va ġad**dār**. Bir diram üčün yüz ḥaqqnı nā-ḥaqq et**küči** va az karam üčün köp «lā»nı[1] «na'am» bit**güči**. Bir sabad üzüm üčün bir bāġnı köydürmägdin **ġamı yoq** va bir bātmān buġday üčün bir[2] ḫarmannı savurmaġdın **alamı yoq**. Muftī ki ḥīla bilä fatvā **tüzär**, qalam nūki bilä šarī'at yüzin **buzar**, muzd üčün sīm alıp ki mālı**ġa qatar**, dīnını dunyā**ġa satar**.

Mundaq muftī ādamī-kuš **ṭabīb** dur. Birigä İslām qatlı, birigä musalmānlar qatlı **naṣīb**[3]. [23-бет]

Rubā'ī:

Muftī ki[4] išigä muzd alıp qılsa raqam

Muzd artuq esä, mayl kerāk qılġay kam

Fatvāda ču boldı muzd üčün «lā» va «na'am»

Qılmaq kerāk ol qalam-zan elgini qalam

On törtünči faṣl «Mudarrislar ḏikridä»

Mudarrisnıng̑ kerāk ki: ġarażı[5] manṣab **bolmasa** va bilmäs 'ilmnı ayturġa murtakib **bolmasa**. Ḫ̌ʷud-namālıġ üčün dars ḥawżasın[6] **tüzmäsä** [f.12(b)] va ḫ̌ʷud-sitālıġ[7] üčün takallum va ġawġā' kör**güzmäsä**. Jahldın dastārı ulug̑[8] va 'ilāqası **uzun bolmasa** va mubāhāt üčün madrasa ayvānı bašı ang̑a **orun bolmasa**. Dīnī 'ulūm **bilsä** va yaqīnī masā'il elgä[9] ta'līm **qılsa**. Bī-bākliklärdin harā**sān** va nā-pākliklärdin gurī**zān** bolsa.

Yoq ki özin 'ālim **bilgäy**, nečä majhūlġa anvā'-i fisqnı «mubāḥ» balki «ḥalāl» **qılġay**. Qılmas išlärni qılmaq andın ma'**lūm bolġay** va qılur išlär tarki andın qā'ida va ru**sūm bolġay**. Bu mudarris emäs ki[10] **mubtadi'** dur va mundaq kiši ṣuḥbatı İslām ahlıdın[11]

---

[1] köplärni [K, MS/b]. [2] *om.* [UZ]. [3] naṣīb dur [K, MS/c, UZ]. [4] kim [K, UZ]. [5] Mudarrisnıng̑ ġarażı kerāk ki [MS/b]. [6] ḥalqasın [MS/b]; ḥawzasın [K/fn., MS/c]. [7] ḫ̌ʷud-sitānlıġ [K, UZ]; ḫ̌ʷud-namālıġ/ ḫ̌ʷud-namālıq [K/fn., MS/c]. [8] улув [UZ]. [9] *om.* [UZ]. [10] dur kim [K, UZ]. [11] *om.* [UZ].

mumtani'[1].

'Ālim keräk[2] muttaqī bolsa va **āgāh** va ayturı[3] <qāla Allāhu> va <qāla rasūlu-**llāh**(i)>.

Qiṭ'a: [Baḥr-i Mużāri' (– – ⏑ / – ⏑ – ⏑ / ⏑ – – ⏑ / – ⏑ –)]

Har ne ki[4] aytur olsa[5] Ḫudā-u-rasūldın andın sonḡ olsa mujtahid-u-awliyā' sözi

Andın kiši ne kim ešitür yā ki örgänür bolġay[6] Ḫudā sözi yoq esä muṣṭafā sözi

On bešinči faṣl «Aṭṭibā' ḏikridä»

Ṭabībqa öz fannıda ḥaḏā**qat** keräk va bīmārlar ḥālıġa šafa**qat**[7]. Va nafs-i ṭibbġa ṭab'ı [24-бет] **mulā'im** va ḥukamā' qawlıġa pay-rav va **mulāzim**. Sözindä[8] rifq va dil-**jūyluq** va özindä[9] āzarm va ḫ^v^uš-**ḫūyluq**.

Ḥāḏiq ṭabīb ki šafa**qatı bolġay**, 'Īsā «rūḥu-llāh»ġa nis**batı bolġay**. 'Īsā iši čıqqan jānnı tanġa kiyür**mäk**[10] **du'ā' bilä**, munuṇg iši tandın čıqa durġan [f.13(a)] jānġa māni' bol**maq davā' bilä**. Mundaq ṭabībnıṇg yüzi marīż köṇg**ligä maḥbūb** dur va sözi bīmār jā**nıġa marġūb**[11]. Damı 'alīllarġa da**vā'** va qadamı ḫastalarġa **šifā'**. Ḫiż**r-i najāt anıṇg tal'atı** va «ā**b-i ḥayāt**» **anıṇg šarbatı**.

Agar fannıda māhir bolsa ammā bad-**ḫūy** va bī-parvā va durušt-**gūy**, marīżqa agarča bir jānibdın **'ilāj yetkürür**, ammā nečä jānibdın taġyīr-i **mizāj yetkürür**.

Līkan 'āmmī ṭabīb kim dur[12] šāgird-i ja**llād**, ol tīġ bilä va bu zahr bilä qılġučı bī-**dād**. Ol mundın yaḫšıraq dur bī-ište**bāh** kim anıṇg qatīlı gunah-kār dur va munuṇg bī-gu**nāh** ki hīč gunah-kār a**nḡa ḏalīl** bolmasun va hīč bī-gunāh mu**nḡa 'alīl**[13].

Bayt[14]: [Baḥr-i Mutaqārib (– – ⏑ – – / – – ⏑ – – / – – ⏑ – –)] (?)

Ḥāḏiq ṭabīb-i ḫ^v^uš-gūy tan ranjıġa šifā' dur

'Ām(m)ī va tund-u bad-ḫūy el jānıġa balā' dur

---

[1] mumtani' dur [K, MS/c, UZ]. [2] keräk kim [K, UZ]; keräk ki [MS/c]. [3] ayturġa [UZ]. [4] kim [K]; *om.* [K/fn., UZ]. [5] bolsa [UZ]. [6] bolsa [K, UZ]. [7] šafaqat va marḥamat keräk [K/fn., MS/c, UZ]. [8] sözidä [K, MS/c, UZ]. [9] özidä [K, MS/c, UZ]. [10] kivürmäk [K, MS/c, UZ]; ketürmäk [K/fn.]. [11] marġūb dur [K, UZ]. [12] erür [K/fn., MS/c, UZ]. [13] 'alīl bolmasun [K/fn., MS/c, UZ]. [14] K, MS/b, MS/c, UZ; Naẓm [K/fn., MS/a].

On altınčı faṣl «Naẓm gulistānınıng ḫ^v^uš-naġma qušları ḏikridä»

Va ol nečä ṭabaqa dur:

Avvalġı jamā'at nuqūd-i kunūz-i ma'rifat-i ilāhīdın ġa**nī**[1] va ḫalq ta'rīfıdın mustaġ**nī**[2] durlar[3]. İšläri ma'ānī ḫazā'ınıdın jawhar[4] **termäk** va el fayżı üčün vazn silkigä[5] naẓm **bermäk**[6]. Naẓm adāsı ba-ġāyat arju**mand** va bī-nihāyat šarīf va dil-pa**sand**[7] üčün āyāt kalāmda nāzil **bar** va ḥadīṯ-i[8] mu'jiz niẓāmda tilägän ta**par**. Čūn ma'a-l-qaṣd **emäs**, el [f.13(b)] ḥurmat jihatıdın anı ši'r[9] **demäs**.

Ammā bu 'azīz qawmnıng pīšvā-u-muqtadāsı va bu šarīf ḫaylnıng sar-daftar-u-sar-ḫaylı, valāyat baḥrı[10] [25-бет] gaw**harı** va karāmat awjı[11] aḫ**tarı**, Amīru-l-mu'minīn 'Alī <raẓiya Allāhu 'anhu wa karrama Allāhu wajhahu> dur kim naẓm dīvānları **mawjūd** dur va anda asrār va nukat nā-**ma'dūd**.

Bu maẓhar-i 'ajā'ibqa gurūhī ki[12] **tābi' dur**, ba'żını 'arż qılalı ki kimlär **vāqi' dur**. Fārsī 'ibāratda ol jumladın nāẓim-i javāhir-i as**rār**, Šayḫ Farīdu-d-dīn 'Aṭṭ**ār** dur. Yana qā'il-i *Maṯnavī-yi ma'navī*, ġavvāṣ-i baḥr-i ya**qīn**, Mawlānā Jalālu-d-**dīn**, ya'nī Mawlavī Rūmī dur ki maqṣūdları[13] naẓmdın asrār-i ilāhī a**dāsı** va ma'rifat-i nā-mutanāhī im**lāsı**dın özgä yoq tur. Yana ham awliyā'-i **āgāh** va mašā'iḫ va ahlu-l**lāh** bar ki[14] bularġa tatabbu' **qılıp durlar** va bular kalāmı adāsın va ḥaqā'iqı ma'nāsın mustaḥsan **bilip durlar**[15]. Va bu ḫayl dur ḥaqīqat ṭarīqınıng suḫan**varı**, balki kīmiyāgari va kibrīt-i aḥ**marı**.

Yana bir jamā'at durlar ki[16] ḥaqīqat asrārıġa majāz ṭarīqın maḫlūṭ[17], **qılıp durlar** va kalāmların bu uslūbda marbūṭ e**tip durlar** andaq ki ma'ānī ahlınıng nukta-par**dāzı**, Šayḫ Muṣliḥu-d-dīn Sa'dī Šī**rāzī** va 'išq[18] gurūhınıng pāk-bāz-u-[f.14(a)]-pāk-**ravı**, Amīr Ḫusraw Dih**lavī** va taṣavvuf[19] diqqat-u[20]-muškilātınıng girih-gu**šāyı**, Šayḫ Ẓahīru-d-dīn Ṣa**nā'ī** [*sic*] va farīd-i ahl-i yaqīn, Šayḫ Awḥadu-d-dīn va ma'ānī adāsıġa **lāfiẓ**[21], Ḫ^v^āja Šamsu-d-dīn

---

[1] ġanīlar [K, MS/c, UZ]. [2] mustaġnīlar [K/fn., MS/c, UZ]. [3] dur [K/fn., MS/c, UZ]. [4] ma'rifat jawharın [K/fn., MS/c, UZ]; javāhir [MS/b]. [5] silkidä [UZ]. [6] termäk [UZ]. [7] dil-pasand olduġı [K/fn., MS/c, UZ]. [8] aḥādīṯ-i [MS/b]. [9] K, MS/b, MS/c, UZ; šu'arā' [MS/a]. [10] baḥrınıng [K/fn., MS/c, UZ]. [11] awjınıng munīr [K/fn., MS/c]; awjı munīr [UZ]. [12] kim [K, UZ]. [13] maqṣadları [UZ]. [14] kim [K, UZ]. [15] dur [MS/b]. [16] kim [K, UZ]. [17] maḥṣūl [UZ]. [18] 'išq ahlı [K/fn., MS/c, UZ]. [19] taṣavvuf va [K, MS/c, UZ]. [20] *om.* (va) [K, MS/c, UZ]. [21] Ḥāfiẓ [UZ].

Muḥammadu-l-**Ḥāfiẓ**.

Yana jam'ī ham[1] bar durlar ki majāz ṭarīqı adāsı alar naẓmıġa **ġālib** va alar bu šīvaġa köpräk **rāġib** durlar andaq ki[2] Kamāl(-i) İṣfa**hānī** va Ḫāqānī(-yi) Šīr**vānī** va Ḫ^v^ājūy(-i) Kir**mānī** va Mawlānā Jalālu-d-dīn[3] va Ḫ^v^āja Kamāl(-i) Ḫ^v^ujandī[4] va Anvarī va **Ẓahīr**(-i) Fāryābī[5] va 'Abdu-l-vāsi' va **Aṯīr** va Salmān(-i) Sāvajī va Nāṣir(-i) Bu**ḫārī** va Kātibī(-yi) Nayšābūrī va Šāhī(-yi) Sabza**vārī**.

Va yana ḥaqīqat-u-majāz ṭarīqıda **kāmil** va 'ilmī ikkäläsi ṭarīqıda vāfī va **šāmil**, naẓm ahlınıng muqtadā'-u-imāmı, ḥażrat-i šayḫu-l-İs**lāmī**[6] Mawlānā Nūru-l-millat wa-d-dīn 'Abdu-r-raḥmān **Jāmī** <nawwara Allāhu marqadahu wa qaddasa sirrahu> dur kim avvalġı [26-бет] ṭabaqa raviš-u-kalāmıda ham šarīf-**maqāl** va songgı ṭabaqanıng ham-adāsı laṭā'ifıda ham[7] ṣāḥib-**kamāl** dur ki[8] 'ālamda ḏawq-u-ḥāl ahlı bular laṭā'ifı bilä masrūr **durlar** va bular ma'ārifı birlä ḥużūr qı**lurlar**.

Yana adnā ṭabaqası jamā'atī **durlar** ki[9] naẓm faqat bilä[10] ḫ^v^ušnūd va ḫursand va rāżī va bahramand **durlar**. Va yüz mašaqqat bilä yetti[11] bayt ki[12] baġlaš**turġaylar**, [f.14(b)] da'vī āvāzasın yetti falakdin a**šurġaylar**. Sözläridä nī ḥaqā'iq-u-ma'ārif nū**šıdın ḥalāvat** va naẓmlarıda nī šawq-u-'išq o**tıdın ḥarārat**. Nī šā'irāna[13] tarkībları **aḥsan** va nī 'āšiqāna söz-u-dardları šu'la-**afkan**. Ba'żıdın agar gāhī birär yaḫšı bayt **vāqi' bolur**, ammā[14] anča yaman da'vī ham[15] ẓāhir bolur ki ol ham **żā'i' bolur**. Agar biri bir nāzuk ma'nīda[16] pasandīda[17] **pīč qılur**, ammā on anča nā-pasand[18] da'vī bilä[19] anı[20] **hīč qılur**. Gūyā özlärigä 'aqīdada muvā**fiq** durlar va sözlärigä i'tiqādda mutta**fiq**. Ṭurfaraq bu kim har birining[21] sözidä ma'nī az**raq**, özidä da'vī köp**räk** <na'ūḏu bi-llāhi min šurūri anfus**nā** wa min sayyi'āti a'māl**nā**>.

---

[1] *om.* [K/fn., UZ]. [2] kim [K, UZ] [3] Jalāl [K/fn., MS/b, MS/c]. [4] K/fn.; *om.* [K, MS/a, MS/b, MS/c, UZ]. [5] K/fn.; *om.* [K, MS/a, MS/b, MS/c, UZ]. [6] šayḫu-l-İslām [K, UZ]. [7] *om.* [K/fn., UZ]. [8] kim [K, UZ]. [9] kim [K, MS/c, UZ]. [10] bilä köngüllär [UZ]; bilä köngülläri [K/fn., MS/c]. [11] bir [K, UZ]. [12] kim [K, MS/c, UZ]. [13] ši'r [MS/b]. [14] ammā on [K, UZ]; ammā yüz [K/fn.]. [15] *om.* [K, MS/b, UZ]. [16] da'vīda [MS/b]. [17] *om.* [MS/b]. [18] K, MS/b, UZ; *om.* [K/fn., MS/a, MS/c]. [19] K, MS/b, MS/c, UZ; *om.* [MS/a]. [20] anı ham [MS/c, UZ]. [21] birining ki [MS/b].

Rubāʻī:

Aʻlāları dur nedin ki dersen aʻlā adnāları ham barča danīdın adnā

Awsaṭları kim hīč nemägä yaramas bil kim nafas urmamaq alardın awlā

On yettinči faṣl «Kātiblar ḏikridä»

Kātib šuʻarā' sözining varaq-ni**gārı**[1] dur va söz maḫzanının ḥizāna-**dārı**. Ḫāzin hunarı **amānat bolur** va taṣarrufı **ḥiyānat bolur**. Amīn ki ḥiyānatqa **mansūb bolġay**, öz hunarıda **maʻyūb bolġay**, andaqnıng elgi qaṭʻı [f.15(a)] **ḫūb bolġay**.

Yaḫšı ḫaṭṭ-u-nuqṭadın ṣafḥaġa **jamāl** andaq ki yaḫšı yüz ṣafḥasıġa ḫaṭṭ **va ḫāl**. Ḫᵛuš-nivīs kātib sözgä ārāyiš [27-бет] be**rür** va sözlägüčigä āsāyiš yetkü**rür**. Rāqim ki raqamı **rāst**[2], rāstlar köngligä qabūlīyatı bī-**ḫᵛāst**. Muḥarrir ki taḥrīrı **tüz**, pasandīda dur agar bir bayt bitir agar **yüz**.

Agar ḫaṭṭ ṣūratı nā-**ḫᵛaš**[3] **dur**, maʻnī ḫaylıda[4] oquġučı[5] andın mušav**vaš dur**. Ḫᵛuš-nivīs ham ki sahvı **köp bolġay**, elgi falaj ʻillatıġa **čöp bolġay**. Ol-ki bī-jā nuqṭa bilä «ḥabīb»nı «ḫabīṣ» qılġay va «muḥabbat»nı «miḥ**nat**», anıng dek ḫabīṣ miḥnat-zadaġa yüz laʻ**nat**. Yaman ḫaṭṭġa ġalaṭ bī-**ḥisāb**, qarı[6] masḫara saqalıġa **ḫiżāb**. Ol saqal[7] mabraz**ġa tašlaġalı yaḫšı** va iyäsini Mālik-i dūzaḫ jahannam**ġa bašlaġalı yaḫšı**[8].

Maḥbūbdın maktūb ki[9] ham[10] ḫaṭṭı **ḫūb** bolġay ham mażmūnı **ḫūb**, jān**ġa ol dur marġūb** va köngül**gä ol dur maṭlūb**. Ḫaṭṭı yaman ham bolsa, **yaman emäs**. Muḥibb maḥbūb ḫaṭṭını **yaman demäs**.

Yaman kātib manzilı qalam-dānı dek čāh **ara bolsun**, qalamı dek bašı yara va yüzi **qara bolsun**.

Bayt[11]: [Baḥr-i Ramal (–⏑––/–⏑––/–⏑––/–⏑–)]

Qaysı bir kātib ki ol sözgä qalam sürgäy ḫilāf

Ol qara-yüzlük bašı bolsun qalam yanglıġ šikāf [f.15(b)]

---

[1] ḏawq-nigārı [MS/b]. [2] rāst dur [K/fn., MS/c, UZ]. [3] 韻を踏むための発音。辞書的には nā-ḫᵛuš である。 [4] ḫaylı [UZ]; ḫalalıda [K/fn.]. [5] *om.* [UZ]. [6] қаррийи [UZ]. [7] Ol ḫaṭṭnı qırqıp [UZ]. [8] *om.* [K/fn., UZ]. [9] kim [K, UZ]. [10] *om.* [MS/b, MS/c]. [11] K, MS/b, MS/c, UZ; Naẓm [MS/a].

On sekkizinči faṣl «Dabīristān ahlı ḏikridä»

Maktab-**dār** bī-gunāh ma'ṣūmlarġa jafā'-**kār**. Aṭfāl 'aḏābıġa **rāġib** va alar ta'dībıġa murta**kib**. Ḏātı bī-mu**dārā**, dimāġı pulad va könĝli **ḫārā**. Ġażabdın qašıda **čın**, gunahsızlar bilä āyīnı[1] **kīn**. Köprägidä tab' ġilẓatı[2] padī**dār** va 'aql qillatıġa giri**ftār**. Ammā tawsan aṭfāl ṭab'ını jafā' bilä rām qılġu**čı** va nā-hamvār ṣiġār ṭawrıġa siyāsat bilä andām ber**güči**. Agarča[3] ḫūyları duruštluqta namā**yān dur**, ammā aṭfāl nā-hamvārlıġı iṣlāḥıġa irik saw**hān dur**.

Anınĝ iši ādamdın **kelmäs**, qaysı[4] ādam ki dīv qıla **bilmäs**[5]. Bir[6] qattıġ kišini bir ṭifl muḥāfaẓatı [28-бет] 'ājiz **etär**, ol[7] bir sürükkä 'ilm va adab örgätkäy, kör ki[8] anĝa ne **yetär**. Ančası bar ki[9] ol qawm idrāk-u-fahmı az **tüšär**, andaq kišigä yüz munča mašaqqat ne **bošar**.

Har taqdīr bilä aṭfālġa ḥaqqı[10] **köp dur**, agar pādšāhlıqqa yetsä va anĝa qulluq qılsa[11] **čöp**[12] **dur**. Šāgird agar šayḫu-l-İslām agar **qāżī dur**, agar andın ustād rāżī[13], Tenĝri **rāżī dur**.

Bayt: [Baḥr-i Ramal (–⏑––/–⏑––/–⏑––/–⏑–)]

Ḥaq(q) yolıda kim sanĝa bir ḥarf oqutmış ranj ilä

Ä ylämäk bolmas adā' anınĝ ḥaq(q)ın yüz ganj ilä

On toqquzunčı faṣl «İmāmlar ḏikridä» [f.16(a)]

İmāmat qılġučı öz qirā'atınınĝ **šīftası** dur va öz namāzınınĝ fa**rīftası**[14]. Kišilikdin ḫiyā**lıda taṣavvurlar** va yaḫšılıqdın żamī**rıda takabburlar**. Öz namāzın maqbūl **taḫayyul qılġan**, jamā'at namāzı[15] qabūlīyatın ham **takafful qılġan**. Beyik qirā'atı maḥż-i ra'nālıq va a**nānīyat**, jamā'atdın ilgäri čıqmaġı[16] 'ayn-i rusvālıq va naf**sānīyat**. Ḫiyālı ḫalqqa pīš**vālıq** va taṣavvurı elgä muqta**dālıq**.

---

[1] āyīnı ḫašm va [K/fn., MS/c, UZ]. [2] ġilẓatı va ṭama' 'illatı [K, UZ]. [3] K, MS/b, MS/c, UZ; Agar [MS/a]. [4] ne [MS/b]. [5] bilä almas [MS/b]; almas [K/fn., MS/c, UZ]. [6] Har [K/fn., MS/c, UZ]. [7] ol-ki [K/fn., MS/b]. [8] *om.* (kör ki) [UZ]; kim [K]. [9] Anča bar kim [K, UZ]. [10] ḫuqūqı [MS/b]. [11] etsä [K/fn., MS/b, MS/c]. [12] ḫūb [K, UZ]. [13] rāżī dur [K/fn., MS/c, UZ]. [14] farīftası dur [K, MS/c, UZ]. [15] namāzın [MS/b]; namāzını [K/fn.]. [16] čıqmaġay [K/fn., UZ].

Namāzġa imāmat kāmil **imām iši dur**, özin mundaq taṣavvur[1] qılġan jāhil va nā-**tamām kiši dur**. İmāmat munāsib dur pīrdın ḫayl-i[2] **murīdġa**[3] yā mu'allimdın sürük ṭifl-i nā-**rasīdġa**[4] yā 'ālimdın juhhālġa šafa**qat üčün** yā kāmildın tavābi'-u-'iyālġa tarbi**yat üčün**.

Ādāb-i 'ibādat talqīnıġa ka-**mā-hiy**(a) va ta'līm-i šarī'at āyīnıġa nā-**gāhī** nā-kāmdın munāsib **dur** va żarūratdın tajvīz qılsa bo**lur**.

Ammā vaẓīfa va 'ulūfa **yemäk** va özin muqtadā' va imām **demäk**, ādamī **iši emäs** va andaq kišini ādamīlar **kiši demäs**.

Qiṭ'a: [Baḥr-i Mujtaṯṯ (⏑–⏑–/⏑⏑––/⏑–⏑–/⏑⏑–)]

Valāyat ahlıġa jam'ı malāmatīyaġa[5] baq

Ki ḫalq közidin äylär namāzını yašurun [29-бет]

Bu ṭurfaraq ki[6] namāzıda mu'jab-i nā-dān

Tutar imāmat üčün ḫayl qiblasıda orun[7]

Yigirminči faṣl «Muqrīlar[8] ḏikridä» [f.16(b)]

Mu'aḏḏin[9] ki Ḥaqq 'ibādatıġa ni**dā' qılġay**, jān Aṅga fidā' agar yaḫšı ṣawt bilä a**dā' qılġay**. Agar pāklik va niyāz bu iškä **mulḥaq dur**, ḫāṣṣ-u-'āmm köṅgligä maqbūl-i **muṭlaq dur**. Bu nidā' yamanlarnı fisq kunjıdın masjid sarı baš**qarur** andaq ki fusūngar yılannı tarāna bilä tüšükdin čı**qarur**.

Va agar muqrī[10] lavandī[11] dur bad-**āvāz** va kul'undī[12] dur laḥnı **nā-sāz**, badanı vużū' qaydıdın nā-**pāk**[13] va hūšı vaqt ri'āyatıdın bī-**bāk** va rūḥı ṭā'at ḏawqıdın bī-ḫa**bar** va üni ṣawtu-l-ḥamīrdın an**kar**, man'-u-nafy[14] tofraġın aġzıġa **urmaq awlā**, balki ṭāq yā manārdın anı u**čurmaq awlā**.

Rubā'ī:

Muqrī ki erür pāk-rav-u zāhidvaš alḥānı ḫ^v^uš-u ḥasan, adāsı dil-kaš

[1] taṣavvuf [UZ]. [2] *om.* [K/fn., MS/c, UZ]. [3] murīd ḫaylıġa tafhīm üčün [K/fn., MS/c, UZ]. [4] K, MS/b; nā-rasīdaġa [MS/a]; nā-rasīdaġa ta'līm üčün [K/fn., UZ]; aṭfālıġa ta'līm üčün [MS/c]. [5] malāmatıġa [K, UZ]. [6] kim [UZ]. [7] uzun [MS/b]. [8] Mu'aḏḏinlar [K/fn., MS/c]. [9] Mu'aḏḏinī [K, UZ]. [10] mu'aḏḏin [K/fn., MS/c]. [11] lavand [UZ]. [12] kulġundī [K, UZ]. [13] pāk [MS/b]. [14] man'-u-nahy [K, UZ].

Jān an͡ga fidā' ki rūḥ etär andın ġaš(š) gar bolsa munun͡g 'aksı, nafas urmasa ḫ^{v}aš[1]

Yigirmi birinči faṣl «Ḥuffāẓ ḏikridä»

Ḥāfiẓġa ki yaḫšı maḫraj[2] va adā' bilä **tilāvat bolġay**, mustami'larnın͡g rūḥıġa andın āsāyiš va jānıġa ḥ**alāvat bolġay**. Agar ḥusn-i ṣawt bularġa **yār dur**, ešitküči ṣāḥib-ḥāl bolsa, iši duš**vār dur**.

Agar bad-laḥja bolsa[3] [f.17(a)] va bad-a**dā'**, surma anın͡g ġiḏāsı[4] qılsun Ḫu**dā**. Agar fāsiq dur va bad-ma**'āš**, surma ham[5] ḥayf dur, boġzıġa munāsib dur **taš**. Va agar bā-vujūd bu ḥāllar[6] köp **oquġay**, umīd ol-kim aġzı ṣadaf aġzı dek va tili sūsan tili dek **qoruġay**. [30-бет]

Bayt[7]: [Baḥr-i Mużāri' (– – ◡/– ◡ – ◡/◡ – – ◡/– ◡ –)]

Yā Rab(b) ki hīč bazmda ol naġma qılmaġay/ aġzı ġiḏādın[8] özgä nemägä ačılmaġay

Yigirmi ikkinči faṣl «Muṭrib va muġannī[9] ḏikridä»

Muṭrib-i ṭarab-afzā, muġannī-yi ġam-**zidā**, ikkäläsigä ḥāl-u-dard ahlı[10] qılurlar jān-**fidā'**[11]. Ol-ki[12] körgüzgäy mulā'im tarāna **va naġam**, agar ešitküčinin͡g[13] ḥayātı naqdı[14] an͡ga fidā' bol**sa**, **na ġam**. Kön͡gül quvvatı **ḫ^{v}uš-navāzdın**, rūḥ qutı **ḫ^{v}uš-āvāzdın**. Ḫ^{v}uš-ḫ^{v}ān muġannīdın dard ahlının͡g otı **tīz dur**, agar malāḥatı bolsa, ḥāl ahlıġa rastā**hīz dur**[15]. Har muġannī ki dardmandānaraq naġma **čekär**, anın͡g zaḫması[16] zaḫmlıq yüräkkä kārgarräk **tegär**. Ātišīn-yüzlük muġannī ki ḥalqıdın[17] mulā'im su**rūd čıqarġay**, ḥāl ahlının͡g köygän baġrıdın **dūd čıqargay**. Mulā'im muṭrib ki ṭab' va fahm ham[18] **an͡ga yār bolġay**, [f.17(b)] ādamī kön͡gli tašdın bolsa, **an͡ga zār bolgay**[19]. Ḫuṣūṣan ki ham aytqay va ham **čalġay**[20], kön͡gül mulkigä ne qozġalanlar ki **salġay**.

---

[1] 韻を踏むための発音。辞書的には ḫ^{v}uš である。 [2] MḤRJ [K]; мах̣заж [UZ]. [3] olsa [MS/b]. [4] K, MS/b, MS/c, UZ; ġadāsı [MS/a]. [5] K, MS/b, MS/c, UZ; *om.* [K/fn., MS/a]. [6] ḥāllar bilä [K, UZ]. [7] K, MS/b, MS/c, UZ; *om.* [MS/a]. [8] K, MS/b, MS/c, UZ; ġadādın [MS/a]. [9] muġannīlar [K/fn., UZ]. [10] ahlı jān [K, MS/b, MS/c, UZ] [11] fidā' [K, MS/b, MS/c, UZ]. [12] K, MS/b, MS/c, UZ; Ol [MS/a]. [13] ešitküčini [MS/b]. [14] K, MS/b, UZ; *om.* [MS/a, MS/c]. [15] *om.* [MS/b]. [16] naġması [K/fn., UZ]. [17] ḫulqdın [K]; ḫulqıdın/ хилқидин [UZ]. [18] *om.* [K, MS/b, MS/c, UZ]. [19] *om.* (ādamī kön͡gli ~ zār bolġay) [UZ]. [20] *om.* (ādamī kön͡gli ~ ham čalġay) [MS/c].

Sulūk ahlıġa bir maḫūf yer bu man**zil dur** kim anda ham nuqṣān va ham kamāl ḥāṣ**il dur**. Sālik bu yerdä bir muhlik āh bilä ham[1] maqṣūdqa **yetip dur** va bir sāġar-i[2] jān-kāh bilä yıllar qazġanġanı ham elgidin **ketip dur**. Šiblī va Nūrī <qaddasa sirrahumā> samā'**da kettilär**[3] va yol[4] sulūki bilä maqṣūd sar-manzilıġ**a yettilär**.

Basā ahlu-llāh ki arġanūn ünidin dayrġa **kirdi** va dīn va İslām naqdın muġ-baččalarġa bay **berdi**. May-ḫānada kim ki maydın **ibā' qılgay**, nay üni bir dil-kaš navā bilä anı **rusvā qılġay**. Agar kiši may havāsın bašıdın **čıqarur**, ġījak madd-i nālası bilä[5] yal**barur** va ṭanbūr pardadaġı fitnadın **halāk etär** va 'āfiyat pardasın **čāk etär** va čang zārlıġ bilä boġzın **tartar** va 'ūd lisānı naġmasınıng tarġībı čangdin ham **artar**. Anda kim rabāb bašın yergä qoyup[6], niyāz kör**güzgäy** va qopoz qulaq tutup, 'ayšqa tarġīb [31-бет] āhangin **tüzgäy**. Čūn qānūn-u-čaġāna nālası qu**laqqa** [f.18(a)] **tüškäy** va mahvaš sāqī yükünüp, may a**yaqqa tüškäy**, ol vaqt zuhd-u-taqvāġ**a nī i'tibār** va hūš-u-ḫiradġ**a nī iḫtiyār**.

Agarča 'išqqa[7] faqr[8] ahlını rusvā qılurda bulardın far**āġ dur**, va-līkan ol otnı yaruturġa nay damı[9] yel va maydın **yaġ dur**. 'Arab teväsi ḥudī laḫnı bilä bādiya qaṭ'ıda **tīz** bolur, bulut buḫtīsı ra'd ṣidāsıdın ṣā'iqa-an**gīz**.

İnsānġa muḫliṣ[10] ġalaṭ ḫi**yāl** dur va ādamīġa bu āfatdın qutulmaġlıq mu**ḥāl**[11].

Ammā bu ṭā'ifanıng sā'ırı ham agarča ṭarab-āyīn va miḫnat-zi**dā durlar**, va-līkan fi-l-ḥaqīqa la'īm-sīrat va ga**dā durlar**. Aytquči **va čalġuči** zārlıq va inälmäk bi**lä alġuči**. Tā buyurġučıda ṣila va in'ām **bar**, alar mulāzim durlar va ḫidmat-**kār**. Tā ṣuḥbatda ni'mat **köp**, alarġa barča amr-u-nahyıng **čöp**. Čūn bazmda tana"um **az boldı**, alar iši istiġnā' va **nāz boldı**. Ni'mat degän nemä ki **tamām yoq boldı**, alarnıng köngli sendin **tamām toq boldı**. Agar yıllar bahra alıp durlar, iḥ**sānıngdın** āšnālıġ bermäy ötärlär **yanıngdın**. Az alsalar, **nā-sipās**. Köp [f.18b] alsalar, ḥaqq **nā-šinās**[12].

---

[1] *om.* [MS/b]. [2] na'ra-yi [K/fn., MS/c, UZ]. [3] K, MS/b, MS/c, UZ; ketti [MS/a]. [4] bu yol [K/fn., MS/c, UZ]. [5] bilä anga [MS/c, UZ]. [6] K, MS/b, MS/c, UZ; qavup [MS/a]. [7] 'išq [K/fn., UZ]. [8] taqvā [K/fn., MS/b, MS/c]. [9] damıdın [MS/c, UZ]. [10] maḥż-i [K, UZ]. [11] muḥāl dur [K, UZ]. [12] ḥaqq-šinās [UZ].

Akṣarı fāsiq va bad-**ḫūy** va qalġanı kaj-ṭab' va durušt-**gūy**. Ḥarakātları ḫārij[1] tüzük**siz**[2] **sāzları**[3] **dek** va kalimātları[4] ḥašv[5] maḥall**sız nāzları dek**. Vafā' alar ṭab'ıdın **maslūb**, vafā' ahlı alar[6] alıda mardūd va **mankūb**. Muġannī **vafāsız**, kungur **ḥayāsız**. Agar yıllar ri'āyat qılıp sen va ham-**hāna dur**, bir qatla ki nemä[7] bermädin͡g bī-**gāna dur**. Er ṣūratıda šāhidī dur **ṭannāz** va mulā'im kisvatıda mufsidī dur ḫāna-bar-**andāz**. Ḫavāṣṣġa dil-farībī dur ṣawt **va naġam**[8] **bilä**, 'avāmmġa rāh-zanī dur ṭabl **va 'alam bilä**.

Naẓm[9]: [Baḥr-i Ḫafīf (⏑⏑ – – / ⏑ – ⏑ – / ⏑⏑ –)]

Kišigä bolmasun bu fitna dučār ki ünidin najāt ṭayrı učar

Yansa qonmaqqa, ṭabl urar har dam kim ušol qušqa köpräk olġay ram [32-бет]

Yigirmi üčünči faṣl «Qiṣṣa-sāz va qiṣṣa-ḫ^{v}ān[10] ḏikridä»

Qiṣṣa-sāz bī-**kār**, qiṣṣa-ḫ^{v}ān harza-gu**ftār** kim[11] ma'jūnnāk **yā bangī** kön͡glidä anın͡g ma'rakası **āhangi**. Beyik ün bilä avuč qaqmaġı har **dam**, ḫirad-u-āzarm qušları tapmaq üčün **ram**. Ḥarakātıdın ẓāhir telbälär aṭ**vārı**, kalimātıdın bāhir üsrüklär ši'**ārı**. [f.19(a)] Tevä qumalaġın satarda qandī[12] **degüči**, ma'rakasıdaġı mu'taqidları anı satqun alıp **yegüči**.

Bayt[13]: [Baḥr-i Hazaj (⏑ – – – / ⏑ – – – / ⏑ – – – / ⏑ – – –)]

Kiši kim bolmaġay ma'jūn-u[14]-qandının͡g ḫarīdārı

Anın͡g hingāması birlä tüzälmäs hīč bāzārı

Yigirmi törtünči faṣl «Naṣīḥat ahlı[15] vā'iẓlar ḏikridä»

Vā'iẓ keräk[16] <qāla Allāhu>**dın**[17] **aytsa** va <qāla rasūlu-llāhi> muḫālafatı**dın qaytsa**, Ḫudā-u-rasūl yolıġa qadam **ursa**, özi kirgändin son͡g[18] naṣīḥat bilä elni ham ki**yürsä**[19]. Yürümägän yolġa elni baš**qarmaq**, musāfirnı yoldın či**qarmaq** dur va biyābānġa

---

[1] *om.* [K/fn., UZ]. [2] tüksiz [MS/b]. [3] sözläri [UZ]. [4] kalimāt [MS/b]. [5] ḥašv va [UZ]. [6] *om.* [UZ]. [7] *om.* [UZ]; nečä [K/fn.]. [8] naġma [MS/b]. [9] Maṣnavī [K, MS/b, MS/c]. [10] qiṣṣa-ḫ^{v}ānlar [K/fn., UZ]. [11] har kim [MS/c, UZ]. [12] qand [K/fn., UZ]; qor [MS/c]. [13] Naẓm [K/fn., MS/b]. [14] K, MS/b, UZ; ma'jūn-i [MS/a, MS/c]. [15] ahlı va [UZ]; *om.* [K/fn.]. [16] keräk ki [K, MS/c, UZ]. [17] <qāla Allāhu> söz [UZ]; <qāla Allāhu>dın söz [MS/c]. [18] son͡gra [K, MS/c, UZ]. [19] kivürsä [K, MS/c, UZ].

kiyürmäk[1] va bādiyada **itürmäk** dur. Üsrük ki elgä buyurġay hūš-**yārlıġ**, uyqučı dek dur ki kišigä[2] örgätkäy[3] bī**dārlıġ**. Uyquda söz degän jevli**gän bolur**, ol[4] degän dek qılġan[5] ne de**gän bolur**.

Va'ẓ bir muršid-i[6] **āgāh iši dur** va bir kāmil-i ahlu-l**lāh iši dur**[7]. Avval bir yolnı **barmaq keräk**, andın son͡g[8] elni baš**qarmaq keräk**. Yolnı yürümäy kirgän i**tär** va ġayr-i maqṣūd yergä ye**tär**.

Vā'iẓ ol dur ki majlisıġa ḫālī kirgän [f.19(b)] **tolġay** va tola kirgän ḫālī **bolġay**. Vā'iẓ ki[9] bolġay 'ālim va mut**taqī**, anın͡g naṣīḥatıdın čıqqan **šaqī**.

Ol-ki buyurup **özi qılmaġay**, hīč kimgä aṣar va fā'ida anın͡g[10] **sözi qılmaġay**. Naẓā'ir-ḫ^{v}ān bilä sür**güči maqāl**, dast-yār bilä yırla**ġučı**[11] **qav**(v)**āl**. [33-бет]

Naẓm[12]: [Baḥr-i Mużāri' (– – ◡/– ◡ – ◡/◡ – – ◡/– ◡ –)]

Vā'iẓ ki dast-yārsız olmas suḫan-guḏār

An͡ga yırav[13] va mun͡ga ayalġučı ḥukmı bar

Ten͡gri sözin, ayalġučı bolmay, dey almaġan[14]

Bir sāz bolsa ham, keräk ol qılġay iḫtiyār

Yigirmi bešinči faṣl «Ahl-i nujūm ḏikridä»

Munajjim ki ṣavābit-u-sayyār naẓarātıdın ḥukm **sorar**, rammāl dek dur ki nuqṭaları ḥisābı bilä lāf **urar**. Zījı hīč va taqvīmı[15] ġalaṭ taqsīm va uṣṭurlābı vājibu-l-ijtināb, ruq'atu-l-qamarı[16] bī-fā'ida-u-ṣamar[17]. Ġāfilī dur bu ašyā'[18] bilä hingāma **tutqan** va Ḥaqq ta'ālā qażā'-u-taqdīrı sözin **unutqan**. Öz elgidä bir anār bolsa, bilmäs ki nečä parda va **nečä ḫānası bar** va har parda-u-ḫānasıda[19] **nečä dānası bar** va ol dāna aččıġmu dur yā

---

[1] ketürmäk [K, UZ]; kivürmäk [MS/c]; keltürmäk [K/fn.] [2] elgä [MS/c, UZ]. [3] buyurġay [K/fn., MS/c, UZ]. [4] *om.* [UZ]. [5] qılmaq [K/fn., MS/b, MS/c, UZ]. [6] muršid-u [K, UZ]. [7] Va'ẓ ~ āgāh iši dur va anın͡g naṣīḥatın qabūl etkän (bir) maqbūl kiši dur [MS/c, UZ]. [8] son͡gra [K, MS/c, UZ]. [9] kim [K, UZ]. [10] K/fn., MS/b, MS/c, UZ; *om.* [K/fn., MS/a]; *om.* (anın͡g sözi) [K]. [11] yarlaġučı [MS/b]; ırlaġučı [K]. [12] Qiṭ'a [K, UZ]; Qiṭ'atu-l-āḫir [MS/c]. [13] biräv [MS/a, MS/b]; yarad/ ёрод [UZ]; bir AVVD [K]; BARAD [MS/c]. [14] almaġay [K, UZ]. [15] tafhīm-u-taqvīmı [K, UZ]. [16] rif'atu-l-qamarı [K, UZ]; ḤQH al-qamarı [MS/b]. [17] bī-fā'ida va bī-ṣamar [K/fn., UZ]. [18] asbāb [K/fn., MS/c, UZ]. [19] har parda va har ḫānasıda [K/fn., UZ].

zumuḫt**vaš**, yā čučükmü dur yā may-**ḫ**[v]**aš**[1], bā-vuǰūd ki[2] bārlar anı kesip **yep dur** va ḫāṣṣīyat-u-kayfīyatını bilip, elgä ham šarḥ [f.20(a)] bilä **dep dur**.

Falak-i mudavvar[3] nuǰūm-u-burūǰıdın[4] af**sāna der** va alarnıng sa'd-u-naḥsı ḥukmın sorup ta**rāna der**. Bā-vuǰūd ol-ki on sözidin ittifāqı biri ham rāst **kelmäs**, munung qabāḥatın yā **bilmäs** yā bilip közigä **ılmas**. <Kaḏaba al-munaǰǰimūna> mażmūnı bilä anıng sözi **yalġan** dur va özi rāstlıġ kišvarıdın yıraq **qalġan**[5] va baṣīrat közigä ġaflat pardasın **salġan**[6].

Bayt: [Baḥr-i Hazaj (⏑–––/⏑–––/⏑–––/⏑–––)]

Emäs aflāk-u-anǰum ḥālı bī-naf'-u-żarar, līkan

Anı Tengri bilür, ermäs munaǰǰim bilmägi mumkin [34-бет]

Yigirmi altınčı faṣl «Tijārat ahlı ḏikridä»

Tuǰǰār-i siyāḥat-ši**'ār** aqālīm-u-buldān ḥālıdın ḫabar-**dār**, 'ajā'ibdın afsāna-gu**ḏār** va ġarā'ibdın nādira-guf**tār**[7]. Jibāl va taš[8] va dašt qumıġa nāqa **sürgän**, biḥār amvāǰı talāṭumıdın naf'-u-żarar **körgän**. Ḥalāl rūzī kasbıġa masāfatlar qaṭ' **etkän**, jam'īyat-i ẓāhir tiläyü[9], bāṭin parīšānlıġları anga **yetkän**. Biri yüz bolurdın bašıda[10] saw**dā**, bözi katān bolurdın könglidä[11] taman**nā**.

Mundaq kišining maqṣūdı tamām **asıġ bolmasa** va bu asıġ ḥuṣūlı üčün ranǰı **qat**(t)**ıġ bolmasa**. [f.20(b)] Sawdā üčün tengizgä kemä **sürmäsä**, durr üčün nahang kāmıġa qadam **urmasa**. Māl-u-diramnı 'aẓamatıġa sabab **qılmasa**, ḫadam-u-ḥašamnı ḥišmatıġa jihat **bilmäsä**[12]. Nafīs ajnāsnı ayap čapān key**mäsä**, laḏīḏ aġḏiyanı[13] äsirgäp, quruġ nān ye**mäsä**. Ranǰı ma'āš suhū**latı üčün**[14] **bolsa** va sūdı köngül farā**ġatı üčün bolsa**. Safardın 'azīzlar ṣuḥbatıġa yetmäk **murādı bolsa** va ri'āyatıdın nā-murādlar iši **gušādı**

---

[1] 韻を踏むための発音。辞書的には may-ḫ[v]uš である。 [2] *om.* (bā-vuǰūd ki) [K/fn., UZ]; kim [K]. [3] mudavvar va [K, UZ]. [4] MS/b; nuǰūm-u-burǰıdın [MS/a, MS/c, UZ]; BYRJYDYN [K]. [5] qalġan dur [K, MS/c, UZ]. [6] salġan dur [K, MS/c, UZ]. [7] K, MS/b, UZ; nādir-guftār [MS/a, MS/c]; guftār [K/fn.]. [8] Jibāl tašı [K, UZ]; Jibāl taš [MS/b]; Jibāl va tašı [MS/c]. [9] tiläp va [K, UZ]. [10] bašıda ming [UZ]; bašıda yüz [MS/c]. [11] könglidä nečä [K/fn., MS/c, UZ]; könglidä yüz [K/fn.]. [12] この文と前の文の順序が逆 [MS/b]. [13] K, MS/b, MS/c, UZ; aġdiyanı [MS/a]. [14] *om.* [UZ].

bolsa. Šar'ī zakāt **boynıda qalmasa**, fuqarā' ḥaqqın öz **boynıġa almasa**.

Yoq ki mālın 'azīz asrap[1] özini ḫ^v^ār **etkäy**[2] va öz mālın tamġadın oġurlap özigä maḏallat **yetkäy**. Yā vāriṯ sepär üčün yıġın**ġay**[3] yā ḥādiṯa qozġar üčün qazġan**ġay**[4]. Mundaq kiši ḫ^v^āja emäs muz**dūr dur**, öz la'īm-u-raḏllıġıdın[5] hamīša ran**jūr dur**.

Bayt[6]: [Baḥr-i Mużāri' (– – ⏑/– ⏑ – ⏑/⏑ – – ⏑/– ⏑ –)]

Mundaq kišidä yoq ḫirad-u-hūšdın nišān bilgil gadā agarča erür ḫ^v^āja-yi jahān

Yigirmi yettinči faṣl «Šahrda alıp satqučılar ḏikridä»

Šahr tahı[7] sawdāgarı ġadr-**kīš**, özigä sūd va musalmānlarġa qaḥṭ-an**dīš**. Elgä ziyān anıng **sūdı**, onġay alıp [35-бет] aġır satmaq anıng maq**ṣūdı**. Alurda katānnı[8] **böz dep**, satarda böz vaṣfıda katāndın artuq[9] **söz dep**. Šālnı torqa ornıġa ötkärä **alur bolsa**, **ta'ḫīr yoq**. Būriyānı zar-baft yeridä **sata alur bolsa**, **taqṣīr yoq**. Dukkānıda barča matā' mawjūd ġayr-i in**ṣāf**, nā-inṣāflıġıdın [f.21(a)] barča jins ḥāṣil, ġayr-i taqṣīrġa i'ti**rāf**.

Tājir musāfir, ol kad-bānūġa ham-**zānū**, balki anı čerikči desä bolur, munı kad-**bānū**. Anga sūd va alġučıġa nuqṣān-i **māl**, ikki jānibdın yalġan ant ičküči dal**lāl**.

Bayt[10]: [Baḥr-i Hazaj (⏑ – – – / ⏑ – – – / ⏑ – –)]

Bu ḫayl ādam emäslär[11], yaḫšı baqsang erür sūdung, alardın gar yıraqsang

Yigirmi sekkizinči faṣl «Bāzār kāsibları ḏikridä»

Bāzārda sawdāgar **va kāsib**, Tengrigä ḫā'in va va'da**ġa**[12] **kāḏib**. Birgä arzırnı yüzgä satmaqdın alarġa ming mubā**hāt**, minggä tegärni yüzgä almaqdın alarġa yoq bir ḏarra u**yat**. Rāstlıq bilä sawdā alarġa ziyān-**kārlıq** va va'daġa[13] vafā' alarġa bad-kir**dārlıq**. Āḫirat 'ilmı[14] sawdāsıdın i'**rāżları** va 'amal mīzānı 'adālatıġa i'ti**rāżları**. Oġul-ataġa bāzī

---

[1] K, MS/c, UZ; asra äyläp [MS/b]; asrar/ asrār [MS/a, K/fn.]. [2] etkän [UZ]. [3] yıġıtġay [MS/b]; yıġqay [K/fn., MS/c]. [4] qavġanġay/ ковғонғай [UZ]; qazanġay [K/fn.] [5] razlıġıdın [MS/a, MS/b]; raḏīllıġıdın [K, UZ]; raḏllıġı üčün [K/fn.]. [6] Naẓm [K/fn., MS/b]. [7] Šahr tī (<tuhī)/ Šuhratī [K]; *om.* [K/fn., UZ], [8] K, MS/b, UZ; katānı [MS/a]; *om.* [K/fn., MS/c]. [9] artuq yüz [MS/c, UZ]. [10] K, MS/b, MS/c, UZ; Naẓm [K/fn., MS/a]. [11] K, MS/b, MS/c, UZ; emäs dur [K/fn., MS/a]. [12] K, MS/b, MS/c, UZ; va'dġa [MS/a]. [13] K, MS/b, MS/c, UZ; va'd [MS/a]. [14] ikki [UZ]; *om.* [K/fn.].

bermäk **pīšaläri**, dağallıqların «kirāmu-l-kātibīn»dın yašurmaq an**dīšaläri**.

Bayt[1]: [Bḥr-i Hazaj (⏑–––/⏑–––/⏑––)]

Bulardın kim ki özni der valī dur agar qılsan͡g yaqīn, bir dāġulī dur

Yigirmi toqquzunčı faṣl «Sā'ir hunarvar ṣan'at-pardāz[2] ḏikridä»

Hunarvar ṣan'at-par**dāz**[3], yalġanları köpdin köp va čınları azdın **az**. İšläridä dağallıq, maqdūr-u-ḥadddın **narı**, va'dalarıda ḫilāf, ḫiyāl-u-gumāndın [36-бет] taš**qarı**. Čın söz ki[4] ergä uluġ hunar dur, alar qašıda 'ayb-i **tamām**, yalġan ki[5] ḫalā'iqġa uluġ 'ayb dur, alar alıda hunar-i lā-**kalām**[6].

Maṯnavī: [Baḥr-i Ḫafīf (⏑⏑––/⏑–⏑–/⏑⏑–)]

Tan͡gdın aqšamġa išdä ṣan'at-sāz hunar aṭvārıdın[7] fusūn-pardāz

Äyläbän bu ṭarīqnı varziš ki birävgä yügürtkäylär iš

Ki[8] mu'addī ġanī yoq ersä faqīr an͡ga bāzī berürdä yoq taqṣīr [f.21(b)]

Ottuzunčı faṣl «Šiḥna va 'asas va zindānīlar[9] ḏikridä»

Daruġa va šiḥna va '**asas** oġrı-u-ḫūnīġa mumidd va faryād-**ras**. Zindān ahlı, dūzaḫ ahlı va 'asaslar malā'ik-i[10] '**aḏāb**, šiḥna Mālik-i dūzaḫ dek ḥukm-rān va 'ālī-**janāb**. Gunāh ahlı ṭawq-u-zanjīrġa giri**ftār**, bu zanjīr-u-ṭawqları «salāsil-u-aġlāl»dın namū**dār**.

Kīsa-bur bilä muqam**mir** 'asaslardın bāzār-u-qumār-ḫāna[11] musta'**jir**.

Zindān čāhıdın oġrılar kön͡gli tīraligi ma'**lūm**, jurm ahlığa anda parīšān kön͡güldä[12] ḫavāṭir dek hu**jūm**. Gunah-kārġa anda umīddın **bīm köpräk** va bad-kirdārġa anda 'ināddın tas**līm köpräk**. Har qatla ki[13] birävni tartıp čı**qarġaylar**, anda qalġanlar özläridin **barġaylar**. Qaytıp kelgänlärnin͡g naqlları **muvaḥḥiš** va ḫabar keltürgänlärnin͡g

---

[1] Naẓm [MS/b]. [2] «Sā'ir hunar-u-ṣan'at ahlı [MS/b]; «Sā'ir hunarvar va ṣan'at-pardāz [K, MS/c, UZ]. [3] Sā'ir hunar-u-ṣan'at-pardāz [MS/b]; Hunarvar va ṣan'at-pardāz [K, MS/c, UZ]. [4] kim [K, UZ]. [5] kim [UZ]. [6] mā-lā-kalām [K, MS/c, UZ]. [7] aṭvārıda [K, MS/b, MS/c, UZ]. [8] Gar [K, UZ]. [9] MS/b; «Šiḥna va zindānīlar va 'asaslar [K, MS/a, UZ]; «Šiḥna va zindānī va 'asaslar [MS/c]. [10] malā'ika-yi [K, MS/c, UZ]. [11] bāzār-u-qumār-ḫānaġa [K, MS/b, UZ]; bāzār-u-qumār-ḫānada [K/fn.]. [12] K, MS/b, MS/c, UZ; kön͡gül dek [K/fn., MS/a]. [13] kim [K, UZ].

mā-jarāla**rı mušavviš**. Biri dep ki dārġa čekärdä yaḫšı **turdı**, biri dep ki boynın čaparda yaḫšı ol**turdı**. Biri maqtūlnıng yigitli**gidin taḥassurda**[1], biri yatīmnıng rubā'ī oquġa**nıdın taḥayyurda**. Bu naw' ṣa'b **ḥāl bī-ḥadd** dur[2] va mundaq ġarīb aḥ**vāl bī-'add**[3].

'Amal ḥirṣı čaġı 'asas mujrimnıng **tutulmaġıġa sa'y**[4], ammā öz maṭlūbını ḥāṣil qılġandın sonġra **qutulmaġıġa dā'ī**.

Dunyāda bu manzil qiyāmat-kir**dār** dur[5] va [37-бет] maḥšarda dūzaḫdın namū**dār**. Band-u-zanjīrlıq gunah-kārlar šahr zin**dānıda** [f.22(a)] andaq ki 'išq muqayyadları[6] «baytu-l-aḥ**zān**»**ıda**. Tenġri barčanı bu yergä kel**türür af'āldın yıraq** tutsun va bu[7] manzilġa tü**šürür aḥvāldın qıraq**.

Bayt[8]: [Baḥr-i Hazaj (– – ⏑/⏑ – – ⏑/⏑ – – ⏑/⏑ – –)]

Bir manzil erür anda basī ranj-u-'uqūbat tüškän kišigä anda üküš dard-u-ṣu'ūbat

Bayt[9]: [Baḥr-i Mutaqārib (⏑ – – /⏑ – – /⏑ – – /⏑ –)]

Valī ol ḥaram ičrä bolġanġa ḫāṣṣ umīd ol-ki ham Tenġri bergäy ḫalāṣ

Ottuz birinči faṣl «Dihqānlıq ḏikridä»

Dihqān ki dāna **sačar**, yer yırmaq[10] bilä rizq yolın **ačar**. Agar rāstlıq-u-ṣalāḥı **bar dur**, uyı Ṣāliḥ nāqasıdın namū**dār dur**. Qošı ikki[11] ham-zūr[12] pah**lavān**, yükigä boyun sunup alıda **ravān**. İš qılurda ham-dam va ham-qa**dam**, dihqān alarnı sürärdä[13] andaq ki Ā**dam**. 'Ālam **ma'mūrluġı alardın**, 'ālam ahlı **masrūrluġı alardın**. Har qayan[14] qılsalar **ḥarakat**, elgä ham qut yetkürür ham **barakat**.

Dihqān ki tüzlük bilä dāna **sačar**, Ḥaqq birigä yetti yüz ešigin **ačar**. Sačqan dāna **kögärgünčä**, urup ḫarman qılıp maḥṣūlın **kötärgünčä**[15], qurt va quš andın bahra**mand**, dašt vaḥšı anıng bilä ḫur**sand**. Mūrlar öyi andın **ābād**, gūrlar ḫāṭırı anıng bilä **šād**. Kabūtarlarġa andın **mastlıq**, torġaylarġa [f.22(b)] andın nišāṭqa ham-**dastlıq**. Oraqčıġa

---

[1] K/fn., MS/b, MS/c, UZ; taḥayyurda [K, MS/a]. [2] *om.* [MS/b]. [3] bī-'add dur [K]; bī-'adad dur [MS/c, UZ]. [4] соний [UZ]. [5] *om.* [K, UZ]. [6] muqayyadları hajr [MS/b]. [7] *om.* [UZ]. [8] K, MS/b, UZ; Naẓm [K/fn., MS/a]; Maṡnavī [MS/c]; Rubā'ī [K/fn.]. [9] K; *om.* [MS/a, MS/b, MS/c, UZ]; Maṡnavī [K/fn.]. [10] yarmaq [K, UZ]. [11] ham [UZ]. [12] ham ikki zūr [UZ]. [13] суради [UZ]. [14] yan [K/fn., MS/b]; yan ki [MS/c]. [15] K, MS/b, MS/c, UZ; ketürgünčä [MS/a].

andın rūzī, bašaqčınıng yarup **andın közi**. Barzgarġa[1] andın kām **ḥāṣil**, pušta-kašġa andın murād **vāṣil**. Gadā **andın toq**, kad-ḫudā toqlugı ham **andın oq**. Musāfirġa andın ṭa'**ām** va mujāvirġa andın **kām**. Etmäkči tanūrı **andın qızıq**, 'allāf bāzārı **andın ıs**(s)**ıq**. Fuqarā' rizqı **andın vāfī**, ġurabā' qutı **andın kāfī**. Zāhidġa andın ḥużūr-i **ṭā'at**, 'ābidqa andın lāf-i qa**nā'at**. [38-бет] Sā'il ḫarīṭasıda andın muhayya' aq**ṭā'ı**, šāh ḫizānasıda andın baḥr-u-kān ma**tā'ı**. Dihqānnıng bir dāna sačarıda **bu ḥāl dur**, özgä išläri ta'rīfı **muḥāl dur**.

Bāġı jinnatdın namū**dār**, pālīzıda rūḥ qutı padī**dār**. Ašjārınıng har biri čarḫ-i **aḫżar**, ol šajar[2] rayāḥīn-u-favākihı nujūm va **aḫtar**. Fuqarā' sirka-u-dūš-**ābı andın**, aġniyā' nuql-u-may-i **nābı andın**. Gūnāgūn favākih bilä kim bāġda tazy**īn**, čaman mulkidä baġlanıp ta'bi'a va ā**yīn**.

Mundaq kiši keräk[3] buḫ**ldın mu'arrā bolsa** va kiḏb-u-imsāk**din mubarra' bolsa**[4]. Šāh mālın berürdin **ibā' qılmasa** va zabūn šarīkkä ja**fā' qılmasa** tā dānası durr-i sa'ā**dat**[5] **bergäy** va tuḫm sačıp anjum-i 'ulūv-i rif'**at tergäy**. Mundaq dihqān Ādamnıng farzand-i[6] ḫ**alafı dur**, balki marzūq[7] anga farzand va ol ādam-i **ṣafī dur**. [f.23(a)]

Qiṭ'a: [Baḥr-i Ḫafīf (–⏑––/⏑–⏑–/⏑⏑–)]

Kim ki dihqānlıġ äylädi pīša daġı nān bermäk oldı anga ši'ār

Buyla kimsä ulūv-i rif'atdın[8] Ādam olmasa, ādamī ḫ^{v}ud bar

Ottuz ikkinči faṣl «Yatīm-u-la'īmlar ḏikridä»

Awbāš bilä ar**ḏāl**[9] musalmānlar dek alarġa nī ma'āš va nī **ḫiṣāl**. İnsānīyat ṭab'larıdın **'ārī**, ḥayvānīyat balki sabu'īyat alarnıng ši'**ārı**.

Yatīm ki bıčaq ur**maq anıng iši bolġay**, özi telbä it, bı**čaq anıng tışı bolġay**. Saġlıġıda qu**tuz it**, üsrüklügidä andın qačıp **yüz it**. Panjaları nīš-i ajal qullābı nečük ki[10] dašt si**bā'ı**, öltürür kün üčün īmān[11] dek örgänip ru**bā'ī**. Yaḫšı-yamanġa sīḫaki[12]

---

[1] Barzagarġa [K, UZ]. [2] šajar va [UZ]. [3] keräk ki [K, UZ]. [4] *om.* [K, UZ]. [5] sa'ādat bar [K, MS/b, MS/c, UZ]; sa'ādat birlä bar [K/fn.]. [6] farzand-u [K]; farzandı [UZ]. [7] marzūqlar [K/fn., MS/b, UZ]. [8] himmatdın [MS/b]. [9] K, MS/c; arzāl [MS/a, MS/b]. [10] kim [K, UZ]. [11] īmān du'āsı [K/fn., MS/c, UZ]. [12] sögünč [K, UZ]; sīḫını [K/fn., MS/c].

yet**kürüp**, 'aqrab dek har[1] negä[2] ki yetsä, nīš **urup**. Nī 'aql alarda nī **dīn**, nī ḥayā' alarda nī tam**kīn**. İšläri nā-i'timādlıġ va nā-**pāklik**, varzišläri bī-murūvatlıġ va bī-**bāklik**.

Šahr tahınıng[3] sā'ir arḏālı[4] [39-бет] ḥašarātu-l-**arż**[5], alardın iḥtirāz «vājib» dur[6] balki «**farż**».

Bayt[7]: [Baḥr-i Mutaqārib (⏑––/⏑––/⏑––/⏑–)]

Ḫalā'iqġa[8] īḏā' alarġa ṣifāt nabī dedi kim <iqtalu-l-mu'ḏiyāt(a)>

Ottuz üčünči faṣl «Ġarīb-zādalar[9] ḏikridä»

Jet-u-**lūlī** köprägining mużḥik ḥarakātı va tüz **uṣūlı**. Mu'allaq urmaqlarıda ḫāksārlıġ **āškār**, sar-nigūn turmaġlarıda bī-i'tibārlıġ [f.23(b)] padī**dār**. Anānīyatları yüzigä tezäk salıp **čemender**[10], insānīyatları[11] dā'irası maymūnlarıġa **čanbar**. Kišilikdin segrimäklär[12] **bilä qačıp**, yaḫšılıġdın masḫaralıġlar bilä malāmat ešigin yüzlä**rigä ačıp**.

Bu kün tapqannı yep, tangla ġamın **yemäy**, tiläp nemä bermägändin šikāyat sözi **demäy**. Vaṭan-u-maskanläri ḫ^{v}ārlıġ vay**rānası**, manzil-u-ma'manları ḫāksārlıġ kā**šānası**. Tang atqač, er-u-ḫatunı kasb üčün tar**qašıp**, oġul-u-qızları kūy-u-kūčada but**rašıp**. Har qaysı har ne kim ḥāṣil **qılıp**, aqšam barča bir yergä yı**ġılıp**. Tapqanların tükätmägüncä uyqu maylı **qılmay**, «tangla ne yegümiz dur» demäk sözin **bilmäy**. Tangla išläri ötkän burunġı kün **iši**, bu ham bir iš dur agar qıla alsa **kiši**.

Bu raḏālat[13] kišilik takabburıdın **ḫūbraq** va bu żalālat yaḫšılıq taṣavvurıdın mar**ġūbraq**.

Naẓm[14]: [Baḥr-i Mujtaṣṣ (⏑–⏑–/⏑⏑––/⏑–⏑–/⏑⏑–)]

Kiši agar kiši bolsa, özin kiši demägäy qılurda hīč išin ham kiši iši demägäy

Ottuz törtünči faṣl «Mubrim gadālar ḏikridä»

---

[1] K, MS/b, MS/c; bir [MS/a]; *om.* [UZ]. [2] nečä [UZ]; nemägä [K/fn.]. [3] MS/b; Šahr tī(<tuhī)nıng/ Šuhratınıng [K, MS/a]; Šahrınıng [K/fn., MS/c, UZ]. [4] K; arzālı [MS/a, MS/b, MS/c]. [5] ḥašarātu-l-arż, ḫalā'iqġa [K/fn., MS/c, UZ]. [6] *om.* [MS/c, UZ]. [7] K, MS/b, MS/c, UZ; Naẓm [MS/a]; *om.* [K/fn.]. [8] Ḫalā'iq [K/fn., UZ]. [9] Ġarīb-u-bī-navālar [K, UZ]. [10] čamanvar [K, UZ]. [11] insānīyatlıġları [K/fn., UZ]. [12] segrimäk [K/fn., MS/b, MS/c]. [13] MS/c; razālat [K, MS/a, MS/b]. [14] Bayt [K, MS/c, UZ].

Tilänči-u-**gadā** köprägi bī-ġayrat va bī-**ḥayā'**. Kündüz kezmäkläri ibrām bilä eldin[1] **almaq üčün**, kečä [40-бет] kelip uġurlarġa el jihātıġa köz **salmaq üčün**. Nī ni'mat alıp mun'imdın **šākir**, nī in'ām tapıp mukrim 'uḏrıġa tilläri **ḏākir**. Yemäk bilä jū' ahlı dek mi'dalarıġa **tolmaq yoq**, [f.24(a)] tilämäk bilä mustasqī dek sudın sīr-āb **bolmaq yoq**.

Kadū[2] kačkūlı mamlū' bangīlar ḫāṭırı dek mutanavvi' ḫi**yālātıdın**, ḫarīṭası tola ri'ā'ī ṣūfīlar żamīrı dek mutalavvin ḫavāṭir **ḥālātıdın**. Har diram[3] kim[4] tügüp ġassāldın özgä kiši ačmaq mu**ḥāl**, har sīm kim gömüp tofraġdın özgä biräv anı yemäkkä yoq iḥti**māl**. Közläri «ḥirṣ»nıng «ṣād»ı va «ṭama'»nıng «**'ayn**»ı, bu ḥirṣ-u-ṭama'dın jān-u-köngülläridä maḥrūmluq **šaynı**.

Bular arasıda özigä qalandar at qoyġan **mal'ūn**, ādamīlıġdın maġbūn va dīv-u-šayṭān alıda **maṭ'ūn**. İnsānīyat-u-musalmānlıqdın **yıraq**, tonguz va ayıġ ādamīlıqda alardın yaḫ**ıraq**. Šikl taġyīrı bilä ādamīlıqdın ka**rāna**, pūstīn evürä keymäkläri ḥayvānlıġ-u-sabu'īyatdın ni**šāna**. Ulug-kičikdin har törlüklüktä[5] gadā-yi **muvaḥḥiš**, fāsid ḫavāṭir dek ṣāffī köngülgä **mušavviš**.

Rubā'ī[6]:

Bermäk bolmas bularġa[7] insān ḥukmı — yā ādam-u mu'min va musalmān ḥukmı

Fāsid aḫlāṭqa ki vājib dur daf' — bolġaymu kiši, beräy desä jān ḥukmı

Ottuz bešinči faṣl «Quščı va ṣayyād ḏikridä»

Quščı ṣayyādlarġa muqtadā' va ḥukm-**rān** va bu jamā'at angа ra'īyat va ma'mūr-i far**mān** kim elgidä bir[8] **quš**, kečä va kündüz ranj-u-mašaqqatqa **tuš**. Kečä uyqusı ḥa**rām** va emgäkdin yoq angа ā**rām**. Nafs[9] ḥaẓẓı üčün bir gunahsız ayaġıġa salıp [f.24(b)] **band** va uzun tünlär anıng 'aḏābı bilä ḫur**sand**. Amal rištasın ṭama'[10] ignäsigä **čekip**, ol bī-zabānnıng körär közin ham **tikip**. Maqṣūdı anı [41-бет] ṣay**yād qılmaq**, özgä jānlıġlar qaṣdıġa jal**lād qılmaq**.

---

[1] eldin nemä [K/fn., MS/c, UZ]. [2] Kadū va [UZ]. [3] har dam [MS/b, MS/c]. [4] ki [UZ]; *om.* [MS/b]. [5] törlükdä [K, MS/c, UZ]. [6] Naẓm [K/fn., UZ]. [7] alarġa [K/fn., MS/c, UZ]. [8] *om.* [UZ]. [9] Nafsı/ Nafsī [K/fn., MS/c]; Nafīs [UZ]. [10] *om.* [MS/b].

Kündüz dašt-u-vādīġa **čapıp**, bir nečä zabūnnı[1] ġāfil **tapıp**, yüz makr-u-ḥīla bilä qušın alarġa **salıp** va ol salġanı ol maẓlūmnı **alıp**. Aldurġandın soṅgra ol ṣayd bašı üstidä tutup **orun**, ol[2] qanı tolġan zabūnnı bismil qılmaqdın[3] **burun**, ne dey[4], qanatın suvurup qoltuġın mu **yara dur** va özi ol qātil šāgirdın šaġaf[5] bilä toy**ġara dur**. Nečä mundaqnıṅg ki[6] **qanın tökti**, qoltuġın yarıp qa**natın sökti**. Fitrākigä baġlap öyigä **yandı**, özi va quši qılġanlarġa qu**vandı**. Šūm nafs ḥaẓẓıġa bir ikki ayaġlarıġa irti**kāb qılġay** va alıda širalġasın ka**bāb qılġay**. Ba'żını ki[7] taṅgla begigä eltip **tartqay**, anıṅg iltifātıdın köṅgligä juldu ṭama'ı **artġay**.

Quš ta'rīfıda degäni bar**ča lāf** va öz taḥsīnıda sözlägäni barı **gazāf**. Munča maḏmūm[8] amrġa bā'iṣ nafs **kāmı**, ḫ^v^āh emgägi, ḫ^v^āh tamāšāsı, ḫ^v^āh kabābı, ḫ^v^āh begi in'**āmı**.

Maṯnavī: [Baḥr-i Mutaqārib (⏑––/⏑––/⏑––/⏑–)]

Bular bā'iṣı barča nafsānīyat ki anda emäs[9] dāḫil insānīyat

Qonalġa alıp qayda qonsa diram at, [f.25(a)] at[10] arpası[11], qušıġa ṭu'ma ham

Ottuz altınčı faṣl «Tarbiyat tapıp ḥarām-namaklik qılġan nökär[12] ḏikridä»

Nökär ki valī-ni'matdın **ri'āyat** körgäy va bek-u-maḫdūmıdın tarbiyat va **'ināyat**[13], erlik va insānīyat ol dur ki[14] muqābalasıda qulluq va ḫidmat-**kārlıq**, balki yak-jihatlıq va jān-si**pārlıq** qılġay va tilägäy ki[15] aṅga jān-fi**dā' etkäy** tā šafaqatı ḥuqūqın a**dā' etkäy**.

Ḥamīyat ol emäs ki maḫdūm yana birävgä köpräk multafit bolġandın šikāyat iẓ**hārı** qılġay va gilamandlıġ guft-u-gu**ḏārı** tā iš aṅga yetkäy ki[16] ni'mat kufrānı araġa **tüškäy** va ḥaqq nā-šināslıq ṭuġyānı [42-бет] mā-jarāġa sü**rüškäy**. Va bu ādamīsızlıq qačmaqqa mun**jar**(r) **bolġay** va 'adū ešigigä barurġa muqar**rar bolġay**. Özin birävgä qul dep qačqan[17] dä**däk** dur, balki dädäkdin yüz qatla kam**räk**[18], ba-taḥṣīṣ ki mufriṭ tarbiyat

---

[1] K, MS/b, MS/c, UZ; zabūnı [MS/a]. [2] *om.* [UZ]. [3] qılmasdın [K, MS/b, UZ]; etmäsdin [MS/c.]. [4] nedin [K]; nedin kim [K/fn.]; ne dey ki [UZ]. [5] ša'af [K, MS/b, MS/c, UZ]; šafaqat [K/fn.]. [6] kim [K, UZ]. [7] K/fn., MS/b, UZ; *om.* [K, MS/a, MS/c]. [8] mažmūn [UZ]. [9] *om.* [UZ]. [10] *om.* [K, MS/b, MS/c, UZ]. [11] arpası ham [MS/b, UZ]; arpası va ham [K]. [12] nökärlär/ навкарлар [UZ]. [13] 'ināyat körgäy [K, MS/c, UZ]. [14] kim [K, UZ]. [15] kim [K, UZ]. [16] kim [K, UZ]. [17] satqan [K/fn., UZ]. [18] kamräk dur [K, MS/c, UZ].

körmiš bolġay va muqābalada bī-andām lāflar **urmış bolġay**. Er[1] ki bir yerdin yana[2] bir yer**gä qačqay**, nā-mardlıq[3] tofraġın yigitlik[4] bašıġa **sačqay**.

Čūn mundaq kiši erlik sānıdın **narı dur** va yigitlik dā'irasıdın taš**qarı dur**, [f.25(b)] ḥākimī kim **kiyāsatı bar**, anınĝ qašıda mundaq kišigä qačan eränlär **siyāsatı bar**. Eränlärdin mardāna gunāh vujūdqa kelsä, boynıġa yüklängändin[5] sonĝ boynın **urarlar**, qızıl-yüzlük qılur üčün boynıġa tīġ **sürärlär**. Ammā anınĝ surḫ-rūluġıġa[6] gul-gūna sazā**vār dur** va yüz-aqlıġıġa munāsib sipīda **bar dur** kim qarı muḫannaṯ **mabhūt** va anınĝ ḫāla-zādası kaftār-i **fartūt**.

Širkat bilä maššāṭalıġ **tüzgäylär** va bu kelin zīb-u-zīnatıda[7] siḥrlar kör**güzgäylär**. Va qašın alıp vasmaġa šāyis**ta qılġaylar**, ammā vasmalarını payvas**ta qılġaylar**[8]. Saqalın qırqıp ikki qulaq tözlärigä zulflar āšufta **ḫāl qoyġaylar**, ammā ikki 'iḏārı ṭarafıdın čap va rāst ikki **ḫāl qoyġaylar**. Šarbatī[9] dastārın bašıġa bürünčäk qılġaylar ki 'arūs-i mastūra[10] va gard-i Yazd[11] **nā-mastūr**[12] **dur**. Kašīdalik yaġlıq[13] farqıġa[14] lačak salġaylar ki javān-muḫaddira[15]-u-ḥulla nāzuklügi **nā-maqdūr dur**. Bu naw' ārāsta qılġandın sonĝra čanbar-šāḫ yorġa uyġa teskäri min**dürgäylär** va šahrnınĝ kūy-u-maḥallātıġa kez**dürgäylär**[16].

Va agar varaq[17] yüz-qaralıġıdın uyat va qalam[18] qara-tillik bolurdın ḥijāb bolmasa, anĝa munāsib ḥarīflar **masṭūr** va anĝa muvāfiq 'āšiq**lar maḏkūr bolġay** [f.26(a)] **erdi** va 'ayš-u-nišāṭ bazmı qu**rulġay erdi**. Ammā andaq siyāh-rūy**nınĝ taqbīḥı**[19] va ol naw' qara-yüzlük**ninĝ tafżīḥı**, har nečä ki[20] 'ālam ahlıġa multa**mas** bolsa[21], munča oq **bas**[22] bolġusı dur.

Bayt[23]: [Baḥr-i Mujtaṯṯ (⏑–⏑–/⏑⏑––/⏑⏑–/––)]

---

[1] abr [UZ]. [2] *om.* [MS/b]. [3] K, MS/b, MS/c, UZ; nā-murādlıq [K/fn., MS/a]. [4] K, MS/b, MS/c, UZ; yigit [MS/a]. [5] yüklägändin [K/fn., MS/b]. [6] surḫluġıġa [MS/b]. [7] zīb-u-zīnatıdın [MS/b]. [8] *om.* (ammā vasmalarını ~ payvasta qılġaylar) [UZ]. [9] 'Āriyatī [K/fn., UZ]; 'Ārī [K/fn.]. [10] mastūra dur [K, UZ]. [11] gard-i Yazdī [K/fn., MS/c]; KRDYZ/ гардиз [K, UZ]. [12] K, MS/b, MS/c, UZ; nā-mastūra [MS/a]. [13] yaġlıġdın [K/fn., MS/b]. [14] *om.* [MS/b]; фарфиґа [UZ]. [15] maḥdūr(a) [K/fn., UZ]; maḥrūra [MS/c]. [16] kezdürgäylär. Niẓāragar el ṭa'n-u-tašnī' bilä kim «čār dāng-i sipāhīgarī gāv-mīš tāḫtan ast» dep faryād qılġaylar [K, UZ]. [17] varrāq [MS/b]; *om.* [UZ]. [18] *om.* [K, UZ]. [19] tawżīḥı/ тавзиҳи [UZ]. [20] MS/b; kim [K, UZ]; *om.* [K/fn., MS/a, MS/c]. [21] bolġusı dur [K, MS/c]; bolġay [K/fn.]. [22] *om.* (bolsa, munča oq bas) [UZ]. [23] K, MS/b, MS/c, UZ; Naẓm [K/fn., MS/a].

Bu naw' masḫaralıq elgä bas durur ḥayrat ki ölgäy ešitibän kimgä bar esä ġayrat [43-бет]

Ottuz yettinči faṣl «Kad-ḫudālıġ ṣifatıda[1] ḫatunlarnıng[2] ḏikridä»

Kad-ḫu**dālıġ** qutula almas balāġa mubta**dālıġ**, davāsız ranjġa ḫ^{v}ār-u-**zār bolmaq** va 'ilājsız emgäkkä giri**ftār bolmaq**. Agarča bu iš baštın ayaq alam va **āzār dur**, ammā anıng kayfīyatıda tafāvutlar **bar dur**[3].

Muvāfiq tüššä **kad-bānū**, dawlat-u-jam'īyatqa bolmaq durur **ham-zānū**. Öy**ning ārāyiši andın** va öylük**ning āsāyiši andın**. Jamālī bolsa, köngül**gä**[4] **marġūb**, ṣalāḥī bolsa, jān**ġa maṭlūb**. 'Āqila bolsa, rūzgārġa andın[5] **intiẓām** va ma'āš asbābıġa andın tartīb va sar-an**jām**. Bu naw' juft kišigä **qavušša**, balki mundaq kām-kārlıq elik**kä tüššä**, nihānī ġam-u-miḥnatda ham-rāz-u-ham-**damıng**[6] va maḫfī va pinhān[7] dard-u-mašaqqatqa[8] dam-sāz-u-maḥ**ramıng** bolġay. Rūzgārdın har jafā' yet**sä**, **anīsıng ol** va čarḫ-i davvārdın har ibtilā' kel**sä, jalīsıng ol**. Köng**lüng** ġamıdın ol ġam**nāk** va badanıng ża'f-u-malālatıdın ol ha**lāk**. [f.26(b)]

Agar ḥusn-u-jamālı or**ta čaġlıq dur** va muvāfaqatı rištası muḫālafat**qa baġlıq dur**, ḫawf va rajā' bilä **tirilmäk dur** va ḥikmat va mudārā[9] bilä ma'āš**nı bilmäk dur**. Kad-ḫudālıġnıng[10] ba'żī muškilı **bolsa āsān**[11], ammā[12] köpräk[13] ḥālıda kön**gül harāsān** dur. Bu naw'nı[14] ham nā-farjāmlıq bilä[15] va nā-kāmlıq bilä taḥammul qı**lılġay**[16] va har nečük bolsa, ötkä**rilgäy**.

Ammā[17] <na'ūḏ bi-llāhi> nā-sāz **juft** ergä[18] muhlik maraż dur āškār va ni**huft**. Salīṭa bolsa, köngül andın **ranja** va qabīḥa bolsa, rūḥqa[19] andın ši**kanja**. Yaman tiriklik[20] bolsa, abušqa köngli andın **yaralıġ**. Yaman išlik bolsa, ergä andın yüz-**qaralıq**. May-ḫ^{v}āra bolsa, öydin ābādlıġ bar-**ṭaraf**. Bad-kāra bolsa, öy andın baytu-l-**laṭaf**.[21]

---

[1] ṣifatı [MS/b]; ṣifatı va [K, MS/c, UZ]. [2] ḫ^{v}atunlarnıng [MS/b]; ḫatunlar [K, MS/c, UZ]. [3] *om.* (この形式段落全体) [UZ]. [4] *om.* [UZ]. [5] andın ṣalāḥ va [MS/c, UZ]. [6] ham-rāz-u-ham-damıng bolġay [K, MS/c, UZ]. [7] K, MS/b, UZ; pinhānī [MS/c]; nihān [MS/a]; *om.* [K/fn.]. [8] mašaqqatda [K, MS/b, MS/c]. [9] madār [K, UZ]. [10] Kad-ḫudānıng [K, UZ]. [11] āsān dur [K, UZ]. [12] *om.* [MS/b]. [13] K, MS/b, MS/c, UZ; köprägi [MS/a]. [14] naw' ne [UZ]. [15] *om.* [K, MS/b, MS/c, UZ]. [16] qılġay [K, MS/c, UZ]. [17] *om.* [MS/b]. [18] elgä [K/fn., UZ]; evgä [K]. [19] *om.* (andın ranja va qabīḥa bolsa, rūḥqa) [UZ]. [20] tillik [K, MS/b, MS/c, UZ]. [21] K, MS/b, MS/c; baytu-ṣ-ṢṬF/ baytu-t-TẒF/ baytu-l-LṬF [MS/a]; baytu-t-talaf [K/fn.]; *om.* (Yaman išlik ~ baytu-l-laṭaf) [UZ].

Ol-ki avval **maḏkūr** boldı va yoqqarıraq **masṭūr**[1], rūzgār anasıdın yüz yılda bir **tuġmas** va yüz min͡gdin bir yo**luqmas**. Yoluqqan kišigä tāj-i **tārak bolsun** va bu sa'ādat an͡ga mu**bārak bolsun**.

Ammā bu ṭā'ifanı Ḥaqq ta'ālā nāqiṣ va čap ya**ratıp dur** va kamāl-u-rāstlıġnı ḏātlarıdın hu**ratıp dur** va fi'lların[2] nā-**ḫ**^{v}**aš**[3] **qılıp dur** va köpräk [f.27(a)] eränlärni alarġa zabūn va bār-**kaš qılıp dur**. Fitna va makr alarġa **pīša**, afsūn va ġadr alarġa an**dīša**. Ḥaqq ni'matlarıġa **nā-sipās**, ḫalq yaḫšılıġlarıġa ḥaqq **nā-šinās**. Nā-ḥifāẓlıġ **dīnları**, nā-inṣāflıġ **āyīnları**. Ḫ^{v}ud-namā**lıġ**[4] **alarġa šīva**, ḫ^{v}ud-pasand**lıġ alarġa mīva**. Dīnlarıġa 'aql **yoqıdın quṣūr**, 'aqllarıda dīn **yoqıdın futūr**. Libāslarıda nafs law̱sıdın nā-**pāklik**, libāsātlarıda ḏāt ḫabāṯatıdın bī-**pāklik**[5].

Huš-yārları jahl mayıdın **mast**, üsrükläri may-u-ma'šūqa-pa**rast**. 'Ayb-bīnlıq na**ẓarları**, 'ayb-jūluq[6] hu**narları**. Kayd-u-farībda fusūn-**sāz**, makr-u-ḥīlada siḥr-par**dāz**. Bī-jurmlarġa qaṣd-u-ġaybatları qatl-pay**vand**, bī-gunahlarġa kiḏb-u-tuhmatları rāst-mā**nand**. Ḥaqq ṭara**fın tutmaqları muta'assir**, bāṭil jānibı**dın ötmäkläri muta'aḏḏir**. En͡glik bilä yüz qızartmaq alarġa taz**yīn**, söz aṯnāsıda yüzlärigä qara tilämäk alarġa ā**yīn**. Šah-zāda parī-ṣūrat abušqaġa išläri ġadr va bī-**dād**, zangī[7] dīv-ṣīrat oynašqa rasmları muḥabbat va itti**ḥād**. Pardada olturmaġlıġları ḥīla-**sāzlıġ**, yasanıp atlanmaġlıġları [f.27(b)] aspak-**bāzlıġ**. Čillaları[8] 'ankabūt **tārı**, ne parda-pūš bolġay bu naw' kišinin͡g parda-**dārı**[9].

Kanīz[10] ki eski sanajqa ġaza sürtkäy va titräy dürgän bašqa titrägüč **sančqay**, awlā ol dur ki falak anın͡g bašını ajal tašı bilä **yančqay**. Bu ṭā'ifadın agar qarı dädäk dur ki yasa**nurġa rāġib** dur va agar arpa yey almas ešäk dur ki naqšın afsār-u-**jolġa ṭālib**[11], bularnın͡g zabūn eränläri, yük tartar **ešäkläri** va 'ājiz qaltabānları va qulları[12] balki **dädäkläri**[13].

Andaq ki barı ḫalā'iqda tafāvut **bar**, bularnın͡g ham tafāvutları bī-ḥisāb dur va bī-

---

[1] masṭūr boldı [K, UZ]. [2] K, MS/b, MS/c; ḫaylların [K/fn., MS/a]. [3] 韻を踏むための発音。辞書的には nā-ḫ^{v}uš である。 [4] ḫ^{v}ud-namāylıġ [MS/b]. [5] *om.*（この形式段落全体）[UZ]. [6] 'ayb-jūylıq [K, MS/b, MS/c]. [7] K, MS/b, MS/c; zangī va [MS/a]. [8] ḥulla [MS/b]; ḥīla [K, MS/c]. [9] *om.*（この形式段落全体）[UZ]. [10] Kampīr [MS/b]; Kanīza [K]. [11] ṭālib dur [K, MS/c]. [12] K, MS/b; *om.* (va qulları) [K/fn., MS/a, MS/c]. [13] *om.*（この形式段落全体）[UZ].

šu**mār**[1]. Bu tafāvut üč qism **dur** ki[2] biri ʻavāmm dur va biri ḫavāṣṣ **dur** va biri ḫāṣṣu-l-ḫāṣṣ[3].

ʻAvāmmları bahā'im-u-sibāʻ-mā**nand**, ičmäk-u-yemäk-u-uyquġa ḫur**sand**. Ṭāʻatları zīb va **ārāyiš**, ʻibādatları zīnat va na**māyiš**. Šiʻārları İslāmdın ġaf**lat**, murād-u-kāmları fisqda[4] šuh**rat**[5].

Ḫavāṣṣları İblīs-šiʻār va dīv-**āyīn**. Šīvaları makr va pīšaläri **kīn**. Ṣavāb-ra'yları rīv va mak**kārlıq**, ṣalāḥ-u-taqvāları sitam [f.28(a)] va ġad**dārlıq**. Ġadr-u-makrda dīv **alar qašıda ġūl**, fasād-u-ḥīlada šayṭān **alar alıda kül**. Malā'ik alar qašıda balāhat bi**lä maʻyūb**, šayṭān alar alıda ḥamāqat**qa mansūb**. Ḫānavādalar buzmaq alarġa masjid[6] yasar dek **fan**(n), nā-ḥaqq qan[7] alarġa ölük tirgüzgänčä mustaḥ**san**. Yüz yaḫšılıqqa min͡g yamanlıġ **išläri**, nūš yetkürgängä nīš urmaq āsā**yišläri**. ʻİffat-u-ṣalāḥ öyi alardın bu**zuq**, ʻāfiyat-u-zuhd bināsı alardın yı**quq**[8].

Alar makrı taʻrīfıda köp ʻulūmda dānā va köp diqqatlıq ḥukamā' kitāblar taṣnīf e**tip durlar** va mujalladlar bi**tip durlar** va mubālaġalar bilä basṭlar **qılıp durlar** va hanūz özlärin ʻājiz va muqaṣṣir **bilip durlar**. Bu bir nečä parīšān kalimāt[9] bilä ne nawʻ taʻrīfların **etsä**[10] **bolġay** va tawṣīflarının͡g yüzdin birigä **yetsä bolġay**.

Ammā ḫāṣṣu-l-ḫāṣṣları bularġa ʻaks-i muṭ**laq**, ḥaqq-gūy va ḥaqq-šinās va tilläridä [44-бет] ḥaqq va kön͡gülläridä dağı **ḥaq**(q). ʻUlamā'-i İslāmġa alardın fā'ida-yi u**mīd**, awliyā'-i ʻiẓām alar anfāsıdın musta**fīd**. Anbiyā'-i mursalīn[11] alarġa mādiḥ bil**gil**, malā'ika-yi muqarrabīn alarġa egäči-sin**gil**. ʻİffat tārıdın bašlarıda miq**naʻ** [f.28(b)] va ʻiṣmat ḥullasıdın yüzläridä bur**qaʻ**[12]. Bu burquʻnı ol yüzdin Ḫaqq yıraq **qılmasun** va futūr yelidin bu parda ol vajhdın **ačılmasun**.

Ottuz sekkizinči faṣl «Ri'ā'ī mašā'iḫ[13] ḏikridä»

---

[1] šumār [MS/b]. [2] MS/b; *om.* [K, MS/a, MS/c]. [3] ḫāṣṣu-l-ḫāṣṣ dur [K, MS/c]; *om.*（この形式段落全体）[UZ]. [4] fisq va [MS/b]. [5] *om.*（この形式段落全体）[UZ]. [6] masājid [MS/b]. [7] K, MS/b, MS/c; *om.* [MS/a]. [8] *om.*（この形式段落全体）[UZ]. [9] kalāmāt [UZ]. [10] aytsa [UZ]. [11] mursalīnnı [K, MS/b, MS/c, UZ]. [12] 韻を踏むための発音（もしくは当時の現実的な発音）。辞書的には burquʻ である。 [13] šayḫlar [K/fn., MS/c, UZ].

Šayḫ-i ri'**ā'ī** ra'nālıq jilva-na**māyī**. Misī dur altun bilä rū-**kaš**, tašı ḫ^{v}uš-namāy va iči nā-**ḫ^{v}aš**[1] va ṣūratı darvīš**vaš** va ma'nīsı sarāsar **ġaš**(š). Va ārāstalıġı barča **qayd**, karāmātı tamām **šayd**.

'İmāması ri'āsat **yüki**, bašıda bir fāsid ḥiyāl har **tüki**. Egnidäki **muraqqa'** rang-āmīzlıġlar[2] bilä **mulamma'**. Ridāsı 'uyūbınıng parda-**dārı**, ri'ā' čarḫı egirgän har **tārı**. Misvāki ṭama' tışın ititürgä[3] saw**hān**, šāna-dānıda rīš-ḫand ālatı ni**hān**. Muhra-bāzlıġ tasbīḥın e**vürmäk**, uzunraq namāzdın[4] ġarażı el **körmäk**. Kulāh-i dawlat ol dawlatmandqa das**tār**, uzunraq 'ilāqası tülkü quyruġıdın namū**dār**. Maḥallsız ṣayḥası ba-ġāyat **savuġ** andaq ki vaqtsız ün[5] tartqan **tavuġ**. Ġaflatdın awrādıda **'alālā** nečük[6] ki[7] mastlar bazmıda durnā-**talālā**.

Barča kalimātı ḥīlat-an**gīz**, majmū' ḥarakātı ġaraż-ā**mīz**. Vāqi'ası barı **yasalġan**, uyġaġlıq[8] degäni bar**ča yalġan**. Samā'ı uṣūldın [f.29(a)] taš**qarı**, vajd-u-ṣa'qası ta'rīf āhangidin **narı**. Ṣūratıda munča pīč-dar-**pīč**, ma'nīsı ḫ^{v}ud baštın ayaq **hīč**. Bu ḫabīṯ ḏāt[9] va[10] munča **ārāyiš**, pāk[11] eränlär ḥālıdın anda na**māyiš**. Hayhāt hay**hāt**, uyat va yüz ming **uyat**.

Ṭurfa bu kim bu maẓharġa murīdlar ham **bar**, ḫidmatıda barča šīfta va bī-qa**rār**. Va ol bu dukkānnı yü**rütüp tadbīr bilä** va bu[12] ma'rakanı **tutup**[13] **tazvīr bilä** kim šayāṭīnġa maḥall-i[14] ḥay**rat** dur va dīv-i la'īnġa mūjib-i 'ibrat va naf**rat**[15]. [45-бет]

Naẓm: [Baḥr-i Ramal (–⏑––/–⏑––/–⏑––/–⏑–)]

Faqr ismı birlä munča šayd-u zarq-u bu ri'ā'

Salṭanat dek dur ki qılġay pādšāh-i būriyā

Bu agar darvīš özin qılsa gumān, ol pādšah

Yoq 'ajab čūn ikkisidä yoq turur 'aql-u-ḥayā'

Ottuz toqquzunčı faṣl «Ḫarābāt ahlı ḏikridä»

---

[1] 韻を踏むための発音。辞書的にはnā-ḫ^{v}ušである。 [2] rang-āmīzlıġ [K, MS/b, UZ]. [3] eltürgä [K, UZ]; eltü[r]gä [MS/c]. [4] namāz [MS/b]; namāzıdın [K/fn., MS/c]. [5] K, MS/b, MS/c, UZ; aḏān [MS/a]. [6] nečün [UZ]; andaq [K/fn., MS/c]. [7] kim [K, UZ]. [8] uyġaġlıqda [K, MS/b, MS/c]; uyġaġlıġıda [UZ]. [9] ḏātġa [K/fn., UZ]. [10] *om.* [UZ]. [11] *om.* [UZ]; va [MS/c]. [12] *om.* [UZ]. [13] qurup [K/fn., UZ]. [14] maḥalla [UZ]. [15] nafrat dur [K, MS/c, UZ].

Rind-i ḫarā**bātī** ki may ičmäk bilä ötär aw**qātı**, ḥubāb dek bāda havāsı **bašıda**, ṣurāḥī dek baš qoyar yeri sāġar **qašıda**. Dayrda har qayan ki bazmı **körüp**, sabū-kašlik vasīlası bilä özin yet**kürüp**, nāmūs dastārın bašıdın **alıp**, bir jur'a üčün may-furūš ayaġıġa **salıp**. May-ḫāna taraddudıdın[1] bī-ḫān-u-**mānlıġı**, paymāna ta'alluqıdın[2] bī-sar-u-sā**mānlıġı**. Har[3] muġ-bačča elgidin ki jāmı **tartıp**, Jamšīddın istiġnā'-u-šawkatı **artıp**. Muġ-baččalar yüzi alıda but-**parast**, dayr pīrı ayaġıda bašı tofraq**qa past**. [f.29(b)] Yaqası may-ḫ^{v}āra šūḫlar elgidin **čāk**, köng͡li ham alar 'išqı tīġıdın zaḫm**nāk**. Dayrda may gadālıġıġa ište**ġālı**[4], elgidä may-ḫānanıng͡ sınuq su**fālı**. Rusvālıġ kūyıda ayaġı yalang͡, **bašı ham**, bad-mastlar dast-burdıdın[5] mang͡layı zaḫmlıq, **qašı ham**.

Vujūd-i šaḫṣın qılur üčün pā-**māl**, majālisda yeri ṣaff-i ni'**āl**. Bašıġa 'imāma miḥnatı **artmay**, boynı[6] ridā' minnatın **tartmay**. Nafsı garča tofraqqa ham-**dast**, himmatı alıda falak **past**. Zamān navāyıdın[7] köng͡li **ġamsız**, falak ḥavādiṯıdın[8] ḫāṭırı **alamsız**. Vujūd-u-'adamdın bolmay harā**sān**, bar-u-yoq himmatı alıda yak-**sān**. Ṣurāḥī dek talḫ yıġlamaq**dın nišāṭı**, may dek ayaqqa tüšmäkdin **inbisāṭı**. Muġ dayrıda[9] bir dam sa**ġalmay**, dahr ḫayr-u-šarrıġa köz **salmay**, zamān yaḫšı-yamanı bilä **iši yoq**. Desä bolġay ki 'ālamda mundaq **kiši yoq**.

Dahr[10] ahlı ẓulmıdın mundaq ma'āšqa[11] mu**ḥiqq**, 'afv[12] raḥmatıġa musta**ḥiqq**. Vujūd may-kadası tofraġıda **fānī**, umīdı Ḥaqq [46-бет] karamıdın baqā-yi jāvi**dānī**. Rind-u-gadāġa ki[13] yetip bu iqbāl-u-daw**lat**, šāhlarġa anıng͡ ḫālıdın ārzū va ḥas**rat**.

Rubā'ī:

Rindī ki fanā' jāmını tartar payvast — dunyā bilä āḫiratqa ermäs pā-bast

Ḥaq(q) raḥmatı ummīdı bilä tün-kün mast — köp artuqraq ki zāhid-i zarq-parast

Umīd[14] ol-ki barı nā-murādlarġa Ḥaqq bu fanā' dawlatın qarīb qıl**ġay** va tawba sa'ādatı bilä baqā-yi jāvīd naṣīb et**käy**.

---

[1] K, MS/b, UZ; TRDYDYN [MS/a, MS/c]. [2] K, MS/b, UZ; ta'aqqulıdın [MS/a]; ta'līqıdın [MS/c]. [3] K, MS/b, MS/c, UZ; bir [MS/a]. [4] ašġālı [UZ]. [5] K, MS/b, MS/c, UZ; sitīzıdın [MS/a]. [6] boynıda [K, MS/c, UZ]. [7] navāsıdın [MS/b, MS/c]; навойибидин [UZ]. [8] havāsıdın [UZ]. [9] dayrı dek [UZ]. [10] Dawr [MS/b]. [11] ma'āš [UZ]. [12] Ḥaqq 'afv-u [K, UZ]; 'afv-i Ġafūr [MS/b]; Ḥaqq ta'ālanıng͡ 'afūv [MS/c]. [13] kim [K, UZ]. [14] Ammā umīd [MS/b].

Qırqınčı faṣl «Darvīš-[f.30(a)]-lär ḏikridä»

Dar**vīš** ol dur ki[1] bolġay riżā'-an**dīš**. Agar ičidä bolsa yüz **nīš**, tašı bolġay marham-āyīn va mulā'amat-**kīš**[2].

Darvīš keräk ki[3]: ṣidq-u-fanā' ṭarīqın **tüzgäy** va özin nečük ki bar, andaq kör**güzgäy**. Anānīyat ġilẓatıġa qattıġ riyāżatlar bilä ṣafā' ber**miš bolġay** va nafsānīyat šiddatıdın 'aẓīm mujāhadalar bilä čıqıp, faqr ṭarīqıġa kir**miš bolġay**, balki vujūd tafriqası vādīsı qaṭ' **etmiš bolġay**[4] va fanā'[5] dāru-l-amānı[6] jamā'at-ḫānasıġa **yetmiš bolġay**. Himmatı naẓarıġa <mā sawiya Allāha> nā-maw**jūd**, balki vujūd-i muṭlaqdın özgä barča nā-**būd**. İči tašı bilä muvāfiq balki **arıġraq**, bāṭını ẓāhirı bilä musāvī balki **yaruġraq**. Agar ẓāhırıda bāṭin iḫfāsı üčün körünsä **ġaš**(š)**lıq**[7], andın murādı bolsa malāmat-**kašlıq**.

Bāṭin **ṣāf**(f)**ı** ẓāhir[8] tīraligigä ne[9] mu**nāfī**. Darvīš tonı yır**tuq** andaq dur[10] ki[11] ganj makānı bu**zuq**. Ṣafā'[12] ahlı ča**pānda**[13] andaq dur[14] ki[15] Farīdūn ganjı vay**rānda**. Ma'nī ahlıda[16] ḥaqīqat maḫ**fī** va ṣūrat ahlınıng ḥaqīqatı[17] **da'vī** va da'vī ḥaqīqatda bī-**ma'nī**.

Eränlär ḥālları ṣūratın ya**šurup turlar** va malāmat ṣūratıda na'l bāz-gūna **urup turlar** va ẓāhirları bināsın **buzup turlar** va bāṭinları [47-бет] asāsın **tüzüp turlar**. Qażādın ne kelsä, özlärin riżāġa ya**sap turlar** va 'ālam ahlınıng qattıġ-ranj-u-irik-malāmatıġa **čıdap turlar**. Yemäk-u-ičmäkdin ke**čip durlar**, Ḥaqq riżāsın istärdä [f.30(b)] ġam yep qan i**čip durlar**. Riżā'-u-taslīm zāviyası ma**qāmları**, faqr-u[18]-fanā' bādiyasıda **ārāmları**. Ādāb[19] va tavāżu' alarġa **kīš**, dušman-u-dūstġa nīk-an**dīš**. Bu ṣifat va āyīn bilä bolġan erür dar**vīš**.

Rubā'ī:

Yā Rab(b) ki fanā' qušını rāmım äylä — rāmım demäyin ki ṣayd-i dāmım äylä

Ham faqr ṭarīqıda ḫurāmım äylä — ham zāviya-yi fanā' maqāmım äylä

---

[1] kim [K, UZ]. [2] MS/b; malāmat-kīš [K, MS/a, MS/c, UZ]. [3] kim [K, UZ]. [4] MS/b; *om.* (balki vujūd ~ etmiš bolġay) [K, MS/a, UZ]; balki vujūd tafriqasıġa yetmiš bolġay [MS/c]. [5] fanā'-dār [MS/a]. [6] K, MS/b, UZ; *om.* [MS/a, MS/c]. [7] *om.* [UZ]. [8] *om.* [MS/b]. [9] MS/b, MS/c. *om.* [MS/a]; tīraligi kānı [K, UZ]. [10] turur [K, UZ]. [11] kim [K, UZ]. [12] sarā/ capo [UZ]. [13] jahānda [K, MS/c, UZ]. [14] durur [K, UZ]. [15] kim [K, UZ]. [16] ahlı [K, MS/b, UZ]. [17] ḥaqīqī [UZ]. [18] *om.* (faqr va) [UZ]. [19] Adab [K, MS/b, MS/c, UZ].